

平成23年度

〔2011〕

履修の手引

【大学院】

本手引の内容は学生ポータル STEP-USP にも登載されています

大学ホームページからも閲覧可能です。

(トップページの「大学インフォメーションから
「教育プログラム」へ進んでください。)

本手引の第2章および第3章「講義概要」
は抜粋版です

詳しい「講義概要」については、学生ポ
ータル STEP-USP で確認してください

<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/syllabusgaku/>

目 次

第 1 章 科目履修の手引

1	学期および授業	1
2	履修の登録	2
3	成績評価および単位の認定	3
	滋賀県立大学大学院履修規程	4
	滋賀県立大学学位規程	6

第 2 章 博士前期課程講義概要

環境科学研究科博士前期課程	科目履修の手引	11
開講科目の講義概要		18
工学研究科博士前期課程	科目履修の手引 ◆材料科学専攻	39
工学研究科博士前期課程	科目履修の手引 ◆機械システム工学専攻	43
開講科目の講義概要		46
人間文化学研究科博士前期課程	科目履修の手引 ◆地域文化学専攻	63
人間文化学研究科博士前期課程	科目履修の手引 ◆生活文化学専攻	65
開講科目の講義概要		71
人間看護学研究科修士課程	科目履修の手引	97
開講科目の講義概要		105
副専攻近江環人地域再生学座の履修について		125
開講科目の講義概要		127

第 3 章 博士後期課程講義概要

環境科学研究科博士後期課程	科目履修の手引	131
開講科目の概要		132
工学研究科博士後期課程	科目履修の手引	139
開講科目の概要		140
人間文化学研究科博士後期課程	科目履修の手引	143
開講科目の概要		144

第 4 章 資格取得等の手引

1	本学における教育職員専修免許の取得について	149
2	建築士試験の受験資格にかかる大学院での実務経験について	156
3	近江環人（コミュニティ・アーキテクト）の称号取得について	156
4	インターンシップについて	157
	開講科目の概要	158

科目索引	159
------	-----

【第 1 章 科目履修の手引】

1 学期および授業

(1) 学期

本学は、1 学年を前期と後期に分ける**前期・後期制**を採用しています。
授業は、開講学期によって次のように区分されます。

- ◆ **前期科目**：前期のみで授業を完結する科目
- ◆ **後期科目**：後期のみで授業を完結する科目
- ◆ **通年科目**：前期と後期を通じて授業を行う科目
(※ 科目によっては2年間を通じて開講される場合もあります)

また、実施方法によって、次のように区分されます。

- ◆ **通常授業**：原則として毎週行われる授業
- ◆ **集中授業**：一定時期に集中的に連続して行われる授業

(2) 授業時間

本学の授業時間帯は次のとおりです。ただし、実験などでは次の時間帯とは異なる場合があります。

1 限	9時00分～10時30分
2 限	10時40分～12時10分
休 憩	
3 限	13時10分～14時40分
4 限	14時50分～16時20分
5 限	16時30分～18時00分
6 限	18時10分～19時40分
7 限	19時50分～21時20分

(3) 気象警報の発令・公共交通機関の不通と授業についての措置

暴風警報等が発令された場合または公共交通機関が全面運行停止 (※) となった場合、授業については以下の措置をとります。

気象・交通状況	授業についての措置
滋賀県全域もしくは滋賀県北部全域または湖東全域または彦根市に暴風警報または暴風雪警報が発令されたとき	①発令中は休講 ②午前7時現在発令中の場合、午前中休講 ③午前10時現在発令中の場合、午後は休講
公共交通機関が全面運行停止となったとき (ストライキ、災害、事故等)	①午前7時までに解除・開通の場合は、平常通り授業 ②午前8時30分までに解除・開通の場合は2時限目より授業開始 ③午前10時までに解除・開通の場合は3時限目より授業開始 ④正午までに解除・開通の場合は4時限目より授業開始 ⑤正午をすぎても解除・開通しない場合は全時限休講

※ 「公共交通機関が全面運行停止」とは、JR 西日本琵琶湖線 (京都―米原間) の全線または一部線区が全便不通の場合をさします。

- 休講情報については随時更新されますので、掲示板や学生ポータル「STEP-USP」で確認してください。

2 履修の登録

授業を履修して単位を修得するためには、履修登録の手続きをする必要があります。

これを怠ったり、誤ったりすると単位が認定されないこととなりますので、慎重に行ってください。履修する科目の決定は、履修の手引や授業時間割表などを熟読の上、指導教員の指導を受けて行ってください。

(1) 履修関係資料の配付

履修関係資料は、授業時間割表と共に、学年当初のオリエンテーション時または教務グループカウンターで配付します。（後期課程の時間割表は配布しません。）

① Web 履修登録

<博士前期課程>

各学期初めに設定される履修登録・確認期間中に、学生ポータル「STEP-USP」上でWeb履修登録を行ってください。

<博士後期課程>

各学期初めに設定される履修登録・確認期間中に、学生ポータル「STEP-USP」上でWeb履修登録を行ってください。（時間割表を作成していないため、全ての科目は実習・集中講義等として表示されます。）

※履修登録・確認期間中は履修登録の内容の修正が可能となっておりますが、履修登録・確認期間終了後の履修登録の変更は受け付けませんので、充分検討したうえで履修登録してください。

② 履修できない科目

次に掲げる授業科目は履修できませんので注意してください（滋賀県立大学大学院履修規程第3条）。

- ① 履修登録をしていない授業科目
- ② 既に単位を修得した授業科目
- ③ 授業時間が重複する科目

(2) 登録の確認

学生ポータル「STEP-USP」上で履修登録内容を確認できます。

3 成績評価および単位の認定

(1) 成績評価

成績の評価の基準は次のとおりで、成績通知書、成績証明書の評価欄には、優・良・可・不可で記載します。

評 点	評 価
80点以上	優
70点以上80点未満	良
60点以上70点未満	可
60点未満	不可

そのほかに、点数で表現できない成績として「合格」「不合格」あるいは「認定」で表示することがあります。

(2) 単位の認定

優、良、可および合格ならびに認定の場合は、単位の修得が認められます。
不可および不合格の場合は、単位の修得は認められません。

(3) 成績通知

成績の通知については、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務グループから本人に対し親展扱いで自宅（下宿）あて郵送します。

なお、前期の成績通知書には、前期に履修した科目（一部集中講義科目等を除く。）の成績を記載しています。後期の成績通知書には、前期と後期を合わせた年間の成績を記載しています。

※注：成績通知書は紛失しても再交付は行いません。大切に保管し、各自の修得単位数の管理に役立ててください。

(4) 成績評価の根拠等についての教示について

本学では、学生は自らの成績評価にかかる根拠等について、当該科目の担当教員に対して教示を求めることができます。

当該科目の担当教員に成績評価の根拠等について教えてもらいたい場合は、オフィスアワー等を活用して研究室を訪ねてみることもできますし、学生支援センター長（学生支援センター教務担当）を通じて、書面にて担当教員へ願い出ることもできます。

ただし、書面にて教示を願い出ることができる期間は、成績が通知された日から原則として3週間以内となりますので、ご注意ください。詳細については、学生支援センター教務担当までご相談ください。

※次ページ以降に本学大学院履修規程および本学学位規程を掲載しています。

詳細については、それらを参考にするとともに、研究科・専攻ならびに指導教員の指示に従ってください。

公立大学法人滋賀県立大学大学院履修規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、公立大学法人滋賀県立大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第19条の4の規定に基づき、授業科目の履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(履修の登録)

第2条 学生は、履修しようとする授業科目について、所定の期日までに履修登録を行わなければならない。

(履修の禁止)

第3条 次に掲げる授業科目は、履修することができない。

- (1) 登録をしていない授業科目
- (2) 既に単位を修得した授業科目
- (3) 授業時間が重複する科目

(授業科目等)

第4条 授業科目の種類、配当年次、単位数、必修・選択の別および修了要件は、別表1のとおりとする。

2 教育職員の免許取得に必要な教科に関する科目の種類、単位数および必修・選択の別は、別表2のとおりとする。

(学部等の授業科目の履修)

第5条 修士課程および博士前期課程の学生は研究科会議の議を経て、研究科長の認めるところにより、授業科目担当教員の承認を得て、学部の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により修得した単位は、修了の要件となる単位に算入しない。

3 博士後期課程の学生は、研究科会議の議を経て、研究科長の認めるところにより、授業科目担当教員の承認を得て、学部、修士課程および博士前期課程の授業科目を聴講することができる。

(修士論文および博士論文の提出)

第6条 修士課程および博士前期課程において所定の授業科目を30単位以上修得した者または修得見込みの者は、修士論文を提出することができる。

- 2 博士後期課程において、所定の授業科目を4単位以上修得した者または修得見込みの者は、博士論文を提出することができる。

(試験)

第7条 定期試験は、学期末に期間を定めて行う。ただし、実験、演習等については、試験を行わずに成績を定めることがある。

- 2 前項の規定にかかわらず、授業科目によっては随時試験を行うことがある。

(成績評価)

第8条 授業科目の成績の評点は、試験の成績および平常の成績等を総合して、100点満点で採点する。

- 2 成績の表示は次のとおりとし、優、良および可を合格とし所定の単位を与える。

評 価	評 点
優	80点以上
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

- 3 前項のほか、評点を付さない授業科目については、合格、不合格をもって表す。

- 4 修士論文の審査、博士論文の審査および最終試験の成績評価は、合格または不合格をもって表す。

(委任)

第9条 この規定に定めるもののほか、授業科目の履修方法等に関し必要な事項は、研究科会議が定める。

公立大学法人滋賀県立大学学位規程

(趣 旨)

第1条 この規程は公立大学法人滋賀県立大学学則第49条第2項および公立大学法人滋賀県立大学大学院学則第25条第4項の規定に基づき、学位に関し必要な事項を定めるものとする。

(学 位)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士および博士とする。

(授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、本学大学院の修士課程または博士前期課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

4 前項に規定するもののほか、博士の学位は、大学院学則第25条第3項に規定する者にも授与する。

(学位授与の申請)

第4条 前条第2項の規定による修士の学位の授与を申請する者は、所定の学位申請書に修士論文を添えて、研究科長に提出しなければならない。

2 前条第3項の規定による博士の学位の授与を申請する者は、所定の学位申請書に博士論文、博士論文の要旨、論文目録および履歴書を添えて、研究科長に提出しなければならない。

3 本学大学院の博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた後退学した者については、退学後3年以内に限り、前項の規定を準用する。この場合において、同項に規定する書類のほか、単位修得証明書および研究指導認定書を添え、当該者が在学していた研究科の研究科長に提出するものとする。

4 前条第4項の規定による博士の学位の授与を申請する者は、第2項に規定する書類に学位論文審査手数料を添えて、研究科長を経由して学長に提出しなければならない。

(学位論文)

第5条 修士論文または博士論文（以下「学位論文」という。）は1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 前項の学位論文の審査のため必要があるときは、学位論文の訳本、学位論文の内容に関連のある模型、標本および参考資料等を提出させることができる。

3 受理した学位論文および学位論文審査手数料は、返還しない。

(学位論文の付託)

第6条 第4条に規定する学位申請書を受理したときは、研究科長または学長は、その審査を研究科会議に付託するものとする。

(学位論文の審査)

第7条 学位論文の審査は、研究科会議において審査委員会を設けて行う。

2 審査委員会は、研究科会議を構成する教授3人以上の委員で組織する。

3 前項の規定にかかわらず、研究科会議が必要と認めたときは、2人以内に限り、本学大学院の教授、准教授、講師および助教をもって委員に充てることができる。

4 前2項に規定する者のほか、研究科会議が必要と認めたときは、他の大学の大学院または研究所等の教員等を委員として加えることができる。

(最終試験)

第8条 最終試験(第3条第4項の規定による学位の授与を申請した者にあつては、試験をいう。以下同じ。)は、審査委員会が学位論文および当該論文に関連する事項について、口頭または筆記により行う。

(学力の確認)

第9条 第3条第4項の規定による学位の授与を申請した者については、審査委員会が論文審査および最終試験に併せて、本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認(以下「学力の確認」という。)を行うものとする。

2 学力の確認は、学位論文に関連のある専門分野および外国語について、口頭および筆記により行うものとする。ただし、研究科会議において必要と認める場合は、他の方法によることができる。

(審査期間)

第10条 修士論文の審査および最終試験の時期は、申請書受理後1月以内とし、博士論文の審査および最終試験ならびに学力の確認は、申請書受理後1年以内に終了しなければならない。ただし、特別の事情があるときは、研究科会議の議を経て、期間を定めて延長することができる。

(審査結果の報告)

第11条 審査委員会は学位論文の審査および最終試験ならびに学力の確認を終了したときは、論文内容および審査結果の要旨ならびに最終試験の結果ならびに学力の確認の結果を研究科会議に報告しなければならない。

(審査結果の議決)

第12条 研究科会議は、前条の報告に基づき、学位授与の合否について、議決する。

2 前項の議決は、研究科会議の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

(学長への報告)

第13条 研究科長は、研究科会議が前条第1項の議決を行ったときは、その結果を学長に報告しなければならない。

(学位授与)

第14条 学長は、前条の報告に基づき、修士または博士の学位を授与すると決定された者には学位記を交付して学位を授与し、修士または博士の学位を授与しないと決定された者にはその旨を通知する。

(専攻分野の付記)

第15条 前条の規定により授与する学位には、次のとおり、専攻分野の名称を付記する。

学位の別	学部および研究科の名称	専攻分野の名称
学 士	環 境 科 学 部	環 境 科 学
	工 学 部	工 学
	人 間 文 化 学 部	人 間 文 化 学
	人 間 看 護 学 部	看 護 学
修 士	環 境 科 学 研 究 科	環 境 科 学
	工 学 研 究 科	工 学
	人 間 文 化 学 研 究 科	人 間 文 化 学
	人 間 看 護 学 研 究 科	看 護 学
博 士	環 境 科 学 研 究 科	環 境 科 学
		学 術
	工 学 研 究 科	工 学
	人 間 文 化 学 研 究 科	人 間 文 化 学
学 術		

(学位の名称)

第16条 本学において学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「滋賀県立大学」と付記する。

(学位授与の取消)

第17条 本学において学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または、その名誉を汚辱する行為があったときは、学長は、学士の学位については教授会の議を経て、修士および博士の学位については研究科会議の議を経て、学位を取り消し、学位記を返納させ、かつ、その旨を公表する。

2 前項に規定する議決は、第12条第2項の規定を準用する。

(学位記の様式)

第18条 学位記の様式は、別記様式第1号、様式第2号、様式第3号および様式第4号のとおりとする。

(論文要旨等の公表)

第19条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、当該学位授与に係る学位論文の内容の要旨および学位論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

(学位論文の印刷公表)

第20条 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を印刷公表しなければならない。ただし、当該学位を授与される前に既に印刷公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事情がある場合には、本学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合において、本学は、その学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定により学位論文または学位論文の内容を要約したものを印刷公表する場合は、本学審査学位論文またはその要約である旨を明記しなければならない。

(学位授与の報告)

第21条 学長は、博士の学位を授与したときは、学位簿に登録し、文部科学大臣に報告するものとする。

(委任)

第22条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

【第2章 博士前期課程の講義概要】

本手引の「講義概要」は抜粋版です

詳しい「講義概要」については、学生ポータル STEP-USP で確認してください

環境科学研究科博士前期課程 科目履修の手引

(※ 項目1～3については、環境動態学専攻と環境計画学専攻の両方に共通)

1 科目履修上の注意

- ① 科目履修にあたっては、各学生ごとに設置されるコミティ（下記参照）の主・副指導教員による指導を受けること。
- ② 科目の配当年次に記された「1・2」の意味は1年次、2年次のいずれかで履修が可能という意味で、両年次にわたって履修するという意味ではない。「1～2」と記された科目については1、2年次とも通年で履修しなければならない。

2 環境科学研究科博士前期課程修了要件

年次別配当表に記された科目から、環境動態学専攻は、必修科目 18 単位、選択科目 12 単位以上の計 30 単位以上を、環境計画学専攻は、必修科目 16 単位、選択科目 14 単位以上の計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し、論文審査に合格すること。

ただし、他専攻の科目を選択科目の単位に含めることができる。

また、大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P126 を参照すること。

なお、平成 19 年度以前入学生については、従前どおりとなる。

3 コミティ制について

学生は、入学時に選択した研究領域の教員の中から主指導教員を選び、その教員と相談の上研究テーマを決定する。

主指導教員は、学生の研究の意図や方法などを考慮しながら、複数の副指導教員を選び、学生の合意を得て研究指導のためのコミティを設置する。コミティは、学生の研究のみならず、講義科目履修についても学生に助言し、研究を推進するための幅広いバックグラウンドをもたせるよう指導する。コミティの副指導教員には、他研究領域の教員だけでなく、他専攻あるいは他研究科の教員等をも委嘱できる。

4 (1) 環境動態学専攻 年次別配当表

授業科目の名称	担当教員	配当 年次	期間	単位数			備考
				必修	選択	自由	
(研究科共通)							
GIS/リモートセンシング論	岩間、香川	1・2	前期		2		
環境リスク論	井手	1・2	後期		2		
Environmental Sciences in Japan	井手、村上、高橋、丸尾、伴、堂満、杉浦、林	1・2	前期		2		
(生物圏環境研究部門)							
水資源環境論(*2)	金木	1・2	前期		2		
大気水圏環境論	倉茂、堂満	1・2	前期		2		
陸面過程論(*1)	小谷	1・2	前期		2		
土壌環境論(*1)	皆川	1・2	前期		2		
化学物質動態論(*2)	須戸	1・2	前期		2		
生物圏環境論	柳、堀野	1・2	前期		2		
(生態系保全研究部門)							
物質循環論	永淵、倉茂、浜端、尾坂	1・2	前期		2		
水圏生態系動態論	伴、永淵、熊谷	1・2	前期		2		
森林生態学特論	野間、浜端	1・2	前期		2		
集水域環境論	三田村、肥田、後藤	1・2	後期		2		
生態系影響論	浦部、丸尾	1・2	後期		2		
生物社会共生論	西田	1・2	後期		2		
生物多様性論	荒木	1・2	後期		2		
生態系保全特別講義	鹿野、寺井、高倉	1・2	前期		2		
(生物生産研究部門)							
持続的生物生産論	上田、泉	1・2	後期		2		
植物遺伝資源論(*1)	長谷川	1・2	前期		2		
動物生産環境論	岡野、杉浦	1・2	後期		2		
生産環境管理論	鈴木、沢田	1・2	前期		2		
植物資源管理論(*2)	原田	1・2	前期		2		
遺伝子工学特論	入江、清水	1・2	後期		2		
(専攻共通)							
環境動態学特別演習Ⅰ	専攻教員全員	1	通年	4			
環境動態学特別演習Ⅱ	専攻教員全員	1・2	通年	4			
環境動態学特別研究Ⅰ	専攻教員全員	1	通年	4			
環境動態学特別研究Ⅱ	専攻教員全員	1・2	通年	4			
環境動態学プレゼンテーションⅠ	専攻教員全員	1	通年	1			
環境動態学プレゼンテーションⅡ	専攻教員全員	1・2	通年	1			
(就職関連)							
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

4 (2) 環境計画学専攻 年次別配当表

授業科目の名称	担当教員	配当 年次	期間	単位数			備考
				必修	選択	自由	
(研究科共通)							
G I S / リモートセンシング論	岩間、香川	1・2	前期		2		
環境リスク論	井手	1・2	後期		2		
Environmental Sciences in Japan	井手、村上、高橋、丸尾、伴、堂満、杉浦、林	1・2	前期		2		
(環境意匠研究部門)							
環境造形特論	松岡	1・2	前期		2		
建築設計特論	柴田 (い)	1・2	前期		2		
建築デザイン特論	高柳	1・2	前期		2		
ランドスケープデザイン特論	村上	1・2	後期		2		
地域空間計画学	水原	1・2	後期		2		
環境設計特論	布野	1・2	後期		2		
建築史特論	富島	1・2	前期		2		
生活空間計画学	迫田	1・2	前期		2		
建築計画特論	ヒメス ヘルデホ, ホン ラモン	1・2	後期		2		
安全防災計画学	高田、小濱	1・2	前期		2		
居住環境工学	伊丹	1・2	後期		2		
建築構造特論	高田	1・2	後期		2		
建築技術特論	陶器	1・2	前期		2		
環境計画学特別演習 I A	部門教員全員	1	通年	}	4	I A、I Bの いずれかを選択 II A、II Bの いずれかを選択	
環境計画学特別演習 I B	部門教員全員	1	通年				
環境計画学特別演習 II A	部門教員全員	1・2	通年	}	4		
環境計画学特別演習 II B	部門教員全員	1・2	通年				
(地域環境経営研究部門)							
国際農林環境政策論	富岡、高橋	1・2	後期		2		
廃棄物とリサイクル	富岡、金谷	1・2	前期		2		
地域資源経営論	増田 (佳)	1・2	後期		2		
資源循環と国際貿易	林、増田 (清)	1・2	前期		2		
参加型計画運営論	近藤、小野	1・2	前期		2		
環境政策形成過程論	金谷、柴田 (裕)、未定	1・2	後期		2		
環境開発論	秋山	1・2	前期		2		
環境計画学特別演習 III	部門教員全員	1	通年	4			
環境計画学特別演習 IV	部門教員全員	1・2	通年	4			
(専攻共通)							
環境計画学特別研究 I	専攻教員全員	1	通年	4			
環境計画学特別研究 II	専攻教員全員	1・2	通年	4			
(就職関連)							
インターンシップ C	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップ D	就職指導担当教員	1	前期			2	

* 1 奇数年度 (H23, H25, . . .) に開講される。

* 2 偶数年度 (H24, H26, . . .) に開講される。

- ・ 環境動態学専攻の「環境動態学プレゼンテーション I, II」は、平成 20 年度入学生より適用される。
- ・ 平成 20 年度以前の入学生については、環境意匠研究部門の「環境計画学特別演習 I A, I B」を「環境計画学特別演習 I」に、「環境計画学特別演習 II A, II B」を「環境計画学特別演習 II」に、地域環境経営研究部門の「国際農林環境政策論」を「国際生物資源開発論」に、「廃棄物とリサイクル」を「地域環境連関論」に、「エコロジー経済学特論」を「地域環境経済論」に、「資源循環と国際貿易」を「地域資源経済論」に、「環境政策形成過程論」を「環境政策運営論」にそれぞれ読み替える。

5 環境科学研究科における学位論文審査基準

環境科学研究科の学位論文(博士前期課程)に係る審査は、以下のとおりとする。

- (1) 学位論文(環境意匠研究部門については設計を含む)の審査は、大学院学則第23条第1項および第2項の条件を満たす者について、審査委員会が行う。
- (2) 審査委員会は、学位規程第7条に基づいて3名以上の委員で構成する。
- (3) 審査は、各研究分野における新たな知見を含み、学位に相当する水準にあると判断される研究成果について執筆されている学位論文について行う。審査の内容については専攻または研究部門において別途定める。
- (4) 審査の過程で学位論文の内容に誤りが指摘された場合、審査委員長は、期日までに再提出させる。
- (5) 最終試験は、学位規程第8条に基づいて審査委員会が学位論文に関する事項について、学位論文発表会または報告会で口頭により行う。

環境動態学専攻 審査の内容

- ① 論文の体裁(構成、書式)が整っており、論理展開が明快であること。
- ② 研究の目的・方法が明確で、新たな知見を含んでいること。
- ③ 十分な調査・実験に基づき、結果の分析と考察が十分に行われていること。
- ④ 内容が国内外の学会で発表できる学問的水準に達していること。
- ⑤ 発表会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問に対して的確に答えられたこと。

環境計画学専攻環境意匠研究部門 審査の内容

- ① 研究の目的が明確で、内容が独創性や新規性を有していること。
- ② 研究が学術的に有意な知見、あるいは社会的有用性を含んでいること。
- ③ 実験・調査データや文献資料等が信頼性を有し、分析、考察が適切であること。
- ④ 論文の論理構成・展開が明解で、妥当な結論が得られていること。
- ⑤ その他審査委員会が別に定める審査項目について要件を満たしていること。
- ⑥ 報告会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質疑の際の応答が的確であること。

環境計画学専攻地域環境経営研究部門 審査の内容

- ① 研究の目的が明確で、研究として新規性があること(先行研究の十分なレビューを含む)。
- ② 論文(目的から調査分析、結論までの流れ)の論理展開が明快で、不整合や飛躍がないこと。
- ③ 研究の目的達成のために十分な調査がなされていること。
- ④ 調査結果の分析と調査分析結果の考察が十分になされていること。
- ⑤ 結論が社会的あるいは学術的に意義のある(有用な)知見を含んでいること。
- ⑥ 論文が、わかりやすく、指定された書式に従って書かれていること。
- ⑦ 報告会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問にも的確に答えられたこと。

環境動態学専攻生物生産研究部門博士前期課程履修モデル

生物生産研究部門は環境問題と両立した有用生物生産のあり方、農学で培われた知識の環境問題への展開を研究・教育の柱としています。科目履修は、別表を参考としてコミティーの主指導および副指導の教員と相談しながら、以下の点に留意して決定するように。なお、ここで示す履修モデルは、博士前期課程修了後は就職を希望する者、博士後期課程に進学して研究者をめざす者に共通です。

1. 生産環境管理研究領域で昆虫生態学分野の院生以外は、生物生産系モデルに従って履修し、必修科目の他に選択Aの科目からは3科目・6単位以上を履修し、それ以外の選択A科目と選択Bの科目から3科目・6単位以上を履修する。選択A科目でどの科目を履修するかについては主指導教員とよく相談すること。

2. 生産環境管理研究領域で昆虫生態学分野の院生は、生態管理系モデルに従って履修し、必修科目の他に選択Aの科目からは3科目・6単位以上を履修し、それ以外の選択A科目と選択Bの科目から3科目・6単位以上を履修する。

生物生産研究部門は環境問題と両立した有用生物生産のあり方、農学で培われた知識の環境問題への展開を研究・教育の柱としています。生物生産系と生態管理系として以下の履修を推薦する。

選択 A：履修が望ましい 選択 B:余裕があれば履修を勧める

生物生産系

科目	配当年次	区分	単位数	備考
環境動態学特別演習Ⅰ	1	必修	4	
環境動態学特別演習Ⅱ	1・2	必修	4	
環境動態学プレゼンテーションⅠ	1	必修	4	
環境動態学プレゼンテーションⅡ	1・2	必修	4	
環境動態学特別研究Ⅰ	1	必修	1	
環境動態学特別研究Ⅱ	1・2	必修	1	
植物遺伝資源論	1・2	選択A	2	
植物資源管理論	1・2	選択A	2	
持続的生物生産論	1・2	選択A	2	
動物生産環境論	1・2	選択A	2	
生産環境管理論	1・2	選択A	2	
遺伝子工学特論	1・2	選択B	2	
水資源管理論	1・2	選択B	2	
土壌圏環境論	1・2	選択B	2	
化学物質動態論	1・2	選択B	2	
生物多様性論	1・2	選択B	2	
栄養制御論	1・2	選択B	2	人間文化研究科科目
食素材特論	1・2	選択B	2	人間文化研究科科目
遺伝子生化学	1・2	選択B	1	工学研究科科目

生態管理系

科目	配当年次	区分	単位数	備考
環境動態学特別演習Ⅰ	1	必修	4	
環境動態学特別演習Ⅱ	1・2	必修	4	
環境動態学プレゼンテーションⅠ	1	必修	4	
環境動態学プレゼンテーションⅡ	1・2	必修	4	
環境動態学特別研究Ⅰ	1	必修	1	
環境動態学特別研究Ⅱ	1・2	必修	1	
生産環境管理論	1・2	選択A	2	
動物生産環境論	1・2	選択A	2	
持続的生物生産論	1・2	選択A	2	
生物社会共生論	1・2	選択A	2	
生物多様性論	1・2	選択A	2	
遺伝子工学特論	1・2	選択B	2	
植物遺伝資源論	1・2	選択B	2	
植物資源管理論	1・2	選択B	2	
化学物質動態論	1・2	選択B	2	
水圏生態系動態論	1・2	選択B	2	
生態系影響論	1・2	選択B	2	

環境科学研究科環境計画学専攻地域環境経営研究部門
博士前期課程履修モデル

地域環境経営研究部門は、持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方を探るとともに、それを実現するための地域環境計画とその運用について教育・研究を行う。研究内容の将来の展望を重視し、環境システム、地域経済、環境政策の3つの研究領域の緩やかな結合のなかで、課題研究を進める。

以下の標準的なモデルに従った単位履修を推奨する。

1. 3領域の学生いずれも、履修ガイドで◎印のついている必修科目(4科目16単位)を履修すること。
2. 3領域の学生いずれも、できれば履修ガイドで○印のついている研究科共通科目(2科目4単位)を履修することが望ましい。
3. 環境システム領域の学生は履修ガイドでA印のついている選択科目(2科目4単位)を履修することが望ましい。残り3科目6単位は、自身の研究に資する科目を自由に選択すること。
4. 資源・環境経済領域の学生は履修ガイドでB印のついている選択科目の内から3科目6単位を履修することが望ましい。残り2科目4単位は、自身の研究に資する科目を自由に選択すること。
5. 環境政策領域の学生は履修ガイドでC印のついている選択科目(3科目6単位)を履修することが望ましい。残り2科目4単位は、自身の研究に資する科目を自由に選択すること。
6. なお、副専攻「近江環人地域再生学座」を履修している学生は、D印のついている学座科目(7科目14単位)を領域ごとに推奨されている科目(2科目4単位または3科目6単位)に充てることができる。

科目種類	科目名	配当年次	期間	区分	単位数	領域別履修ガイド
研究科共通科目	GIS/リモートセンシング論	1・2	前期	選択	2	○
	環境リスク論	1・2	後期	選択	2	○
	Environmental Sciences in Japan	1・2	前期	選択	2	A
専攻共通科目	環境計画学特別研究Ⅰ	1	通年	必修	4	◎
	環境計画学特別研究Ⅱ	1・2	通年	必修	4	◎
部門科目	国際農林環境政策論	1・2	後期	選択	2	B
	廃棄物とリサイクル	1・2	前期	選択	2	A
	地域資源経営論	1・2	後期	選択	2	B
	資源循環と国際貿易	1・2	前期	選択	2	B
	参加型計画運営論	1・2	前期	選択	2	C
	環境政策形成過程論	1・2	後期	選択	2	C
	環境開発論	1・2	前期	選択	2	C
	環境計画学特別演習Ⅲ	1	通年	必修	4	◎
	環境計画学特別演習Ⅳ	1・2	通年	必修	4	◎
近江環人地域再生学座科目	地域再生学特論	1・2	後期	選択	2	D
	コミュニティ・マネジメント特論	1・2	前期	選択	2	D
	エコ・テクノロジー特論	1・2	後期	選択	2	D
	地域診断法特論	1・2	前期	選択	2	D
	地域再生システム特論	1・2	前期	選択	2	D
	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ	1・2	後期	選択	2	D
	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ	1・2	前期	選択	2	D

科目名	Environmental Sciences in Japan
担当教員	井手 慎司・村上 修一・高橋 卓也・丸尾 雅啓・伴 修平・杉浦 省三・林 幸司・堂満 華子
授業概要	This course is an introduction to the environmental issues of the Lake Biwa basin and those of East Asia. In order to understand the mechanisms and propose solutions for ongoing environmental problems, there will be multilateral lectures conducted from the perspectives of the fields of geo-chemistry, physical-geography, social-economics, and water-system engineering.
到達目標	
テキスト指定図書参考書	No text book, Handouts
成績評価	Assignments (Reports) (50%), Quizzes(50%)

科目名	GIS／リモートセンシング論
担当教員	岩間 憲治・香川 雄一
授業概要	GIS(地理情報システム)やリモートセンシング(RS)は、環境計画、総合的な環境分析のツールとして広く利用されている。それに伴い、GISで利用できるデジタルデータ、またリモートセンシングで得られたマルチスペクトル・イメージデータも普及してきている。このため、GISは環境科学を研究する際に、不可欠な分析・総合ツールとなってきた。本講では、それぞれの研究分野でGISを活用できることを目標に、GISの基礎とその応用方法について学び、一般的に利用する機会が多い人工衛星のマルチスペクトルデータおよび空中写真の原理と利用の仕方について学ぶ。
到達目標	GIS、リモートセンシングの概念を理解します。また、一般に使用されている専用ソフトウェアを使いこなして初歩的な作業ができるようになります。さらに本授業を手がかりとして、修士論文のための研究にこれらの技術を応用できるようになります。
テキスト指定図書参考書	佐土原聡ほか、図解ArcGIS 身近な事例で学ぼう、古今書院 川崎昭如・吉田聡、図解ArcGIS Part2 GIS実践に向けてのステップアップ、古今書院 他にも適宜紹介およびプリント配布
成績評価	レポート課題(100%)

科目名	環境リスク論
担当教員	井手 慎司
授業概要	地域環境経営学的立場からみた広義の環境リスク管理を対象として、ハザードの同定からリスク評価・分析に至る最近の成果を紹介するとともに、人々のリスク認知やリスクコミュニケーションに関する知見を踏まえたリスク管理のあり方について講述する。
到達目標	
テキスト指定図書参考書	参考図書等を適宜授業中に紹介する。
成績評価	小テスト(30%)、定期試験(70%)

科目名	遺伝子工学特論
担当教員	入江 俊一・清水 顕史
授業概要	バイオサイエンス分野において遺伝子工学的手法は必須の技術である。近年の研究進展は目覚しく、情報学を始めとして多様な知識との融合が行われつつあり、一つの学問体系に収まりきれないほど複雑化している。本講義では、研究開発、生物生産、市場管理等において使用されている遺伝子工学的技術について解説する。さらに、膨大に蓄積したデータから有益な情報を発掘(マイニング)するため必要なバイオインフォマティクス技術についても体験する。
到達目標	研究目的に適した実験手法を選択し、得られたデータを適正に判断できる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布する。 参考図書:ゲノム工学の基礎 東京化学同人
成績評価	小テスト(33%)、レポート(33%)、プレゼンテーション(33%)

科目名	化学物質動態論
担当教員	須戸 幹
授業概要	化学物質の環境問題を考える上で、それらが発生源から汚染地域に至るまでの運命を明らかにすることは必須である。この講義では農薬やトリハロメタンなどの化学物質について、大気、水、土壌における分解・消失・流出過程とそのモデル化の考え方について論じる。
到達目標	化学物質の動態に関する文献や書籍の内容を十分理解できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:適宜紹介
成績評価	期末試験50%、課題レポート50%

科目名	環境動態学特別演習 I
担当教員	専攻教員
授業概要	環境動態の各専門分野に関する国内外の文献を購読させ、これを体系的にまとめ発表させる。その内容について相互に討論を行い、解説を加える。
到達目標	専門分野の文献の読解と要約、および適切な内容評価ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:各教員ごとに決定する。
成績評価	プレゼンテーションおよび質疑応答の内容によって判断する。

科目名	環境動態学特別演習Ⅱ
担当教員	専攻教員
授業概要	環境動態の各専門分野に関する国内外の文献を購読させ、これを体系的にまとめ発表させる。その内容について相互に討論を行い、解説を加える。
到達目標	専門分野の文献の読解と要約、および適切な内容評価ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:各教員ごとに決定する。
成績評価	プレゼンテーションおよび質疑応答の内容によって判断する。

科目名	環境動態学特別研究Ⅰ
担当教員	専攻教員
授業概要	環境動態学の各専門分野に関連する特定の研究課題を通し、実験、調査、解析手法を具体的事例に即して習得させ、修士論文作成の指導を行う。
到達目標	研究課題ごとに設定される。
テキスト 指定図書 参考書	研究課題ごとに選ばれる。
成績評価	各研究課題への取り組み状況により評価する。

科目名	環境動態学特別研究Ⅱ
担当教員	専攻教員
授業概要	環境動態学の各専門分野に関連する特定の研究課題を通し、実験、調査、解析手法を具体的事例に即して習得させ、修士論文作成の指導を行う。
到達目標	1. 論文の体裁(構成、書式)が整っており、論理展開が明快であること。2. 研究の目的・方法が明確で、新たな知見を含んでいること。3. 十分な調査・実験に基づき、結果の分析と考察が十分に行われていること。4. 内容が国内外の学会で発表できる学問的水準に達していること。5. 発表会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問に対して的確に答えられたこと。
テキスト 指定図書 参考書	研究課題ごとに選ばれる。
成績評価	論文審査および口頭による最終試験(審査会)によって評価する。

科目名	環境動態学プレゼンテーション I
担当教員	専攻教員
授業概要	研究の内容を正確に理解しやすくプレゼンテーションすることは研究者・技術者にとって必須の技能といえる。また、他者のプレゼンテーションを自らの視点で吟味し、意見を戦わせることは研究・開発の進展に貢献する。本演習では研究発表の準備段階として、所属部門の二年生により行われる中間報告会と修士論文発表会に参加し、関連する研究分野についての知識とプレゼンテーション技術について学ぶ。
到達目標	各研究分野について関連する知識を得るとともに、修士論文審査会に向けてプレゼンテーション技術が向上すること。
テキスト 指定図書 参考書	指定しない。
成績評価	発表会への参加態度および質疑応答の内容によって評価する。

科目名	環境動態学プレゼンテーション II
担当教員	専攻教員
授業概要	環境動態学プレゼンテーションIIに引き続き、プレゼンテーション技術とそれをもとにした議論の方法について学ぶことを主目的とする。本演習では環境動態学特別研究の内容を素材として、所属部門において開催される中間報告会および修士論文発表会という形でプレゼンテーションを行う。
到達目標	修士論文審査会に向けた十分なプレゼンテーション技術を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	指定しない。
成績評価	プレゼンテーションおよび質疑応答の内容によって評価する。

科目名	持続的生物生産論
担当教員	上田 邦夫・泉 泰弘
授業概要	農業、林業、漁業などの農業生産における、主として化学的側面からの生物管理(上田)と栽培環境側面からの生産管理(泉)により、環境への負荷の小さい持続的生産システムを論じる。
到達目標	今日の農業問題について理解を深めて、今後の課題を知り、これらの研究の手法を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	プリントの配布を行う。
成績評価	三分の二以上の出席とレポートで評価する。

科目名	集水域環境論
担当教員	三田村 緒佐武 ・ 肥田 嘉文 ・ 後藤 直成
授業概要	陸域からの環境負荷物質の流出過程と湖沼における物質の循環過程を水環境保全の観点から論じる。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	講義の際に資料を配布する
成績評価	定期試験ならびにレポートを総合して評価する

科目名	植物遺伝資源論
担当教員	長谷川 博
授業概要	植物育種学の新しい手法とその成果について、近年の日本育種学会における研究発表を題材として、セミナー形式を取り入れた講義を行う。取り上げる研究対象は、主に持続的農業を可能にする形質に関するものとし、遺伝資源の探索、形質の評価・選抜法、および導入法である。受講者にテーマに関する発表を行わせ、それに関わる基礎科学(遺伝育種学、分子生物学、植物生理学等)のバックグラウンドについて講義する。発表内容は、植物に限らず菌類・微生物を専攻する院生も受講可能なように配慮する。
到達目標	育種学会の発表内容を基礎科学に基づいて理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	授業のなかで紹介する
成績評価	発表内容75%、質問内容・討論への参加状況25% (発表回数が足りていても、内容不十分なら単位を認めないことがある)

科目名	植物資源管理論
担当教員	原田 英美子
授業概要	植物の持つ特有の生理的機能に関して論じるとともに、地球環境における植物の生態学上の位置づけについて学ぶ。
到達目標	植物の生理に関する知見を様々な視点からとらえることができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:配布資料
成績評価	レポート(100%)

科目名	森林生態学特論
担当教員	野間 直彦 ・ 浜端 悦治
授業概要	地球温暖化・生物多様性などの地球環境問題に深く関係する、植物がつくる生態系の役割と意義を論じる。陸域では森林群落、湖内では沈水植物群落といった各景観域で大きな生物量を持つ群落をとりあげ、それらの生物量の実際の推定法を講義するとともに、それら群落の有無が各生態系・流域生態系に及ぼす影響を考える。群落の構造、地形・水分などの環境との関係、遷移や更新、人為との関係、里山・里湖の問題、鳥獣害、動物などとの共生関係について講義し、生態系の保全と修復のために取るべき方策を考察する。
到達目標	野外に出た時、それがどのような植物群落なのか読み取れるようになること。その群落の保全、(それに加え必要な場合には)修復の方針を理解できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書: マッカーサー「地理生態学」蒼樹書房、「植物生態学」朝倉書店、堤利夫編「森林生態学」朝倉書店、菊沢喜八郎「植物の繁殖生態学」蒼樹書房、西野・浜端編「内湖からのメッセージ 琵琶湖周辺の湿地再生と生物多様性保全」サンライズ出版 他にも講義中に紹介する。
成績評価	レポート(100%)

科目名	水圏生態系動態論
担当教員	伴 修平 ・ 永淵 修 ・ 熊谷 道夫※
授業概要	本講義では、湖沼生態系および海洋生態系における生物群集の動態と物質循環、およびそれらを取りまく物理・化学的環境について学ぶ。内容は、物理、化学、生物に大きく分かれ、それぞれの動的側面について理解する。
到達目標	水圏生態系の動力的側面を理解し、その変動要因について解析する基礎的知識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	特になし。授業に関連した資料を配付する。
成績評価	それぞれに要求されるレポートによって評価する。環境を動的にとらえることの意味を十分に理解していることが重要。

科目名	生産環境管理論
担当教員	鈴木 一実 ・ 沢田 裕一
授業概要	農地及び自然の生態系における有害生物管理の理論と技術について論述する。 農作物の病害を防除し、高位生産を維持するために用いられる殺菌剤等の種類と特性、それらによってもたらされる生態系の攪乱および薬剤耐性菌の出現等生物の反応とその対策について、地球環境の保全を視野に入れて論ずる(鈴木)。 動物の大発生や個体数変動の実態とそのメカニズムについて個体群生態学の視点から論述するとともに、いくつかの基本的トピックについて、内外の研究成果を参照しつつ議論する(沢田)。
到達目標	(1) 農業用殺菌剤の種類と特性についての理解 (2) 薬剤耐性菌の出現と対策についての理解 (3) 総合的病害虫管理(IPM)についての理解 (4) 熱帯アジアの稲害虫の総合的管理についての理解
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: プリントを配布する。 指定図書: 講義の中で適宜紹介する。 参考書: 講義の中で適宜紹介する。
成績評価	レポートにより評価する。

科目名	生態系影響論
担当教員	浦部 美佐子 ・ 丸尾 雅啓
授業概要	生態系は、生物体の直接の収奪、ハビタットの改変、汚染物質の放出などの人為的改変によりさまざま影響を受ける。これらに対して生態系がどのように応答するかについて、生物群集の構造面と、化学物質の特性の両面から論じる。
到達目標	
テキスト指定図書参考書	テキスト:Keller et al (2009) Bioeconomics of Invasive Species: Intergrating Ecology, Economics, Policy and Management
成績評価	毎週の学習態度および期末のレポートによって評価

科目名	生態系保全特別講義
担当教員	鹿野 雄一※ ・ 寺井 久慈※ ・ 高倉 耕一※
授業概要	生態系保全に関わる科学は、環境問題の多様化のため研究分野が専門化・細分化されつつあり、総合的理解が難しくなっている。このために環境科学の第一線で活躍している研究者を非常勤講師として委嘱し、それぞれの分野で最先端の話題について集中講義を行う。
到達目標	生態系保全に関する実践的な理解を通して、それぞれの分野ごとに実際的な方法論を習得する。
テキスト指定図書参考書	特になし。それぞれの授業で資料が配付される。
成績評価	各講師によって、試験・レポートなどが課され、これらによって評価がなされる。

科目名	生物圏環境論
担当教員	堀野 治彦※ ・ 柳 哲雄※
授業概要	(堀野講師)水を中心とした地域の循環プロセス・動態に注目し、大気や土壌との関わりを含めその管理や制御に関わる技術や考え方を解説する。地域資源としての水・土・大気環境や生態系および人の生活との関わりについても紹介する。 (柳講師)赤潮・青潮など沿岸海域における環境問題の特性を論じ、地球温暖化が沿岸海域環境に与える影響を述べ、人為的影響と比較してどのような程度か示す。沿岸海域における生態系サービスの変遷を概観し、今後我々が沿岸海域の豊かさを享受するための里海という視点の重要性を指摘する。
到達目標	水文・水循環、海洋学をはじめとする地球上の物質循環に関する諸問題に対応できる知識を習得することを目指します。
テキスト指定図書参考書	丸山利輔・三野 徹編:地域環境水文学, 朝倉書店、水収支研究グループ編:地下水資源・環境論, 共立出版 柳 哲雄:海の科学ー海洋学入門、恒星社厚生閣、柳 哲雄:里海論、恒星社厚生閣
成績評価	平常点(予習状況、授業中のパフォーマンス、宿題など)40点, レポート60点

科目名	生物社会共生論
担当教員	西田 隆義
授業概要	生物群集の中ではさまざまな生態的相互作用が働いて、その結果、自然のバランスが保たれていると考えられている。本講義では、生物群集の構造を決める上で骨格となる食物連鎖を通じた縦の関係(捕食-被食関係)と共通の資源を介した横の関係(競争)について解説し、生物群集の理解を深めることを目指す。
到達目標	生物群集における安定と変動の機構について、基本的な理解を得ること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:天敵なんてこわくない (西田隆義著・2008年)八坂書房
成績評価	授業中の小テスト(60%)、プレゼンテーション(40%)

科目名	生物多様性論
担当教員	荒木 希和子※
授業概要	生物多様性の基本となる生物の種多様性・遺伝的多様性・生態系多様性の3つのレベルでの多様性の概念、ならびに多様性創出・維持・喪失機構について取り扱う。最近の研究や多様性保全に向けた方策についても併せて紹介する。
到達目標	3つのレベルでの多様性ならびに多様性創出・維持・喪失機構に関する基礎的な知識を習得し、これらの概念を理解する。また、生物多様性の現状、応用研究や対策をもとに、多様性維持のための適切な方法を評価する力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:資料プリントを配布する。 参考書:講義中に紹介する。
成績評価	講義後の確認テスト(30%)・課題レポート(70%)

科目名	大気水圏環境論
担当教員	倉茂 好匡・堂満 華子
授業概要	本講義では、特に大気圏や水圏での環境にかかわる物理的・地学的諸過程について論ずる。
到達目標	環境科学のさまざまな場面で、流体力学を利用するための基礎的な学力をつける。 現在そして将来の気候変動を考えるための基礎的知識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	(倉茂教授)とくに指定はない。 (堂満助教)テキストとしてプリントを配布予定。参考書は適宜紹介する。
成績評価	(倉茂教授)レポートおよび宿題(50%)、授業のための準備(予習)状況(50%)で評価する。 (堂満助教)予習・宿題(50%)、レポート(50%)で評価する。

科目名	動物生産環境論
担当教員	岡野 寛治 ・ 杉浦 省三
授業概要	動物における栄養素の消化, 吸収, 代謝機構について講述し、動物栄養生理学の視点から環境問題の解明を探り、持続可能な動物生産のあり方について論じる。
到達目標	動物における栄養素の消化, 吸収, 代謝機構についての知識を深め、動物栄養生理学の視点からの環境問題の解明法、持続可能な動物生産法ならびにそれらの研究手法を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 講義の中でプリントを配布する。
成績評価	定期試験(50%)、レポート(50%)

科目名	土壌圏環境論
担当教員	皆川 明子
授業概要	土壌圏環境における水・物質と生物の関係について英語の文献を指定し、各回の担当者が訳してまとめ発表する。必要に応じて関連分野の解説を行う。
到達目標	専門分野の英語文献を読みこなすために必要な語彙力、読解力、基礎知識を備える。
テキスト 指定図書 参考書	講義時に適宜指定・配布する。
成績評価	出席状況および講義での発表。

科目名	物質循環論
担当教員	永淵 修 ・ 倉茂 好匡 ・ 浜端 悦治 ・ 尾坂 兼一
授業概要	自然生態系から農業生態系、都市生態系を循環する物質の挙動および動態に関わる生物地球化学、生物地球物理過程について考察し、環境科学の課題に取り組む際の学際性、総合性について理解させるため、森林生態系の物質循環、河川系における物質動態と水環境保全のための管理技術、海洋内部と大気圏、陸圏の物質循環の化学過程、水・エネルギーの相互作用、陸水の営力についてオムニバス方式で講述する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	担当する4名の教員それぞれが宿題・レポート等を課す。各担当教員がそれをもとに評価し、4名の教員による評価を平均したものをもちって最終的な成績評価とする。

科目名	水資源環境論
担当教員	金木 亮一
授業概要	世界的に逼迫しつつある水資源の現状、その保全・管理に関わる諸問題の量的解決方法、水質の管理手法などについて考える。
到達目標	(1) 世界の水資源に関する諸問題を理解し、解決策を例示できる。 (2) 水質の管理手法を修得し、応用できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介
成績評価	レポート 50%、プレゼンテーション 50%

科目名	陸面過程論
担当教員	小谷 廣通
授業概要	陸地表面における水・エネルギー・物質の輸送と移動過程について論じる。まず、植物－大気間におけるエネルギー・物質交換過程について、つぎに、土壌－植物系における物質移動過程について講義する。
到達目標	陸面におけるエネルギーと物質の交換・移動過程に関する基礎概念を正確に理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト・参考書 Gerard Guyot 「Physics of the Environment and Climate」(Wiley-Praxis)
成績評価	レポート100%

科目名	安全防災計画学
担当教員	高田 豊文 ・ 小濱 芳朗※
授業概要	阪神・淡路大震災以降、日本各地で大きな地震が頻発している。また、近畿地方の沿岸では、東海・東南海・南海地震が近い将来発生することが予測されている。このような大地震から人命・財産を守るためには、建築物の耐震化が最も重要である。本講義では、防災意識の向上と耐震安全性に対する正しい知識の獲得を目標に、建築構造に関する地震防災について学習する。
到達目標	地震の発生メカニズムと地震動の特性、建物の振動現象、木造・鋼構造・鉄筋コンクリート構造の耐震診断、滋賀県の地震危険度など、建物の耐震安全性に関する正しい知識の獲得を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：「木造住宅の耐震診断と補強方法」(日本建築防災協会)
成績評価	小レポート(45点)、演習(55点)の100点満点で評価し、60点以上を合格とする。なお、6回以上欠席したものは、単位を認めない。

科目名	環境開発論
担当教員	秋山 道雄
授業概要	既往の地域開発が経済開発の性格を強く帯びていた点を概観したのち、現在の持続可能な発展論に至る系譜を追うことにより、国際関係、国家と国民との関係、経済構造、社会関係、環境資源の利用密度などと開発理念とがもつ関係を講述する。それを前提に、開発と保全の総合化という視点から、先進国と発展途上国の事例をもとに実証分析と政策形成をつなぐ経路を講述する。
到達目標	地域開発の理論・歴史・政策について、学部で提供している地域開発論より進んだ主要事項が理解できるようにする。日本と外国の事例を比較しつつ、環境保全をベースにすえた開発のあり方が理解できるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	・テキストは用いない。 ・参考文献等は、講義中に適宜紹介する。
成績評価	授業中のレポート(50%)、最終レポート(50%)

科目名	環境計画学特別演習 I A
担当教員	専攻教員
授業概要	関連する既往研究やテーマに関わる地域(国際も含む)フィールドワークの課題を設定し、事例などを通して、計画学的な分析能力および環境と社会を統合する能力を身につけるため、ならびにそれに必要な専門的知見を養うための実践的な演習を行う。
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	環境計画学特別演習 I B
担当教員	専攻教員
授業概要	建築設計・工事監理、建築確認、一定の施工管理等の設計・工事監理に資する実務を行う企業現場を体験し、建築デザイン、構造設計、設備設計、工事監理に関する専門職能の体得を目的とする。受入先事業所・地域との連携を図り現業に臨む主体性や適応力を養いつつ、デザイン、構造、設備、監理に関する認識を高めるとともに、大学の授業では得られない応用力等を習得し、卒業後の進路選びにも活用していく。インターンシップ期間は通期で6週間(30時間で1単位を基準とした120時間)以上とする。実習先は一級建築士事務所登録している事業所等とし、建築士資格を有する者が担当する。
到達目標	
テキスト指定図書参考書	特になし
成績評価	インターンシップ報告書の内容を以て評価する

科目名	環境計画学特別演習 II A
担当教員	専攻教員
授業概要	特別演習 I A で設定した課題を学生各自の個別専門領域のテーマとして鮮明にし、具体的な研究方法論との関係で、問題解決の可能性と限界、新しい課題を探索させる。
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト指定図書参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	環境計画学特別演習 II B
担当教員	専攻教員
授業概要	学生個人あるいは数名の設計チームを組織し、実際の敷地、設計与件、テーマを分析しながら、建築の実施設計図面を作成し提案する。本演習では、対象となる建築を事業計画から考え、建築計画、コンセプトづくり、都市・自然環境との相互関係、建築法規、ヴォリュームスタディ、空間計画、各部素材や仕様の決定、ディテール、構造計画、設備計画、施工方法や資材管理等、多岐にわたる専門知識を自ら調べ、理解し、答えることで建築実務設計の専門職能に資する総合的視座を得ることをめざす。
到達目標	
テキスト指定図書参考書	特になし
成績評価	エスキスチェック時、中間・最終講評会の提出物を評価する

科目名	環境計画学特別演習Ⅲ
担当教員	専攻教員
授業概要	それぞれ3～4種類の地域(国際も含む)フィールドワークの課題を設定し、計画学的な分析能力と環境と社会を統合する能力を、専門的知見を養うための実践的な演習を行わせるとともに研究の進捗に関する部門内での発表を定期的に課する。
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	環境計画学特別演習Ⅳ
担当教員	専攻教員
授業概要	特別演習Ⅲで設定した課題を学生各自の個別専門領域のテーマとして鮮明にし、具体的な研究方法論との関係で、問題解決の可能性と限界、新しい課題を探究させるとともに研究の進捗に関する部門内での発表を定期的に課する。なお学生の希望内容に応じて、環境情報系の科目との並列履修を推奨する。
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	環境計画学特別研究Ⅰ
担当教員	専攻教員
授業概要	学生の修士論文作成に向けて、研究テーマの深化、テーマに関わる基本的・専門的な学習、既往研究の調査、研究手法など、研究・作業の全過程を見据えながら、綿密な準備的指導を行う
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	環境計画学特別研究Ⅱ
担当教員	専攻教員
授業概要	学生の修士論文作成に向けて、研究テーマの深化、テーマに関わる基本的・専門的な学習、既往研究の調査、研究手法など、研究・作業の全過程を見据えながら、綿密な準備的指導を行う
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	環境政策形成過程論
担当教員	金谷 健 ・ 未定 ・ 柴田 裕希
授業概要	環境政策が形成される過程を、実例をふまえて講述する。第1回および第7回～第10回は、廃棄物分野での政策形成過程を、特に審議会やパブリックコメントを対象に、各受講者による事例調査報告と、受講者全員および教員による質疑により行う(金谷担当)。第2回～第9回は、政策形成の基礎的な理論にかかる文献及び実際の環境政策形成の行政資料を基に議論を行う。これによって、環境政策の形成時に課題となりやすい政策の合理性や正当性について理解を深める(柴田担当)。第11回～第15回は、未定(2011年4月着任予定の助教担当)。
到達目標	講義対象の環境分野における環境政策形成過程の現状について、説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	金谷担当分及び柴田担当分については、適宜資料を配付する。2011年4月着任予定の助教担当分については、未定。
成績評価	3名の担当教員それぞれが、33.3%ずつ。金谷担当分は、レポート提出・報告と、授業中の質疑内容で評価。柴田担当分は、講義内におけるレポートと講義内の議論内容で評価を行う。2011年4月着任予定の助教担当分は、未定。なお特段の事情(病気等)ない限り、5回以上欠席した場合は評価対象としない。

科目名	環境設計特論
担当教員	布野 修司
授業概要	建築環境Built Environmentをどう捉えるか、どう分析するか、その方法について考究し、空間設計、すなわち建築・都市・地域空間の設計計画(建築学、都市計画学)の分野を基礎として環境設計の方法論を展開する。古今東西の建築環境を素材、対象とし、その成り立ち、構成原理を論究するが、とりわけ、アジア地域における住居集落、都市建築の構成手法について解明を試みる。ヴァナキュラー建築からセルフヘルプ・ハウジングまで、主として、都市組織、都市住居のあり方を中心に、文献購読、臨地調査など作業を展開したい。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	『生きている住まいー東南アジア建築人類学』(ロクサーナ・ウオータソン著,布野修司(監訳)+アジア都市建築研究会)アジア都市建築研究会『世界住居誌』など
成績評価	レポート(50%)+発表(50%)

科目名	環境造形特論
担当教員	松岡 拓公雄
授業概要	素材と造形と技術の関係とは何か。新たな造形の視点となる最新の環境技術についても考察する。自然素材からハイテク素材が、建築との環境とどう関わっているのかを解説し、これからの可能性を環境科学的な視点で論じる。様々な環境問題に直面している都市、田園における人間と自然との関わり方において、建築は循環型の素材やエネルギーや、サステナビリティな造形などで対応していく未来への提言を考えると同時に、その企画、設計手法、職能倫理など実務での現実の問題を解説し、実践に対応できる環境技術の知識を講義する。
到達目標	肝要問題を背景に生まれた建築の環境技術の実践事例を通し、技術採用後の実態調査も温めてその効果を理解し、その技術と応用された建築造形と関係を深く理解することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:再び健康な建築(彰国社)、モダニズムの系譜(INAX出版)、地球環境建築の事例
成績評価	発表用のレポートを小論文にして提出とプレゼンテーション

科目名	居住環境工学
担当教員	伊丹 清
授業概要	すまいに関わる種々の省エネルギー手法や環境共生手法のいくつかを取りあげながら専門的理解を深めるとともに、様々な環境問題と我々の居住環境との関わりや、地域の気候特性を活かした居住のありかた等について論述をおこなう。これらにより、建築設計実務での設備計画・設計に資する専門知識と社会的視座を得ることをめざすとともに快適かつ安全な居住環境のあるべき姿や、それを実現化する住まい・住まい方について具体的に考察できることをめざす。
到達目標	気候特性の把握や建築にかかわる伝熱現象・拡散現象の特性を理解するための基本的手法の理解、これらにかかわる専門的知識の獲得、および、建築設計実務での設備計画・設計に資する専門知識と社会的視座を得ること
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:用いない 参考書:随時紹介する
成績評価	小テスト(50%)、レポート(50%)

科目名	建築技術特論
担当教員	陶器 浩一
授業概要	学部で習得した知識を構造計画の実務に応用できるよう、建築構造材料の特徴や最新の建築工法について、それらの応用事例を紹介し、構造計画への展開について議論する。また、環境共生のための構造技術の手法について講義する。さらに新しい建築デザインのなりたちが、構造工学の発展とどのように関連、補完し合っているのか、その意義について議論を深める。各種建築工法を利用した構造計画の演習も併せて行い、建築設計実務での構造計画に資する専門知識と応用能力を得ることをめざす。
到達目標	各種建築工法を利用した構造計画の演習行い、建築設計実務での構造計画に資する専門知識と応用能力を得ることをめざす。
テキスト 指定図書 参考書	なし
成績評価	講義におけるレポート課題

科目名	建築計画特論
担当教員	ホアン・ラモン
授業概要	設計実務における建築計画の妥当性は、都市と建築の相互関係を深く理解することが必要である。本講義ではそれぞれの文明の発展について、都市空間や建築様式を考察し、宗教的思想と建築の関係、それぞれの文明がどう関連しているかを分析、解説する。
到達目標	建築設計実務におけるデザインならびに建築計画に資する専門知識と社会的視座を得ることをめざす。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:授業で適宜紹介する
成績評価	発表(30%)適宜即日レポート(70%)

科目名	建築構造特論
担当教員	高田 豊文
授業概要	本特論では、高度な構造解析や構造設計に必要な構造力学の基礎およびこれらに関連する数学理論を学習し、構造物の振動特性、地震応答性状や構造安全性の考え方などを理解し、建築物の振動解析の数値計算技術を修得することをねらいとしている。具体的には、1自由度系および多自由度系の線形応答解析、力学の構造設計への応用について、数学理論の講義および演習を行い、建築設計実務での構造計画・設計に資する専門知識と社会的視座を得ることを目指す。
到達目標	本特論では、高度な構造解析や構造設計に必要な構造力学の基礎およびこれらに関連する数学理論を学習し、構造物の振動特性、地震応答性状や構造安全性の考え方などを理解し、建築物の振動解析の数値計算技術を修得することを目的としている。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:西川孝夫他 著、「建築の振動－初歩から学ぶ建物の揺れ」、朝倉書店 参考書:西川孝夫他 著、「建築の振動－応用編」、朝倉書店
成績評価	授業中に課す数回の演習レポート(100点満点)の成績で評価し、60点以上を合格とする。なお、6回以上欠席したものは、単位を認めない。

科目名	建築史特論
担当教員	富島 義幸
授業概要	古代・中世の仏教建築を中心に、その空間構成や建築・環境造形の背景となる理念を探求する。中世日本では、奈良時代からの顕教の土壌に、平安時代初頭に新たに導入された密教が融合した思想・信仰世界が形成され、その世界観を反映する豊かな建築空間が展開された。こうした視点から建築史はもちろん、美術史・日本史・仏教史など関連諸学の史料や方法をとりこみ、学際的な建築史論を展開する。講義のなかでは、古文書や聖教、絵画・彫刻作品など関連諸学の史料の購読・分析もおこなう。
到達目標	日本の寺院建築の空間造形・構成の理念について、社会・思想との関係から理解することができる。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に紹介
成績評価	中間発表(40%)、期末レポート(60%)

科目名	建築設計特論
担当教員	柴田 いづみ
授業概要	現代における建築家や設計者の職能を再認識するうえで、世界中の歴史的な作家や作品に見られる設計方法論を知ることが重要である。歴史上の建築家の活動や作品を社会的背景を含めて考察する。景観の中の作品と建築家の意識は、時代と共に変化している。現代において「持続可能な社会」を創る為の、建築家の手法を調査、考察し、設計実務でのデザイン計画に資する歴史的・職能論的視座を得ることをめざす。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	テキストはプリントで配布
成績評価	レポート(50%)、発表(50%)

科目名	建築デザイン特論
担当教員	高柳 英明
授業概要	本講義では現業の建築設計実務にのぞみ、独自の視点からとらえた「12の手法」について、建設事業におけるデザイナーや設計者の立場や仕事の流れを初めとし、建築事業の企画・立案／コストマネジメントと事業計画の関係／建築プロデュース業務とコンセプトメイキング／建築計画／配置・規模デザインと関連条法／造形デザインと付加価値の関係／造形美と人間工学／水平・空中景観の重要性等について、実際の建築プロジェクト(集合住宅・駅空間再開発等)を例にあげ、幅広くかつ詳細に解説するとともに、建築設計実務に資する建築デザイン、工事監理の基礎知識も併せて講義する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	『建築設計ノート-集合住宅(彰国社)』をテキストとする
成績評価	各回に課すレポートを50%、適宜出題する設計課題を50%として総合的に評価する

科目名	国際農林環境政策論
担当教員	富岡 昌雄 ・ 高橋 卓也
授業概要	農地は人間の生存に不可欠な食料をはじめとする農産物を供給するとともに、さまざまな環境便益を提供している。また、陸上最大のバイオマス資源である森林は、人間生活に深く結びつくとともに、持続可能な社会の実現のための構成要素として大きな可能性を有している。日本国内の農地・森林問題を考えるためには、国際的な問題状況・構造の理解は必須のものである。本講義においては、基礎的な知識を得たうえで、農林業と環境との関連について自身の筋道だった見解を形成できる能力を養成することを目的とする。第1回～第7回は富岡が、第8回～第15回は高橋が担当する。
到達目標	農林環境政策はどうあるべきかについて国際的視野から考え、説得力のある提案を行う能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし 指定図書:なし 参考書:講義の際に紹介する。
成績評価	プレゼンテーション・レスポンスペーパー50%、レポート50%。

科目名	参加型計画運営論
担当教員	近藤 隆二郎 ・ 小野 奈々
授業概要	もはや参加が目標である時代は終わり、実践的な参加の枠組みが必要となってきた。環境マネジメントやまちづくりへの住民参画／合意形成／自主管理手法について、実例をふまえて講述する。コミュニティのつながりという基盤が希薄化し、一方で情報化社会がネットを介して爆発的に進行している中で、参加はどのようにゆらぎ、そしてもがいているだろうか。
到達目標	(1)市民参加の変遷と現状の仕組みについて説明できること。 (2)参加型計画運営のコツについて体得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:原科幸彦編「市民参加と合意形成 ー都市と環境の計画づくりー」学芸出版社,2005 参考書:木下勇「ワークショップー住民主体のまちづくりへの方法論」学芸出版社,2007/ロバート チェンバーズ「参加型ワークショップ入門」明石書店,2004
成績評価	課題評価50% 試験50%

科目名	資源循環と国際貿易
担当教員	林 幸司 ・ 増田 清敬
授業概要	資源循環と国際貿易に関する現状の理解と理論的分析手法を学ぶ。前半では産業連関表分析を中心に資源循環の分析方法を学ぶ。後半では、食料を対象にして、国際貿易と資源循環の現状分析を行い、食糧自給率の考え方など望ましい資源循環について検討する。
到達目標	国際貿易を通じた資源循環のメカニズムを理解し、分析できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	参考図書については適宜指示する。
成績評価	成績評価はレポート(100%)による。

科目名	生活空間計画学
担当教員	迫田 正美
授業概要	建築空間論の概説と今日の問題について講述するとともに、その基礎となる場所論、行為論、認知心理学、アフォーダンス、ジェネレーターの概念等に関する文献等を使用してその理解を深める。また、併せて各自テーマを選んで建築作品、環境デザイン等における環境構成手法の具体例とその有効性についてレポートを求める。
到達目標	空間概念の歴史的変遷とその芸術・建築制作のあり方との相関についての理解を深め、今日の環境デザインの手法と射程について考察する素養を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	「建築論」森田慶一、「建築空間論」上松祐二、「機能主義理論の系譜」デ・ザーコ、「建築美学」井上充夫、「ゲシュタルト心理学の原理」コフカ、「知能の誕生」J. ピアジェ、「生態心理学の構想」J. ギブソン、ほか
成績評価	小レポート30%、レポート発表70%

科目名	地域空間計画学
担当教員	水原 渉
授業概要	地域空間について、地域というものの捉え方、地域空間構造・構成の成立ち、生活や産業などとの、そして環境問題との関わり、日本の地域計画のあり方、地域とデザイン的課題などについて議論し、深めていき、これからの地域形成をどの様にしていくべきかを考えていく。議論の素材として、現代的論点である地方分権や道州制、開発問題などのテーマ、更には日本型地域計画とドイツやEUを中心とする諸外国の地域計画の比較、計画と環境アセスメントなどについても扱う。
到達目標	○日本の空間計画制度の基本的理解をする。○日本の地域計画(的要素)を把握する。 ○地域計画(Regional Planning)の役割について理解をする。○地域計画的流れの中で自分の修士研究の位置づけを行う(修士研究テーマによるが)。
テキスト 指定図書 参考書	プリントで配布。
成績評価	定期試験(60%)、レポート(40%)

科目名	地域資源経営論
担当教員	増田 佳昭
授業概要	本講義では、農村地域資源を対象に、その現状と課題、分析方法について学ぶ。森林や農地、水路の荒廃など、現在その管理の困難が大きな社会問題となっている。他方、農村の風景や文化などは都市生活者にとって、魅力的な地域資源でもある。前半では農村地域資源問題について理論と現状を概観し、その保全と活用のあり方と協同組合などの管理主体について考える。後半では、英文文献の講読を中心に海外における地域資源管理の現状、手法について学ぶ。
到達目標	農村における地域資源問題の状況を説明できる。協同組合や集落組織など農村地域管理の主体について概要と特性を説明できる。地域資源管理の手法について基本的な知識を持つ。
テキスト 指定図書 参考書	開講時に配布する。
成績評価	成績評価は発表(60%)とレポート(40%)による。

科目名	廃棄物とリサイクル
担当教員	富岡 昌雄 ・ 金谷 健
授業概要	「廃棄物とリサイクル」について、制度的および経済学的視点から講述する。前半(第1～7回)は、廃棄物の処理・リサイクルについての制度的視点からの講述を、受講生による関心分野ごとの文献調査報告を踏まえて行う(金谷担当)。後半(第8～14回)は「最適リサイクル率」という概念を中心に、経済学的視点から講述する(富岡担当)。
到達目標	廃棄物の処理・処分とリサイクルを含む廃棄物政策を策定する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:リチャード・C・ポーター『入門廃棄物の経済学』、東洋経済新報社、2005(富岡担当分) 指定図書:なし 参考書:講義の際に紹介する。
成績評価	プレゼンテーション50%、レポート50%。

科目名	ランドスケープデザイン特論
担当教員	村上 修一
授業概要	ランドスケープデザインは、生活空間を豊かにするために人間が生み出した創造行為である。この視点から、滋賀および京都の庭園を対象とし、現地調査や図面資料調査をとおして空間構成を分析し、空間美や背景思想について考究する。単に知識を学ぶだけでなく、未来社会にふさわしい新たなデザインのあり方を受講生が会得する機会としたい。
到達目標	事例をとおして解説するデザイン手法を自らの空間デザインに応用できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜配布・紹介する。
成績評価	分析成果をまとめたポスター（PDF） 60% ディスカッションにおける討議内容 40%

工学研究科博士前期課程 科目履修の手引

◆材料科学専攻

1 博士前期課程修了要件

- ① 材料科学専攻の科目配当表の必修2科目10単位、選択科目20単位以上の計30単位を修得すること。ただし、表中の選択科目から6科目12単位以上を修得すること。
- ② 修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること。
- ③ 他専攻（機械システム工学専攻）および他研究科の配当科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。なお、他研究科の配当科目を履修するときは、所属専攻長の許可を得ること。
- ④ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P126を参照すること。

2 年次別科目配当表

授業科目の名称	担当教員	配当年次	期間	単位数			備考
				必修	選択	自由	
(研究科共通)							
研究マネジメント	研究科教員	1・2	後期		1		
電子システム特論	稲葉、乾、柳澤、福岡、竹内、坂本	1・2	前期		2		※平成23年度のみ開講
電子情報特論	作田、奥村、松下、岸根、宮城、畑中	1・2	後期		2		※平成23年度のみ開講
(専攻共通)							
先端複合材料科学	佐川 尚	1・2	後期		1		集中講義
(無機材料部門)							
金属材料物性	近藤淳哉	1・2	前期		2		
金属機能材料プロセッシング	宮村 弘	1・2	後期		2		
非晶質無機材料(*1)	松岡 純	1・2	前期		2		
構造・化学機能セラミックス(*1)	吉田 智	1・2	後期		2		
材料プロセス熱力学(*2)	松岡 純	1・2	前期		2		
電子・光機能セラミックス(*2)	吉田 智	1・2	後期		2		
光量子物性論	奥 健夫	1・2	後期		2		
エネルギー変換材料	菊地憲次	1・2	後期		2		
無機ナノ粒子工学	バラチャンドラン・ジャヤデワン	1・2	後期		2		
機能界面化学	秋山 毅	1・2	後期		2		
先端無機材料科学	高橋亮治	1・2	後期		1		集中講義
(有機材料部門)							
高分子材料物性	徳満勝久	1・2	前期		2		
複合材料工学	山下義裕	1・2	後期		2		
天然高分子材料	廣川能嗣	1・2	前期		2		
高分子材料合成	谷本智史	1・2	後期		2		
環境機能材料	熊谷 勉	1・2	前期		2		
有機材料設計	井上吉教	1・2	後期		2		※平成23年度不開講
酵素化学(*2)	熊谷 勉、竹原宗範	1・2	前期		2		
生体機能化学特論	井上善晴	1・2	前期		1		集中講義
遺伝子生化学	松岡 健	1・2	前期		1		集中講義
先端有機材料科学	坂本健吉	1・2	後期		1		集中講義
材料科学特別実験(*3)	専攻教員全員	1~2	通年	5			
材料科学特別演習(*3)	専攻教員全員	1~2	通年	5			
(就職関連)							
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

- * 1 奇数年度（H23, H25, . . .）に開講される。
- * 2 偶数年度（H24, H26, . . .）に開講される。
- * 3 1年次と2年次の合わせて2年間の履修が必要です。ただし、1年間の履修のみで単位を認定する場合があります。

平成 22 年度以前の入学生については、以下の読み替えを行う。

- ①「無機ナノ粒子工学」または「機能界面化学」を「資源環境化学」に読み替える。ただし、どちらか一科目のみの単位認定となる。また、平成 22 年度以前入学生ですでに「資源環境化学」の単位を修得した者は、「無機ナノ粒子工学」および「機能界面化学」を履修することができない。
 - ②平成 23 年度開講の「生体機能化学特論」（1 単位）と「遺伝子生化学」（1 単位）を「生体機能化学特論」（2 単位）に読み替える。
 - ③平成 23 年度開講の「先端無機材料科学」（1 単位）と「先端有機材料科学」（1 単位）を「環境材料科学特論」（2 単位）に読み替える。
 - ④平成 23 年度開講の「先端複合材料科学」（1 単位）と「研究マネジメント」（1 単位）を「遺伝子生化学」（2 単位）に読み替える。
- ②～④については、いずれの科目も、片方の科目しか履修しなかった場合、単位認定は行わない。

3 修士の学位審査基準

- ① 大学院学則第 23 条の条件を満たすこと。ただし修士論文および最終試験については、次の 2 および 3 の基準を満たすこと。最終試験は主に修士論文の内容について、口頭試問で行う。
- ② 修士論文は、材料科学の分野において新規な知見を含み、その内容は全国規模または国際的な学術集会において発表できる学問的水準にあると判断されること。
- ③ 最終試験により、材料科学に関する広い視野と深い学識を有し、これらに基づく研究能力を有すると認められること。

工学研究科材料科学専攻博士前期課程履修モデル

”材料科学”とは、”あらゆる物質を人間社会に役立てるための科学”と換言でき、その歴史は長きにわたる。そして今、材料科学の役割は今まで以上に重要性を増し、今後の人類の歴史を左右するキーテクノロジーの一つに挙げられている。そのような状況下において本専攻博士前期課程の教育目標は、人間と環境への配慮を基盤とし、材料の“科学・技術”の進歩に貢献する高度な専門的知識と能力を有する人材を養成することある。そのために、学部において修得した学問の基礎と実験・演習などの知識を基に、最先端技術を支える無機から有機までの幅広い物質、新エネルギー材料や環境材料などの様々な利用技術について、多面的かつ知識を深耕するための教育と研究を行う。その具現化のために本専攻では、次の科目配当表に基づいたカリキュラムを設定している。必修科目として「材料科学特別実験」と「材料科学特別演習」を設置し、先端的な研究課題に取り組む。それら以外の科目は選択科目であり、様々な分野の科目を積極的に履修してできる限り広い視野を持たせるためにも1年次と2年次に開講する。

科目種類	分類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数	備考
材料科学専攻	無機材料部門	金属材料物性	近藤淳哉	1・2	前期	選択	2	
		金属機能材料プロセッシング	宮村弘	1・2	後期	選択	2	
		非晶質無機材料 ※1	松岡純	1・2	前期	選択	2	
		構造・化学機能セラミックス ※1	吉田智	1・2	後期	選択	2	*
		材料プロセス熱力学 ※2	松岡純	1・2	前期	選択	2	*
		電子・光機能セラミックス ※2	吉田智	1・2	後期	選択	2	
		光量子物性論	奥健夫	1・2	後期	選択	2	
		エネルギー変換材料	菊地憲次	1・2	後期	選択	2	
		無機ナノ粒子工学	バラチャンドラン・ジャヤデワン	1・2	後期	選択	2	
		機能界面化学	秋山毅	1・2	後期	選択	2	
	先端無機材料科学 ※3	高橋亮治 ※5	1・2	後期	選択	1		
	有機材料部門	高分子材料物性	徳満勝久	1・2	前期	選択	2	*
		複合材料工学	山下義裕	1・2	後期	選択	2	
		天然高分子材料	廣川能嗣	1・2	前期	選択	2	
		高分子材料合成	谷本智史	1・2	後期	選択	2	
		環境機能材料	熊谷勉	1・2	前期	選択	2	
		有機材料設計	井上吉教	1・2	後期	選択	2	*
		酵素化学 ※2	熊谷勉 竹原宗範	1・2	前期	選択	2	
		生体機能化学特論 ※3	井上善晴 ※5	1・2	前期	選択	1	
		遺伝子生化学 ※3	松岡健 ※5	1・2	前期	選択	1	
		先端有機材料科学 ※3	坂本健吉 ※5	1・2	後期	選択	1	
	専攻共通	先端複合材料科学 ※3	佐川尚 ※5	1・2	後期	選択	1	
	—	材料科学特別実験 ※4	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5	
—	材料科学特別演習 ※4	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5		
研究科共通	—	電子システム特論	稲葉、乾、柳沢、福岡、竹内	1・2	前期	選択	2	
	—	電子情報特論	作田、奥村、松下、岸根	1・2	後期	選択	2	
	—	研究マネジメント	研究科教員	1・2	後期	選択	1	

※1 奇数年度開講、※2 偶数年度開講、※3 集中講義

※4 1年次と2年次の合わせて2年間の履修が必要です。ただし、1年間の履修のみで単位を認定する場合があります。

※5 非常勤講師

備考欄*：部門を問わず履修することが望ましい科目

工学研究科博士前期課程 科目履修の手引

◆機械システム工学専攻

1 博士前期課程修了要件

- ① 機械システム工学専攻の科目配当表の必修2科目10単位、選択科目20単位以上の計30単位を修得すること。ただし、表中の選択科目から6科目12単位以上を修得すること。
- ② 修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること。
- ③ 他専攻（材料科学専攻）および他研究科の配当科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。なお、他研究科の配当科目を履修するときは、所属専攻長の許可を得ること。
- ④ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P126を参照すること。

2 年次別科目配当表

授業科目の名称	担当教員	配当 年次	期間	単 位			備 考
				必修	選択	自由	
(研究科共通)							
研究マネジメント	研究科教員	1・2	後期		1		
電子システム特論※	稲葉、乾、柳澤、福岡、竹内、坂本	1・2	前期		2		※平成23年度のみ開講
電子情報特論※	作田、奥村、松下、岸根、宮城、畑中	1・2	後期		2		※平成23年度のみ開講
(機械システム工学部門)							
熱システム工学	山根浩二	1・2	後期		2		
応用流体力学 注	安田孝宏	1・2	後期		2		
燃焼工学	河崎 澄	1・2	後期		2		
混相流工学	南川久人	1・2	前期		2		
強度設計工学	田邊裕貴	1・2	後期		2		
機械運動論	栗田 裕	1・2	前期		2		
応用メカトロニクス論※	(未定)	1・2			2		※平成23年度不開講
非線形制御論	安田寿彦	1・2	前期		2		
最適化システム論	森脇克巳	1・2	前期		2		
信頼性工学 注	高松 徹	1・2	後期		2		
動的システム論※	(未定)	1・2			2		※平成23年度不開講
知的生産システム※	奥村 進	1・2			2		※平成23年度不開講
品質工学※	奥村 進	1・2	後期		2		※平成23年度のみ開講
NC工作機械	中川平三郎	1・2	前期		2		
切削加工学	田中他喜男	1・2	前期		2		
応用数理解析※	松下泰雄	1・2	後期		2		※平成23年度のみ開講
現代数理概論※	谷口義治	1・2	前期		2		※平成23年度のみ開講
機械システム工学特別実験	専攻教員全員	1～2	通年	5			
機械システム工学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	5			
(就職関連)							
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

注：平成22年度以前入学生については、「応用流体力学」を「流体物理学」に、「信頼性工学」を「環境調和化学」に読み替える。

3 修士の学位審査基準

○ 論文の審査基準

大学院指導資格を有する主査 1 名および副査 2 名からなる審査委員が、下に示す基準に照らし合わせ、論文審査を行う。

- ① 本人が主になって研究を遂行し、本人が学会等で在学期間中に発表、あるいは在学期間中に発表申し込みが終了している内容を主として執筆されていること。
- ② 工学系の学術論文としての体裁を整えていること。
- ③ 重大な誤りがないこと。ただし、提出後誤りが見つかった場合には修正後再提出できる。

なお、項目①の学会等での発表に関して、受託・共同研究等における特許など知的財産に関わる内容のため、受託・共同研究元との契約上、学会等で発表できない場合は、それを証明する受託・共同研究元と交わした契約書あるいは覚書などの書類を修士論文に添付すること。

○ 論文の最終試験

修士論文の最終試験は、主として修士論文の内容に関して、主査 1 名および副査 2 名からなる審査委員が口頭試問を行い、試験の「合」・「否」を判定する。

工学研究科機械システム工学専攻博士前期課程履修モデル

機械システム工学に関する技術的課題は、時代の流れとともに複雑化・高度化する一方である。そのような状況下において本専攻博士前期課程の教育目標は、幅広い基礎学力と高度な専門知識を有するとともに応用能力にも優れ、「ものづくり」を中心とする産業界において活躍できる人材を養成することである。そのため本専攻では、学部での修得科目を基礎とする発展的な科目にとどまらず、機械システム工学に関係が深い専門科目に関する学力を身につけることに加えて、先端的な研究課題に取り組むことによって、問題を見つけ出してそれを解決し、得られた結果を適切に取り纏めて発表できる能力を育むことに力点を置いている。その具現化のために本専攻では、次の科目配当表に基づいたカリキュラムを設定している。必修科目として「機械システム工学特別実験」と「機械システム工学特別実習」を設置し、先端的な研究課題に取り組む。それら以外の科目は選択科目であり、様々な分野の科目を積極的に履修してできる限り広い視野を持たせるためにも1年次と2年次に開講する。

科目種類	分類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
機械システム工学部門	A	熱システム工学	山根浩二	1・2	後期	選択	2
		応用流体力学	安田孝宏	1・2	後期	選択	2
		燃焼工学	河崎 澄	1・2	後期	選択	2
		混相流工学	南川久人	1・2	前期	選択	2
	B	強度設計工学	田邊裕貴	1・2	後期	選択	2
		機械運動論	栗田 裕	1・2	後期	選択	2
		信頼性工学	高松 徹	1・2	後期	選択	2
		動的システム論	未定	1・2	前期	選択	2
	C	知的生産システム ※1	奥村 進	1・2	前期	選択	2
		品質工学 ※2	奥村 進	1・2	前期	選択	2
		NC工作機械	中川平三郎	1・2	前期	選択	2
		切削加工学	田中他喜男	1・2	前期	選択	2
	D	応用メカトロニクス論	未定	1・2	後期	選択	2
		非線形制御論	安田寿彦	1・2	前期	選択	2
		最適化システム論	森脇克己	1・2	前期	選択	2
		応用数理解析 ※2	松下泰雄	1・2	後期	選択	2
		現代数理概論 ※2	谷口義治	1・2	前期	選択	2
-	機械システム工学特別実験	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5	
	機械システム工学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5	
研究科共通	E	研究マネジメント	研究科教員	1・2	前期	選択	1
		電子システム特論	稲葉、乾、柳沢、福岡、竹内	1・2	前期	選択	2
		電子情報特論	作田、奥村、松下、岸根	1・2	後期	選択	2

※1 平成23年度不開講、 ※2 平成23年度のみ開講

科目分類

A	エネルギーと動力・流体工学関連科目
B	材料力学・機械ダイナミクス関連科目
C	生産工学・知能機械関連科目
D	メカトロニクス・応用数理関連科目
E	電子システム工学関連科目

科目名	研究マネジメント
担当教員	研究科教員
授業概要	個人においても組織においても、研究において大きな成果をあげるには、研究対象の学問分野そのものに対する能力だけでなく、研究活動を客観的に捉え、限られた時間と資源を有効に生かして研究を計画的に遂行する能力が必要である。また研究の方向、方法、成果の扱いには、様々な倫理的および法的側面を考慮する必要がある場合も多い。本科目ではこれらの概要と方法論について講述すると共に、その実施例の紹介を行う。
到達目標	(1) 研究について、時間管理、研究資源管理、組織管理などのマネジメントをできる (2) 研究における倫理的および法的遵守事項を理解する
テキスト 指定図書 参考書	プリントを適宜配布する
成績評価	レポート課題または小テスト(毎回課す 100%)

科目名	電子システム特論
担当教員	稲葉 博美・乾 義尚・柳澤 淳一・福岡 克弘・竹内 日出雄・坂本 眞一
授業概要	電子システム工学を支える基礎的な4つの要素、電気製品を動作させる電子回路、電子デバイスの機能と作製プロセス、電気や磁気に関するセンシングおよび発電や次世代エネルギーを研究するパワーエレクトロニクスについて講義する。
到達目標	各担当者の初回講義時に説明される。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを適宜配布する。
成績評価	レポート:100%

科目名	電子情報特論
担当教員	作田 健・奥村 進・松下 泰雄・岸根 桂路・宮城 茂幸・畑中 裕司
授業概要	電子工学や電気工学および応用数学によって支えられる情報・通信関連技術とその周辺について講義する。対象とする範囲は、デジタルシステムの基礎と応用、情報処理、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア、ネットワークである。
到達目標	デジタルシステムの基礎と応用、ロバスト設計、センシングシステムにおける信号処理、適応信号処理、画像処理、通信システムなど、さまざまな情報処理について、理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 適宜プリント配布 指定図書、参考書: 追加情報を参照すること
成績評価	小テスト(17%)、レポート(83%)で評価する。

科目名	先端複合材料科学
担当教員	佐川 尚※
授業概要	持続可能なエネルギー変換システムに関連する種々の材料開発について学習する。とくに太陽電池を中心に取り扱い、その他に蓄電池、燃料電池、水素利用システム、バイオエネルギー利用システムなどについても学び、現行および次世代エネルギー関連材料の知識や理解を深めることを目的とする。
到達目標	持続可能エネルギーシステム構築に関わる技術を理解するために必要な基礎ができ、関連する問題点を掘り起こし、提言までできるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	教科書は使用しない。講義プリントを適宜配布する。参考書は、課題により授業中に随時紹介する。
成績評価	小テスト50%、小レポート50%で成績を算出する。授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	遺伝子生化学
担当教員	松岡 健※
授業概要	機能性の生体成分を、遺伝子組換え技術を用いて異種生物で大量に生産したり、生体分子を生物学的に改変し、機能性高分子や有用低分子材料を創出する試みがなされており、これらのうち一部は既に実用化されている。これらの手法を理解する為には、遺伝子の発現制御機構と、遺伝子産物、及びそれによる代謝産物の構造と機能の理解が必須である。そこで本講義では、細胞と生体分子の構造と機能、遺伝子の複製と遺伝子発現機構、及び遺伝子工学、代謝工学、進化分子工学について、基本的な部分とその応用例について講義する。
到達目標	物質の視点から生命活動を理解すると共に、その応用についての智識を身につける。特に、遺伝子の働きと、その産物であるタンパク質・酵素の働きについての基本原理を理解し、またその応用によるバイオ材料の合成や、遺伝子組換え、進化工学等に関する智識を得る。
テキスト指定図書参考書	参考書： 鈴木紘一他訳「ホートン生化学」(東京化学同人) Bruce Alberts他著 中村桂子他訳「細胞の分子生物学」第5版 Newton Press
成績評価	レポート(70%)，毎回の小テスト(30%)

科目名	エネルギー変換材料
担当教員	菊地 憲次
授業概要	化学的エネルギーや物理的エネルギーを、電力などの他の形態のエネルギーに変換するための理論、プロセスとその材料について理解させる。このため、電気化学を基礎として、溶液系と固体系電解質内のイオンの挙動や、種々の形態に変換されたエネルギー貯蔵するための理論について解説し、一次電池・二次電池・全固体型二次電池・固体高分子電解質形燃料電池・固体酸化物形燃料電池・水の電気分解による水素生成等について講義する。
到達目標	(1)化学的エネルギーを電力などの他の形態のエネルギーに変換するための理論を説明できる。(2)溶液系と固体系電解質内のイオンの挙動を説明できる。(3)エネルギー貯蔵するための理論を理解する。(4)一次電池・二次電池・全固体型二次電池・固体高分子電解質形燃料電池・固体酸化物形燃料電池について理解する。(5)水の電気分解による水素生成等が理解できる。
テキスト指定図書参考書	参考書:エネルギー・資源リサイクル、亀山秀男、小島紀徳 培風館(1998), 固体高分子型燃料電池の開発と応用、エヌ・ティー・エス(2000), 固体酸化物型燃料電池と地球環境、田川博章、アグネ承風社(1998)固体アイオニックス、工藤徹一、笛木和雄、講談社(1991)
成績評価	講義中に課すレポート(80%)小テスト(20%)で評価する。

科目名	環境機能材料
担当教員	熊谷 勉
授業概要	環境機能材料として光化学反応のはたす役割について講義する。光化学は古くて新しい学問領域で、生物の生存や行動の基盤は光エネルギーに負うところが多く、光化学反応の重要性は古くから認識されてきた。光合成プロセスや光分解反応に関連して、また視覚認識のメカニズムを念頭におきながら、有機化合物の光励起状態における挙動と実際の光化学反応の特質について説明し、基底状態の化学との相違を理解することを目的にしている。
到達目標	有機化合物の基本的な光化学反応について説明できる
テキスト指定図書参考書	適宜プリントを配布し、講義中に参考書等の紹介もおこなう。
成績評価	筆記試験(60%) 提出レポート(40%)

科目名	機能界面化学
担当教員	秋山 毅
授業概要	機能デバイスを構築するプロセスとして重要な、界面・表面の機能化について講義する。特に、分子が持つ機能を基板や電極表面に付与する手法を中心に紹介し、関連するデバイス構築などについて述べる。
到達目標	界面や表面の機能化の手法・原理・特徴・応用例などについて理解できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜紹介する。
成績評価	レポート(100%)

科目名	金属機能材料プロセッシング
担当教員	宮村 弘
授業概要	合金や金属間化合物に新しい材料機能を付与するための種々のプロセッシングのひとつである粉末冶金の応用について述べる。最初に、金属材料と金属間化合物の合成法を概観し、それらの複合化による強化の原理と種々の手法について学習する。いくつかのプロセスを紹介したあと、さまざまな金属間化合物を用いたIMC(金属間化合物-金属複合材料)の特徴について解説する。また、各種金属間化合物の構造と格子欠陥についても解説する。
到達目標	メカニカルアロイング、急冷凝固などのプロセスによる非平衡金属間化合物の作製の原理、手法について理解する。種々の金属系材料の複合を作製する際の指針を立てることができる。材料の複合則により、材料強度を予想できる。化学量論組成からずれた化合物について、原子空孔の濃度を予想し、物性を予測することができる。
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布
成績評価	レポート(60%)、講義中の発表内容(40%)

科目名	金属材料物性
担当教員	近藤 淳哉
授業概要	金属材料の物性は構成元素、結晶構造、微細組織、材料形状等に依存するが、特に結晶格子欠陥、欠陥構造、結晶粒界といった微細組織に大きく依存し、また多種多様な微細組織を示すのが他の材料と異なる特徴である。本講義では、格子欠陥の種類、対称性、記述法を解説するとともに、格子欠陥と金属材料の強度を中心とした諸物性との関係を解説する。
到達目標	格子欠陥が結晶に及ぼす影響の基礎をを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布、参考書:日本金属学会編『材料強度の原子論』、加藤雅治著『入門転位論』、木村宏著『材料強度の考え方』、キッテル著『固体物理学入門(下)』
成績評価	定期試験(100%)

科目名	構造・化学機能セラミックス
担当教員	吉田 智
授業概要	本講義では、セラミックス材料の諸物性、特に力学的特性、化学的特性について、その発現機構を理解し、セラミックス材料以外の材料との類似点・相違点を考察する。また、講義中に受講者自らがおのおのの考察点を分かりやすく他者に説明し、少人数で材料科学的視点を持って問題点を討議する機会を設ける。本講義では特に、英文による研究論文の理解に重点をおき、研究対象とする材料以外の材料についても積極的に情報収集する能力、英文で正しく要点をまとめる能力を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・セラミックスの原子構造と物性について、英文解説の内容を理解し説明できること。 ・セラミックスの力学的性質と化学的性質について、英文解説の内容を理解し説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:山口喬著「科学英語を書く:論文英訳のポイント」培風館
成績評価	提出課題(30%) + 講義時間内発表および討議(70%)

科目名	酵素化学
担当教員	熊谷 勉 ・ 竹原 宗範
授業概要	酵素がいかんして強大な触媒作用能力を発揮するのかを明らかにすべく触媒作用機能を中心に、酵素の構造、活性中心、および活性調節など酵素パワーの本質を理解するのに必要な項目を学び、酵素の理解に努める。さらには酵素の性質の解析には必要不可欠なバイオテクノロジーの基礎を理解するとともに、この生体触媒がもたらす地球環境保全への寄与を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 酵素の反応特異性と反応機構に重要な知見を与える速度論的パラメーターのもつ意味を理解する。 (2) 酵素触媒反応における遷移状態と中間体の構造を理解し、反応機構を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:鈴木絃一他訳「ホートン生化学」(東京化学同人)
成績評価	プレゼンテーション(70%)・レポート(30%)

科目名	高分子材料合成
担当教員	谷本 智史
授業概要	新規高分子材料を開発するための基礎として、構造や分子量が精密に制御された高分子を合成する方法における最近の進展状況について講義する。特に高分子の生成手法として広く用いられている付加重合(ラジカル重合、イオン重合、配位重合など)を中心とする高分子の精密合成について述べるとともに、生成高分子の構造解析法についても解説する。
到達目標	リビング重合の反応機構を理解できるようになる。様々な共重合体の重合設計ができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布
成績評価	レポート80%、授業内発表20%

科目名	高分子材料物性
担当教員	徳満 勝久
授業概要	「レオロジー基礎論」村上謙吉著(産業図書)を用い、各章の分担を決めて毎週プレゼンテーション形式で発表を行い、内容のディスカッションを行う。
到達目標	高分子材料の力学物性に関する広範な現象に関する知識が修得できる。
テキスト 指定図書 参考書	「レオロジー基礎論」村上謙吉著(産業図書)
成績評価	プレゼンテーションとディスカッション、さらには最終レポート課題の内容で評価する

科目名	材料科学特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	材料科学の分野の中で、学生の修士論文のテーマに関連した諸分野の相互関連について体系的に教授すると共に、演習を行って応用の能力を養う。更に、研究成果を纏め上げ学内外で発表することで、自らの研究成果を異なった観点からも見つけ発展させる能力を養う。
到達目標	(1) 研究を行うための多様な実験方法および定量的データ解析方法に習熟する。 (2) 研究テーマについて自ら問題点を見だし、計画的に研究を遂行し、論理的に纏め上げられる能力を養う。 (3) 自らの得た研究成果について、文章、図表(英文表記を含む)および口頭で、他の人に明確に伝えられる能力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 関連論文など
成績評価	修士論文(50%) 研究で得られた学術的知見について、研究の背景、研究手法、結果、考察、全体のまとめを、論理的な構成で説明できていること。 研究発表(50%) 研究で得られた学術的知見について、資料を提示しながら口頭で的確に説明でき、その内容に対する質問に対し答えられること。

科目名	材料科学特別実験
担当教員	専攻教員
授業概要	材料科学の分野の中で、学生の修士論文のテーマに関連した学識の基礎について体系的に教授すると共に、実験を行って応用の能力を養う。更に、実験結果を系統的に処理し解釈することで研究テーマについての問題点を自ら見出し、これを解決する能力を養う。
到達目標	みずから研究計画を立案し、その計画を遂行し、結果について総合的に評価できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する
成績評価	修士論文の内容評価、普段からの研究態度の評価。

科目名	材料プロセス熱力学
担当教員	松岡 純
授業概要	材料の構造形成を支配している非平衡熱力学(Non-equilibrium Thermodynamics in Materials Processing)について、理論的背景と、簡単なモデルに基づく記述を中心に講述する。
到達目標	(1)凝縮系における時間に依存する現象や構造変化の概要を理解する (2)時間に依存する現象の熱力学に基づくモデル化について理解する
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布
成績評価	レポート(50%), 毎週の小テスト(50%)

科目名	生体機能化学特論
担当教員	井上 善晴※
授業概要	生物がもつさまざまな機能を、有用物質生産などの有効利用に結びつけるためには、生体内での遺伝子発現の制御機構や、代謝における生化学反応を理解する必要がある。それらの生体反応は一定ではなく、細胞をとりまく周囲の環境によって大きく変化する。本講義では、微生物、とくにわれわれの日々の生活と関わりの深い産業微生物であり、また分子細胞生物学のモデル生物としても重要な酵母を中心に、産業上での利用と基礎生物学上での利用の両面について、以下のような内容について講述する。
到達目標	原核生物と真核生物の違いを理解する。解糖系のメカニズムを学ぶことで、それが実際のアルコール発酵産業において、どのように利用されているかを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	適宜、プリント等を配布する。
成績評価	小テスト(50%)、レポート(50%)

科目名	先端無機材料科学
担当教員	高橋 亮治※
授業概要	21世紀は地球環境に調和した科学技術の発展が求められている。そのためにも、環境問題の実態を単なる感覚ではなく正確かつ定量的に理解したうえで、それに基づいてエネルギーおよび物質面で環境負荷の少ない社会を築く必要がある。様々な材料およびその合成時・廃棄時に生成する化学物質の環境における動態と影響、地球環境問題において期待されている無機材料の触媒化学における機能について講述する。
到達目標	人間活動において排出される物質による環境影響について具体的事例を挙げて説明できる。 環境科学における無機物質の機能と役割を具体的事例を挙げて説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介
成績評価	レポート、小テスト、レスポンスペーパー、プレゼンテーションより総合的に評価する。 なお、授業時間数の3分の1を超えて欠席した者は評価対象にしない。

科目名	先端有機材料科学
担当教員	坂本 健吉※
授業概要	有機ケイ素化合物の基礎と応用
到達目標	有機ケイ素化合物の基礎的な反応性や物性を理解し、応用についての知識を得る。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:有機ケイ素化学の応用展開—機能性物質のためのニューシーズ (CMCテクニカルライブラリー;新材料・新素材シリーズ)
成績評価	小テストおよびレポート(100%)

科目名	電子・光機能セラミックス
担当教員	吉田 智
授業概要	材料の電子・光機能性は、その電子構造によって決まる。本講義では、セラミックスの電子構造と、外場に対する応答性を理解し、様々な分野で用いられている電子・光機能セラミックスの特徴を理解する。理解をさらに深めるために、いくつかの特性に関するレポートを作成し発表する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・セラミックスのイオン導電性、圧電性、誘電性とその応用について、英文解説の内容を理解し説明できること。 ・セラミックスと電磁波の様々な相互作用とその応用について、英文解説の内容を理解し説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布
成績評価	発表(70%), レポート(30%)

科目名	天然高分子材料
担当教員	廣川 能嗣
授業概要	自然界には、自然の摂理に則り生まれた優れた材料が見られる。例えば、天然高分子は、自然が生み出し自然に同化する高分子であり、その利用は環境保全の観点からも重要と考えられる。本講では、天然高分子材料を中心に、「自然に学ぶこと」をキーワードに、材料の創製プロセスを構造とその作り方の両面から考えることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 代表的な天然高分子を3種類挙げて、その特徴について説明することができる。 (2) 天然高分子の利用分野について、その特徴と関係付けて説明できる。 (3) 天然高分子の構造形成とその機能性について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「自然に学ぶ材料プロセッシング」(三共出版)
成績評価	レポート(100%)で判定する。

科目名	光量子物性論
担当教員	奥 健夫
授業概要	最先端ナノテクノロジーから生命科学、自然環境から宇宙全体にいたるまで幅広い領域において、光と物質の相互作用が観察される。本講義では、我々の周囲にある光や物質がもつ情報を理解するための基礎を量子論的観点から学ぶ。光と原子を理解する物理学の基礎から、実際に身近にある様々な応用についても触れる。
到達目標	光と原子を理解する物理学の基礎から、実際に身近にある様々な応用について理解し応用する。
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜紹介する。
成績評価	レポート評価100%

科目名	非晶質無機材料
担当教員	松岡 純
授業概要	ガラスなどの非晶質無機材料 (Amorphous Inorganic Materials) は、光学特性や賦型性に優れ安定性も高いため、電子材料への用途が急増している。この講義では先端分野での応用例を示した後に、構造制御方法と物性発現機構を、物理化学、無機化学、物性論を基に講述する。
到達目標	(1) 非晶質に固有の基本的な概念を理解する (2) 非晶質の物性支配要因、および、構造と物性の相関に関し、概要を理解する
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布
成績評価	レポート(50%)、毎週の小テスト(50%)

科目名	複合材料工学
担当教員	山下 義裕
授業概要	複合材料は我々の日常生活の広範囲で利用されている。最新の航空機の総2階建てエアバスA380の自重の38%は複合材料でできている。ボーイングB787は50%である。一般機械分野では超高速印刷機のロールは高弾性炭素繊維がなければ実用不可能な部品である。土木・建築においても耐震レトロフィット構造をはじめ、超高層ビルの外壁は複合材料である。さらにカーボンナノチューブを用いた複合材料や複合系はスペースエレベーターの実現に向けて重要な役割を果たすだろう。このような先端複合材料についての高度な知識と実践について講義する。
到達目標	複合材料の成形方法を説明できる。 複合材料の設計ができる。
テキスト 指定図書 参考書	入門複合材料の力学
成績評価	発表50%、定期試験50%

科目名	無機ナノ粒子工学
担当教員	バラチャンドラン ジャヤデワン
授業概要	物質を原子分子から構成して新たな人工機能を生み出すことが注目を集めている。そこで本講義では、無機ナノ粒子をそのような幅広い研究開発の一部ととらえ、ナノ粒子効果、ナノ粒子合成の基礎、ナノ粒子合成手法、ナノ粒子分散媒の作製手法、ナノ粒子・構造体の物性評価についての、基礎知識を学ぶとともに、ナノ粒子の中でも重要な無機材料である磁性体および半導体材料の諸特性を理解し、実際に使用するときに必要な工学的な知識を身につける。また、ナノ材料を使用する上で重要と思われる安全性についても講義する。
到達目標	ナノ粒子効果、ナノ粒子合成の基礎、ナノ粒子合成手法、ナノ粒子分散媒の作製手法、ナノ粒子・構造体の物性評価、安全性についての知識を修得し、実用材料の特性を把握する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書: 本間芳和、北森武彦『ナノテックのための化学・材料入門』 共立出版株式会社 Marie-Isabelle Baraton『Synthesis, Functionalization and Surface Treatment of Nanoparticles』 American Scientific Publishers Geoffrey A Ozin and Andre C Arsenault『Nanochemistry - A Chemical Approach to Nanomaterial』RSC Publishing
成績評価	小テスト(40%)、定期試験(60%)

科目名	有機材料設計
担当教員	井上 吉教
授業概要	低分子有機材料については、精密合成反応を理解する上で必要な考え方を、量子化学論により理論的に解説する。また、高分子有機材料については、設計する上で必要な考え方を、例を挙げながら説明する。
到達目標	低分子については紫外・可視スペクトルに関して量子化学による計算で分子の設計ができる。高分子については最近の機能性分子設計の基本的な考え方などを身につけることができる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:機能性色素の分子設計(丸善株式会社)、基礎量子化学(朝倉書店)、図解高分子新素材のすべて(工業調査会)
成績評価	レポート(100%)

科目名	NC工作機械
担当教員	中川 平三郎
授業概要	金属加工機械、半導体製造設備等工作機械といわれる大部分は、コンピュータによって数値制御されている。熟練していなくてもある程度の精度を持った加工がボタンひとつで加工できるようになっているのも、数値制御のお陰である。ところが、工作機械の中身は非常に複雑で、様々な工夫がなされている。工作機械は1つのシステムであり、様々な分野の研究開発成果が凝縮されている。大学院の講義であるから、英語のテキストを使用し技術専門用語を習得してもらう。
到達目標	(1)CNC工作機械のシステムを理解すること (2)英語の専門用語を習得すること (3)日本と海外の研究視点を理解すること (4)工作機械の発達の歴史を習得すること
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:別途配布 指定図書:CNC Machining Technology(Springer-Verlag) 参考書:Machining Process(Taylor & Francis) 現代切削理論 Microengineering of Metals and Ceramics(Wiley-VCH)
成績評価	毎回のプレゼンテーションで評価する

科目名	応用数理解析
担当教員	松下 泰雄
授業概要	変分法とその広範な応用について講義する。工学、応用数学、物理学などに現れる基礎方程式の多くは微分方程式である。ところで、これらの基礎方程式がどのようにして導かれるかということを理論的かつ体系的に構築されたものが変分法である。変分法の枠のなかの1つの理論という観点から、解析力学をとらえ直す。
到達目標	簡単なオイラー方程式をたてられる。保存量を理解している。 簡単な2自由度の力学を解くことができる。
テキスト 指定図書 参考書	講義資料を適宜配布する。
成績評価	レポート課題の結果によって評価する。

科目名	応用メカトロニクス論
担当教員	未定
授業概要	未定
到達目標	未定
テキスト 指定図書 参考書	未定
成績評価	未定

科目名	応用流体力学
担当教員	安田 孝宏
授業概要	各種構造物や流体機械を設計する際にはその流体力特性の把握や流体関連振動, 騒音対策が重要となる。本講義では種々な断面形状を有する物体周りの渦流れと流体力との関連や流体関連振動, 騒音について講述する。また, 物体周りの流れや流体力に関する可視化手法, 計測技術や差分法を用いた数値計算手法について述べる。
到達目標	(1)流体関連振動について理解し, 物体形状や振動要因の種類により異なる流体力や振動の大きさを見積もることが出来る。 (2)流体騒音に関する式や渦流れとの関連が理解できる。 (3)流体の測定手法や可視化手法を理解できる。 (4)差分法を用いた数値流体解析の手法を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	授業中にプリントを配付
成績評価	レポート課題(100%)

科目名	機械運動論
担当教員	栗田 裕
授業概要	機械の運動解析と制御の基礎を, 講義と実習を通して修得する。多くの機械は, その目的を達成するために, 回転運動や往復運動を行う。質量や慣性モーメントをもつ機械に, 望みどおりの運動をさせるためには, 機構をうまく設計するだけでなく, アクチュエータが発生する力やトルクをうまく制御する必要がある。本講義では, 力学や機械力学の知識だけでなく, 制御工学や電磁気学, 材料力学, 流体力学など関連する分野の知識を活用して, 機械の運動を解析し制御する技術を身につける。
到達目標	力学や機械力学だけでなく, 制御工学や電磁気学, 材料力学, 流体力学など関連する分野の知識を活用して, 機械の運動を解析し制御することができる。
テキスト 指定図書 参考書	プリントを配布する。
成績評価	プロジェクト発表・質疑応答(50%), レポート(50%)

科目名	機械システム工学特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	大学院修士課程の一年次～二年次において履修すべき科目で, 専攻教員の指導のもとに, 各自が内外の著書および論文の輪講を行い, 修士の学位論文作成のための演習を実施する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。
成績評価	

科目名	機械システム工学特別実験
担当教員	専攻教員
授業概要	大学院修士課程の一年次～二年次において履修すべき科目で、専攻教員の指導のもとに、機械システム工学に関する研究テーマについて実験的・理論的研究を行う。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。
成績評価	

科目名	強度設計工学
担当教員	田邊 裕貴
授業概要	機械構造物の強度設計ならびに保守管理に必要となる材料の強度特性、部材の損傷の種類、機構、評価技術などに関する知識や理論を講述する。また、CVD, PVDをはじめとする各種表面改質技術を紹介し、材料の高強度・高機能化法の基本的な考え方や適切な利用方法について解説する。
到達目標	破壊力学、疲労、損傷評価技術、表面改質技術等の基礎を理解し、機械構造物の強度設計や保守管理に活用できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキストなし(資料配付)、参考書「材料強度学」(日本材料学会)
成績評価	レポート(100%)

科目名	現代数理概論
担当教員	谷口 義治
授業概要	数理科学は、伝統的な代数学や幾何学等の分野を含めて、近年、工学の分野にも著しく展開しつつある。この科目では現代数理科学に特徴的な考え方を紹介する。論理記号の解説から始めて、解析学の基礎と集合論への入門を解説する。
到達目標	論理記号に習熟し、基本的な応用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	なし。
成績評価	レポート(50%)、発表(50%)。

科目名	混相流工学
担当教員	南川 久人
授業概要	各種工業で扱う流れをはじめ、人間生活環境あるいは自然界に存在する流れの大部分は、気体・液体・固体が混在する混相流状態にある。本講義では混相流の分類、各種物理量の定義、基礎方程式とモデル、流動様式、体積率、圧力降下、局所構造等に関して講述する。さらに混相流の実験・計測技術について述べる。
到達目標	(1)工業分野や自然界にどのような混相流が存在するかを例示できる。 (2)円管内混相流について、流動条件から、流動様式、ボイド率、圧力降下を推算できる。 (3)気泡の形状や流動、マイクロバブルの特徴を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書「気液二相流技術ハンドブック」(コロナ社)
成績評価	通常レポート(40%), 最終レポート(60%)

科目名	最適化システム論
担当教員	森脇 克巳
授業概要	システム制御の立場から最適性について論考する。最適性の原理とダイナミック・プログラミングによって考察されてきた従来の最適制御問題を拡張して定式化した、ノルム最適化制御問題を講義のテーマの中心として取り上げ、システムとシステムを取り巻く外的環境をも考慮したシステムの設計と制御に関する最適化制御問題を考察する。また、ロバスト制御やH-無限大制御、適応学習制御などの現代制御理論において研究テーマになっている最適性との関連についても言及する。教材は外国語のテキストも、適宜、活用する。
到達目標	(1)最適性の原理とダイナミック・プログラミングを理解して最適制御問題を解くことができる。 (2)ロバスト制御やH-無限大制御の概念を理解して制御問題を考察できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:吉川恒夫, 井村順一共著 「現代制御論」(昭晃堂)
成績評価	定期試験(60%), レポート(40%)

科目名	信頼性工学
担当教員	高松 徹
授業概要	機械・構造物の設計においては、環境への負荷をできるだけ小さくすることが必要である。そのためには環境との調和を意識した材料の選択だけでなく、信頼性、機能、コストなどを考慮した設計が必要である。本講義では、信頼性を考慮した設計のための、信頼性工学の基礎、信頼性工学に基づく強度・寿命推定、信頼性工学に基づく設計などに関して講義する。
到達目標	寿命分布として用いられる様々な確率分布が理解できる。システムの信頼性が計算できる。極値分布に基づいて、最大値、最小値の推定ができる。故障解析ができる。材料強度の分布特性が理解できる。セラミック部材の強度設計ができる。
テキスト 指定図書 参考書	特になし。講義資料を配付する。
成績評価	課題(50%) 定期試験(50%) 上記の評価法において、信頼性工学の様々な問題を正確に解答できること。

科目名	切削加工学
担当教員	田中 他喜男
授業概要	切削加工における材料の被削性は、加工経費や加工精度など、機械部品の品質に大きな影響を与える重要な性質である。材料の被削性(機械の軽量化に伴って需要の増加しつつある耐熱性・耐摩耗性を有する難削材を含めて)と最適な加工条件について、材料学的な見地から詳しく解説し、講義する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 特になし 参考図書: 中嶋利勝・鳴瀧則彦共著「機械加工学」(コロナ社), 杉田忠彰・上田完次・稲村豊四郎著「基礎切削加工学」(共立出版)
成績評価	定期試験60%, 小テスト/レポートをあわせて40%により評価。

科目名	知的生産システム
担当教員	奥村 進
授業概要	ライフサイクルデザインなど環境配慮型製品設計を扱った英語文献の輪読を通じて、機械技術者が考慮すべき環境配慮型製品設計に関する考え方について学ぶ。併せて英語文献を日本語のレジюмеとして適切にまとめ上げる能力の習得と要領を得たプレゼンテーション技法の獲得を目指す。
到達目標	(1) 環境配慮型製品設計の基本的な考え方を理解できる。 (2) 英語文献を日本語のレジюмеとして適切にまとめ上げる能力を修得するとともに、要領を得たプレゼンテーション技法を獲得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: プリントを適宜配布する。 参考書「追加情報」を参照のこと。
成績評価	レポート(50%)、平常点評価(50%)

科目名	動的システム論
担当教員	未定
授業概要	未定
到達目標	未定
テキスト 指定図書 参考書	未定
成績評価	未定

科目名	熱システム工学
担当教員	山根 浩二
授業概要	熱システムの中で内燃機関を取り上げ、その性能をPCベースで数値予測するためのエンジンサイクルシミュレーションに関して、吸排気系、燃焼系など熱流体工学の計算手法、サイクルシミュレーションの構造を理解する。本講では、原著論文を翻訳し、理解し、自ら調べた内容とともにプレゼンテーションすることを基本としているが、単に英文和訳ではなく、まとめる能力と発表力を身につけ、自学自習できる能力を養うことを狙いとしている。
到達目標	(1) 内燃機関の熱力学的サイクルシミュレーションの基礎が理解できる。 (2) サイクルシミュレーションに関する英論文を和訳しまとめることができる。
テキスト 指定図書 参考書	プリント
成績評価	本講義は、受講者が行うプレゼンテーションのレジメ提出(50%)、発表(30%)およびレポート提出(20%)によって評価する。

科目名	燃焼工学
担当教員	河崎 澄
授業概要	燃焼形態や化学量論などの基礎事項のほか、反応速度論や化学平衡などの燃焼の化学、着火過程、層流炎や乱流炎などの構造や安定性に関わる燃焼現象論、燃焼計算、燃焼における有害汚染物質の生成メカニズムなどに関して講述する。
到達目標	燃焼形態や化学量論などの基礎事項を理解できる。反応速度論や化学平衡などの燃焼の化学を理解できる。着火過程、層流炎や乱流炎などの構造や安定性に関わる燃焼現象論を理解できる。燃焼における有害汚染物質の生成メカニズムを理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書「燃焼工学」(森北出版)
成績評価	レポート(100%)

科目名	非線形制御論
担当教員	安田 寿彦
授業概要	制御システムには非線形特性を有する要素が含まれる場合が一般的である。自励振動、分岐現象などの非線形現象について解説し、さらに、非線形システムのモデリング、解析法、安定性およびその制御法について述べる。非線形制御システムの定量的・定性的な解析方法について解説する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	参考図書「非線形システムの解析」(オーム社)
成績評価	定期試験(50%)、レポート課題(50%)

科目名	品質工学
担当教員	奥村 進
授業概要	製造企業では高品質の製品を安く、かつタイミングよく提供することが重要である。本講義では、品質の立場から、製品企画、製品設計、生産準備および製造のそれぞれの段階において、品質を評価し、それを向上させるための方法を扱う。とくに田口玄一による品質設計(タグチメソッド)に関する英語文献の輪読を通じて、機械技術者が考慮すべきロバスト設計に関する基本的な考え方について学ぶ。併せて英語文献を日本語のレジュメとして適切にまとめ上げる能力の習得と要領を得たプレゼンテーション技法の獲得を目指す。
到達目標	(1) 品質設計(タグチメソッド)に関する基本的な考え方を理解できる。 (2) 英語文献を日本語のレジュメとして適切にまとめ上げる能力を修得するとともに、要領を得たプレゼンテーション技法を獲得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: プリントを適宜配布する。 参考書: 立林 和夫著「入門タグチメソッド」(日科技連出版社)
成績評価	レポート(50%)、平常点評価(50%)

人間文化学研究科博士前期課程 科目履修の手引

◆地域文化学専攻

1 博士前期課程修了要件

- ① 科目の履修にあたっては、下記の科目配当表と開講科目の講義概要、ならびに年度当初に行われる所属研究科・専攻単位でのオリエンテーション時の説明を十分聞いた上で、指導教員の承認を得て履修すること。
- ② 修了要件：必修科目 16 単位ならびに選択科目 14 単位以上の計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して論文審査および最終試験に合格すること。なお、所属する専攻が認める場合、他専攻（生活文化学専攻）および他研究科開講科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。
- ③ 教員免許の取得を希望する者は、別掲の選択科目から少なくとも、4 科目 8 単位以上を修得すること。
- ④ 学部開講の授業科目については、指導教員の指示に従い受講することができるが、修得した単位を修了要件単位数に算入することはできないので注意すること。
- ⑤ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P126 を参照すること。

2 年次別科目配当表

授業科目の名称	担当教員	配当 年次	期間	単位数			備考
				必修	選択	自由	
(共通科目)							
Japanese Culture and Civilization	黒田、石田、面矢	1・2	後期		2		
異文化接触論	刈ッガ-、富島	1・2	前期		2		
ヨーロッパ地域文化論	石田、刈ッガ-、呉	1・2	後期		2		
	上村、外狩、長島、山本						
(日本・地域文化論部門)							
日本生活文化論	市川、石川、米田	1・2	前期		2		
日本考古学 A *1	定森、中井	1・2	前期		2		
日本考古学 B *2	定森、中井、大道	1・2	前期		2		H21 年度以前入学生：「日本考古学」
環琵琶湖地域論 A *1	水野、東、武田	1・2	後期		2		
環琵琶湖地域論 B *2	水野、東、武田	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生：「環琵琶湖地域論」
女性史・ジェンダー論 A *1	京楽、河	1・2	後期		2		
女性史・ジェンダー論 B *2	京楽、河	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生：「女性史・ジェンダー論」
美術史特論 A *1	亀井	1・2	前期		2		
美術史特論 B *2	亀井	1・2	前期		2		H21 年度以前入学生：「美術史特論」、 H20 年度以前入学生：「感性学特論」
社会学特論 A *1	武田	1・2	前期		2		
社会学特論 B *2	武田	1・2	前期		2		H21 年度以前入学生：「周縁文化論」
地域産業論 A *1	塚本	1・2	前期		2		
地域産業論 B *2	塚本	1・2	前期		2		H21 年度以前入学生：「地域産業論」
(アジア・地域文化論部門)							
中国文化史特論	辻	1・2	前期		2		
北東アジア地域史 A *1	田中(俊)	1・2	前期		2		
北東アジア地域史 B *2	ブレザイ、河	1・2	前期		2		
朝鮮史特論 A *1	河	1・2	前期		2		
朝鮮史特論 B *2	田中(俊)	1・2	前期		2		

アジア考古学A *1	定森、濱崎	1・2	後期		2	
アジア考古学B *2	定森、濱崎	1・2	後期		2	H21年度以前入学生:「アジア考古学」
モンゴル・テ ィアスホ ーラ論A *1	ブレザン、島村	1・2	後期		2	
モンゴル・テ ィアスホ ーラ論B *2	ブレザン、島村	1・2	後期		2	H21年度以前入学生:「モンゴル・テ ィアスホ ーラ論」、H20年度以前入学生:「遊牧地域文化論」
トランス・ヒマラヤ文化論	棚瀬	1・2	前期		2	
現代中国特論A *1	荒井	1・2	後期		2	
現代中国特論B *2	荒井	1・2	後期		2	H21年度以前入学生:「現代中国特論」
(考現学・保存修景論部門)						
考現学・保存修景特論*1	濱崎、面矢	1・2	前期		2	
環琵琶湖保存修景計画論A*1	濱崎、石川	1・2	後期		2	
環琵琶湖保存修景計画論B*2	濱崎、石川	1・2	後期		2	H21年度以前入学生:「環琵琶湖保存修景計画論」
地域文化遺産調査・情報論	濱崎、石川	1・2	前期		2	
地域展開論A *1	黒田	1・2	前期		2	
地域展開論B *2	黒田	1・2	後期		2	
(特別演習・特別研究)						
地域文化学特別演習	専攻教員全員	1~2	通年	8		
地域文化学特別研究	専攻教員全員	1~2	通年	8		
(就職関連)						
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期		1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期		2	

* 1 偶数年度 (H24, H26, . . .) に開講される。

* 2 奇数年度 (H23, H25, . . .) に開講される。

3 修士の学位審査基準

大学院指導資格を有する該当部門の教員を主査とし、同じく大学院指導資格を有する専攻科の教員(論文の主題に応じて、当該部門に限定しない)2名を副査とする審査委員が熟読したうえで、口頭試問を実施し、下に示す基準に照らし合わせて可否を判断する。

- ① 40000字を基本とし、学史をふまえ、独創的な内容をもつこと。
- ② 各部門における学術論文としての体裁を整えていること。
- ③ 口頭試問において、適切な対応ができていること。

人間文化学研究科博士前期課程 科目履修の手引

◆生活文化学専攻

1 博士前期課程修了要件

- ① 科目の履修にあたっては、下記の科目配当表と開講科目の講義概要、ならびに年度当初に行われる所属研究科・専攻単位でのオリエンテーション時の説明を十分聞いた上で、指導教員の承認を得て履修すること。
- ② 修了要件：必修科目 16 単位ならびに選択科目 14 単位以上の計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して論文審査および最終試験に合格すること。なお、所属する専攻が認める場合、他専攻（地域文化学専攻）および他研究科開講科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。また、平成 22 年度以前入学生も、平成 23 年度新規開講科目を受講することができ、その修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。
- ③ 教員免許の取得を希望する者は、別掲（第 4 章「資格取得等の手引」）の選択科目から必要単位を修得すること。
- ④ 学部開講の授業科目については、指導教員の指示に従い受講することができるが、修得した単位を修了要件単位数に算入することはできないので注意すること。
- ⑤ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P126 を参照すること。

2 年次別科目配当表

授業科目の名称	担当教員	配当 年次	期間	単位数			備考
				必修	選択	自由	
(共通科目)							
Japanese Culture and Civilization	黒田、石田(法)、面矢、クリンガ、富島	1・2	後期		2		
現代生活論Ⅰ	灘本、亀田、呉、森下、佐々木	1・2	前期		2		
現代生活論Ⅱ	吉田(一)、那須、大橋、竹下、細馬	1・2	後期		2		*2 (注)
(生活デザイン部門)							
地域生活空間特論	山根	1・2	前期		2		H21 以前入学生：住空間デザイン特論
室内環境計画特論	宮本	1・2	後期		2		
空間デザイン特論	佐々木	1・2	後期		2		
道具デザイン特論Ⅰ	面矢	1・2	前期		2		
道具デザイン特論Ⅱ	印南	1・2	後期		2		
服飾デザイン特論	森下	1・2	前期		2		
衣料素材・染色科学特論	道明	1・2	後期		2		
生活文化学特別演習（生活デザイン分野）	専攻教員全員	1～2	通年	8			
生活文化学特別研究（生活デザイン分野）	専攻教員全員	1～2	通年	8			
(健康栄養部門)							
栄養制御論	柴田(克)	1・2	後期		2		*2 (注)
健康運動学特論	寄本、南(和)	1・2	後期		2		*2 (注)
食素材特論	灘本	1・2	前期		2		*2 (注)
栄養応答論	福渡	1・2	後期		2		*1 (注)

臨床栄養血液学	高山	1・2	前期	2	*1 (注)
臨床栄養管理研究	福井	1・2	前期	2	*1 (注)
栄養教育特論	吉田 (龍)	1・2	前期	2	*2 (注)
食品機能論	浦部 (貴)	1・2	後期	2	*1 (注)
学校栄養教育実践特論	大谷	1・2	前期	2	*1 (注)
調理科学特論	松井 (元)	1・2	前期	2	*1 (注)
食品栄養特論	小西、伏木、木戸	1・2	前期	2	*1 (注)
児童健康問題特論	福井	1・2	後期	2	*2 (注)
運動処方学特論	寄本、南 (和)	1・2	前期	2	*1 (注)
行動学特論	上野、細馬	1・2	前期	2	*2 (注)
地域食育実践学特論	岡本	1・2	後期	2	*1 (注)
栄養機能科学特論	吉田 (宗)、吉村、渡辺	1・2	前期	2	*2 (注)
食文化特論	堀越	1・2	前期	2	*2 (注)
小児医学特論	多賀、高野、松井 (克)	1・2	前期	2	*2 (注)
生活文化学特別演習 (健康栄養分野)	専攻教員全員	1～2	通年	8	
生活文化学特別研究 (健康栄養分野)	専攻教員全員	1～2	通年	8	
(人間関係部門)					
学校教育・生活指導論特講	吉田 (一)、篠原、木村	1・2	後期	2	*1 (注)
比較行動論特講	細馬、上野	1・2	前期	2	*2 (注)
行動発達論特講	竹下、松嶋	1・2	後期	2	*1 (注)
社会・地域変動論特講	大橋	1・2	前期	2	*2 (注)
社会学特講	中村、丸山	1・2	前期	2	H22 以前入学生：比較社会文化論特講
生活文化学特別演習 (人間関係分野)	専攻教員全員	1～2	通年	8	
生活文化学特別研究 (人間関係分野)	専攻教員全員	1～2	通年	8	
(就職関連)					
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期		1
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期		2

* 1 偶数年度 (H24, H26, . . .) に開講される。

* 2 奇数年度 (H23, H25, . . .) に開講される。

(注) 隔年開講科目ですので、健康栄養部門、人間関係部門で平成 24 年度不開講科目の履修を希望する者は、今年度必ず履修すること。

3 修士の学位審査基準

大学院指導資格を有する主査 1 名および副査 2 名からなる審査委員が、下記に照らし合わせ審査を行う。

- ① 修士論文および最終試験については次の②と③の基準を満たすこと。最終試験は主に修士論文の内容について、口頭試問を行う。
- ② 修士論文は生活文化学の新規な知見を含み、その内容が学術的な価値を有すると判断されること。
- ③ 最終試験により、生活文化学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づく研究能力を有すると認められること。

ただし生活デザイン部門では、論文の成果として制作物を提出する場合、制作物も評価の対象とする。

人間文化学研究科博士前期課程履修モデル

A 人材養成目標

「生活」とその生活の場である「地域」を対象とする教育研究、体系的な生活デザイン論の構築と総合的能力の育成、食の総合的スペシャリストの養成と科学的基盤の形成、個と集団の発達のダイナミクスやコミュニケーションにかかわる教育研究といった学部段階の到達点の継承と、さらに人間的な生活文化および生活スタイルの創造に寄与する教育研究を行い、幅広い視野と豊かな人間性、積極的な行動力を身につける研究者および専門的職業人の養成を図ることが当研究科の教育目標である。この教育目標を達成するために、次の2専攻6部門の履修モデルプログラムを設定している。

I 地域文化学専攻

①日本・地域文化論部門履修モデル

本部門は、環琵琶湖文化論など、近江や日本を基盤として社会文化を考察する。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通科目	Japanese Culture and Civilization	黒田、石田、面矢、クリンガー、富島	1・2	後期	選択	2
	異文化接触論	石田、クリンガー、呉	1・2	前期	選択	2
	ヨーロッパ地域文化論	上村、外狩、長島、山本	1・2	後期	選択	2
	地域文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	地域文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	日本生活文化論	市川、石川、米田	1・2	前期	選択	2
	日本考古学A	定森、中井	1・2	前期	選択	2
	日本考古学B	定森、中井、大道	1・2	前期	選択	2
	環琵琶湖地域論A	水野、東、武田	1・2	後期	選択	2
	環琵琶湖地域論B	水野、東、武田	1・2	後期	選択	2
	女性史・ジェンダー論A	京楽、河	1・2	後期	選択	2
	女性史・ジェンダー論B	京楽、河	1・2	後期	選択	2
	美術史特論A	亀井	1・2	前期	選択	2
	美術史特論B	亀井	1・2	前期	選択	2
	社会学特論A	武田	1・2	前期	選択	2
	社会学特論B	武田	1・2	前期	選択	2
	地域産業論A	塚本	1・2	前期	選択	2
地域産業論B	塚本	1・2	前期	選択	2	

②アジア・地域文化論部門履修モデル

本部門は、アジア地域に広がるそれぞれ独自の文化を比較し、日本文化との異同性・関連性について教育研究する。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通科目	Japanese Culture and Civilization	黒田、石田、面矢、クリンガー、富島	1・2	後期	選択	2
	異文化接触論	石田、クリンガー、呉	1・2	前期	選択	2
	ヨーロッパ地域文化論	上村、外狩、長島、山本	1・2	後期	選択	2
	地域文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	地域文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	考現学・保存修景特論	濱崎、面矢	1・2	前期	選択	2
	環琵琶湖保存修景計画論A	濱崎、石川	1・2	後期	選択	2
	環琵琶湖保存修景計画論B	濱崎、石川	1・2	後期	選択	2
	地域文化遺産調査・情報論	濱崎、石川	1・2	前期	選択	2
	地域展開論A	黒田	1・2	前期	選択	2
	地域展開論B	黒田	1・2	前期	選択	2

③考現学・保存修景論部門履修モデル

本部門は、地域社会の現状を観察・記録・点検し、その考現学的考察を通じて、地域の生活分野を特色づけている歴史的環境や地域の「文化財」を再評価し、生活空間の活性化をはかるために、その保存と活用の方法を探る教育研究を行う。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通科目	Japanese Culture and Civilization	黒田、石田、面矢、クリンガー、富島	1・2	後期	選択	2
	異文化接触論	石田、クリンガー、呉	1・2	前期	選択	2
	ヨーロッパ地域文化論	上村、外狩、長島、山本	1・2	後期	選択	2
	地域文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	地域文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	考現学・保存修景特論	濱崎、面矢	1・2	前期	選択	2
	環琵琶湖保存修景計画論A	濱崎、石川	1・2	後期	選択	2
	環琵琶湖保存修景計画論B	濱崎、石川	1・2	後期	選択	2
	地域文化遺産調査・情報論	濱崎、石川	1・2	前期	選択	2
	地域展開論A	黒田	1・2	前期	選択	2
	地域展開論B	黒田	1・2	前期	選択	2

II 生活文化学専攻

①生活デザイン部門履修モデル

本部門は、住環境をはじめとして生活環境のなかでのデザインを扱い、健全なライフスタイルと生活環境をデザインすることを目的とし、実践的な教育研究を展開する。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通科目	Japanese Culture and Civilization	黒田、石田、面矢、クリンガー、富島	1・2	後期	選択	2
	現代生活論Ⅰ	灘本、亀田、佐々木、呉、森下	1・2	前期	選択	2
	現代生活論Ⅱ	吉田(一)、那須、大橋、竹下、細馬	1・2	後期	選択	2
	生活文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	生活文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	地域生活空間特論	山根	1・2	前期	選択	2
	室内環境計画特論	宮本	1・2	前期	選択	2
	道具デザイン特論Ⅰ	面矢	1・2	前期	選択	2
	道具デザイン特論Ⅱ	印南	1・2	後期	選択	2
	服飾デザイン特論	森下	1・2	前期	選択	2
	衣料素材・染色科学特論	道明	1・2	後期	選択	2

②健康栄養部門履修モデル

本部門は、食に関する基礎から応用までの生活科学に運動生理領域をも加え、幅広い諸問題に取り組み、健康生活の実現を目的とした教育研究を行う。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通科目	Japanese Culture and Civilization	黒田、石田、面矢、クリンガー、富島	1・2	後期	選択	2
	現代生活論Ⅰ	灘本、亀田、佐々木、呉、森下	1・2	前期	選択	2
	現代生活論Ⅱ	竹下、吉田(一)、那須、大橋、細馬	1・2	後期	選択	2
	生活文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	生活文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	栄養制御論	柴田(克)	1・2	後期	選択	2
	健康運動学特論	寄本、岡本、南(和)	1・2	後期	選択	2
	食素材特論	灘本	1・2	前期	選択	2
	栄養応答論	福渡	1・2	後期	選択	2
	臨床栄養血液学	高山	1・2	前期	選択	2
	臨床栄養管理研究	福井	1・2	前期	選択	2
	栄養教育特論	吉田(龍)	1・2	前期	選択	2
	食品機能論	浦部	1・2	後期	選択	2
	学校栄養教育実践特論	大谷	1・2	前期	選択	2
	調理科学特論	松井(元)	1・2	前期	選択	2
	食品栄養特論	小西、伏木、木戸	1・2	前期	選択	2

③人間関係部門履修モデル

本部門は、望ましい生活環境を創造することができる、新たな人間関係を創出することを目的に、人間の発達・形成、「社会化」のメカニズム、および現代社会における人間関係の特性を、心理学・社会学・教育学等の立場から教育研究する。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通科目	Japanese Culture and Civilization	黒田、石田、面矢、クリンガー、富島	1・2	後期	選択	2
	現代生活論Ⅰ	灘本、亀田、佐々木、呉、森下	1・2	前期	選択	2
	現代生活論Ⅱ	吉田(一)、那須、大橋、竹下、細馬	1・2	後期	選択	2
	生活文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	生活文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	学校教育・生活指導論特講	吉田(一)、篠原、木村	1・2	後期	選択	2
	比較行動論特講	細馬、上野	1・2	前期	選択	2
	行動発達論特講	那須、竹下、松嶋	1・2	後期	選択	2
	社会・地域変動論特講	大橋	1・2	前期	選択	2

科目名	Japanese Culture and Civilization
担当教員	黒田 末壽・石田 法雄・富島 義幸・ウォルター・クリンガー・面矢 慎介
授業概要	The course presents a view of Japanese civilization as formed by religious expression, particularly Buddhism, through a study of its representation in temple architecture, through its interpretation in films, through its relationship with the development of Japanese household objects and tools, and through a view of human patters and body movements as the Meiji government tried to modernize every domain of cultural and social systems of Japan.
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	Material will be handed out in class.
成績評価	Response cards: two words/phrases of the day (30%) Report (70%)

科目名	異文化接触論
担当教員	石田 法雄・ウォルター・クリンガー・呉 凌非
授業概要	異文化相互の接触、交流、比較を理解し論ずるに当たり、二つの立場が要求される。一つは両者が持つ主観的価値観への造形、一つは差異の認識に先立っての両者の共通項の理解及び熟知であろう。言い換えれば、個別性(particularity)と普遍性(universality)の会得である。そのためには、客観的な立場をとりながら、且つ葛藤を伴いながらの、主体的に相手との一致を意味する共感(sympathy)と、相手の中に自分を移し入れる感情移入(empathy)が時に要求される。これらの立場・理解をふまえ、異地域文化圏の接触の実体とその意味を、西洋・東洋の比較文化的観点から論究する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	講義中に配布
成績評価	クラス・パティシペーション(20%)、レポート(80%)

科目名	現代生活論 I
担当教員	灘本 知憲・森下 あおい・亀田 彰喜・呉 凌非・佐々木 一泰
授業概要	現代生活の問題点を、食・住・衣・情報化の面からオムニバス方式により批判的に検討する。具体的には以下のテーマによって行う。 (灘本教授) 現代食生活の問題点 (亀田准教授) 情報化社会における生活情報 (呉准教授) 現代中国における食文化の変化 (森下准教授) 現代衣生活の問題点 (佐々木講師) 生活空間の現状と課題
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	なし、プリント、パワーポイントにより実施
成績評価	発表・報告40%、レポート60%

科目名	現代生活論Ⅱ
担当教員	吉田 一郎 ・ 那須 光章 ・ 大橋 松行 ・ 竹下 秀子 ・ 細馬 宏通
授業概要	現代生活における人間関係での諸問題をオムニバス方式により、それぞれの専門領域から批判的に検討する。
到達目標	現代生活における人間関係に関わる諸問題について心理学、社会学、教育学の専門領域からアプローチして、人間関係論の発展的な課題と方法について考察を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:特に定めない。必要に応じて資料、文献、論文を配布する。
成績評価	発表・報告(40%) レポート(60%)

科目名	ヨーロッパ地域文化論
担当教員	上村 盛人 ・ 外狩 章夫 ・ 長島 律子 ・ 山本 薫
授業概要	近世・近代においてヨーロッパ地域の人々が、自らの居住地域を統一的文化圏と捉え、この意識の上に立って、時代時代の政治、社会、思想その他、内外にわたる全体状況に対し、言語文化的にいかに対応したかを、アングロ・サクソン、ロマンス両地域文化圏にわたって多角的視点から、言語、あるいは、文学者とその作品を論及することを通じて考察し、西洋地域文化論の構築を試みる。
到達目標	近世・近代におけるヨーロッパ地域、特に、アングロ・サクソン、ロマンス両地域文化圏に関して、時代時代の政治、社会、思想その他、内外にわたる全体状況に対し、言語文化的にいかに対応したかを多角的視点から理解することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。
成績評価	レポート100% 但し、三分の一以上授業を欠席した者は評価対象としない。

科目名	アジア考古学A
担当教員	定森 秀夫・濱崎 一志
授業概要	シリアから朝鮮半島までの広大なアジア地域の考古学の成果を概述する。パキスタン・シリアの西アジア考古学、モンゴル・朝鮮の東アジア考古学(朝鮮三国時代および中国はアジア考古学Bで講義)の最新の成果から、アジア地域の歴史は一様ではなく、多様な歴史的過程を経ていること、そしてそれぞれの地域間で様々な交流を通じた文化の融合などが生じてきたことを考察していきたい。アジア考古学の成果は日本考古学の研究にとっても重要な意味があり、アジアの東端である日本の古代史をアジア史・世界史の中で理解していくための思考材料も提供したい。
到達目標	アジア地域の考古学の内容を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。
成績評価	講義理解度(60%)、レポート等(40%)。

科目名	アジア考古学B
担当教員	定森 秀夫・濱崎 一志
授業概要	朝鮮半島の三国時代および中国の考古学的成果を概述する。朝鮮三国時代と中国魏晋南北朝時代は時期的に平行し、その前の秦漢時代から、中国と朝鮮は密接な連関関係にある。高句麗・百済・新羅・加耶の考古学の成果を豊富な資料を駆使して、提示していく。また、朝鮮三国時代における各国の相互関係・対中国関係についても詳述する。中国考古学では、新石器時代から遼金時代までの考古学的成果を提示し、同時に中国文化の周辺への波及の問題にも触れる。日本古代史は当時の中国・朝鮮の動向抜きには語ることができない。
到達目標	アジア地域の考古学の内容を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。
成績評価	講義理解度(60%)、レポート等(40%)。

科目名	環琵琶湖地域論A
担当教員	水野 章二・東 幸代・武田 俊輔
授業概要	琵琶湖を核として、自然的・歴史的・社会的に密接な関係を作り出してきた環琵琶湖地域の特性を、総合的な視点から検討する。環琵琶湖地域の過去と現在を総合的に検討する中で、現代における新しい地域社会のあり方を追求する。 授業では、参加者の関心のあるテーマを随時選び、3人の教員と参加者との自由な議論を通じて、環琵琶湖地域に関する認識を相互に深めていくことをめざす。
到達目標	環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から研究を進めていく能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	特になし
成績評価	授業における報告および討論(100%)

科目名	環琵琶湖地域論B
担当教員	水野 章二 ・ 東 幸代 ・ 武田 俊輔
授業概要	琵琶湖を核として、自然的・歴史的・社会的に密接な関係を作り出してきた環琵琶湖地域の特性を、総合的な視点から検討する。環琵琶湖地域の過去と現在を総合的に検討する中で、現代における新しい地域社会のあり方を追求する。 授業では、参加者の関心のあるテーマを随時選び、3人の教員と参加者との自由な議論を通じて、環琵琶湖地域に関する認識を相互に深めていくことをめざす。
到達目標	環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から研究を進めていく能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	特になし
成績評価	授業における報告および討論(100%)

科目名	環琵琶湖保存修景計画論A
担当教員	濱崎 一志 ・ 石川 慎治
授業概要	生活環境が急激に変化しつつある現在、環琵琶湖地域で先人たちがつちかってきた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は町なみ、集落、文化的景観を中心におこなう。
到達目標	近江における町なみや文化的景観の現状と保存、活用について考える力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。
成績評価	レポート(100%)

科目名	環琵琶湖保存修景計画論B
担当教員	濱崎 一志 ・ 石川 慎治
授業概要	生活環境が急激に変化しつつある現在、滋賀県周辺で先人たちがつちかってきた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は街道、町なみ、集落、文化的景観を中心に、三重県、岐阜県、福井県のなかでも滋賀県に隣接する地域を視野に入れて講義を進める。
到達目標	滋賀県周辺の町なみや文化的景観について近江と比較しながら、その現状と保存・活用について考える力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。
成績評価	レポート(100%)

科目名	現代中国特論 A
担当教員	荒井 利明
授業概要	歴史は「勝者」によって記される。中国現代史も例外ではない。「敗者」の叫びに耳をすませば、歴史は異なる様相を見せてくれる。林彪、胡耀邦、趙紫陽ら「敗者」は何を語っているか。毛沢東、鄧小平ら「勝者」によってつくられた中国現代史を再検討する。
到達目標	中国現代史の論争点を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書等は適宜、紹介する。
成績評価	授業の場での報告、意見交換(100%)

科目名	現代中国特論 B
担当教員	荒井 利明
授業概要	「中国はどこへ向かっているのだろうか」。地域において、そして世界において、その存在感を急激に増大させている中国を、主として外交の面からとらえる。米中関係や台湾問題などとともに、戦略的互惠関係の構築をめざす日中関係を重点的に考える。
到達目標	中国の外交、とりわけ日中関係に関する視点を構築する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書等は適宜、紹介する。
成績評価	授業の場での報告、意見交換(100%)

科目名	考現学・保存修景特論
担当教員	濱崎 一志 ・ 面矢 慎介
授業概要	急速に変化する生活を的確に把握するために、身近な環境に注目し、その現状を定時・定点に観察し、克明に記録し、冷静に省察し、真に人間的な文化と生活の構築をめざす考現学を開拓し、先人たちが歴史のなかでつちかかってきた伝統、うみだしてきた文化遺産を調査し、その再評価を通じて、これからの町づくり・村づくりにその再生と活用をはかる方策を検討したい。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポートにより評価

科目名	社会学特論A
担当教員	武田 俊輔
授業概要	社会学の各分野の古典と呼ばれる文献についての学生による文献報告に講義を交えつつ、社会学という学問の概観を把握すると共に、その理解を深めることを目標とする。特論Aでは、主に階層・文化・教育に関する文献を中心的に扱う。
到達目標	社会学的な思考の仕方とともに、近現代における階層・文化・労働について、社会学の観点から解釈する視点を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:ポール・ウィリス,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房.
成績評価	それぞれの担当した回における文献報告の内容で評価を行う。

科目名	社会学特論B
担当教員	武田 俊輔
授業概要	社会学の各分野の古典と呼ばれる文献についての学生による文献報告に講義を交えつつ、社会学という学問の概観を把握すると共に、その理解を深めることを目標とする。特論Bでは、主に都市・福祉・グローバル化に関する文献を中心的に扱う。
到達目標	社会学的な思考の仕方とともに、近現代における都市・福祉・グローバル化について、社会学の観点から解釈する視点を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:デービッド・ハーヴェイ,1999,『ポストモダニティの条件』青木書店.
成績評価	それぞれの担当した回における文献報告の内容で評価を行う。

科目名	女性史・ジェンダー論A
担当教員	京樂 真帆子・河 かおる
授業概要	日本・アジアにおける女性史とジェンダー論を中心としつつ、女性学など他分野との比較研究も行う。例えば、前近代日本は、中国の儒教の影響を受けた。女性観においても同様である。男性に主導された文化によって形作られたイメージ、建前の中に埋没してしまっている女性の現実の姿、ジェンダーの各時代でのあり方、建前的な家父長倫理が現実浸透していく過程等を洞察する。このような過去・現在・未来をとおしての歴史的考察の中で、現在の女性・男性のあり方を相対化し、未来への展望としたい。Aは前近代史を中心とする。
到達目標	歴史学におけるジェンダー分析を自分で行う能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは特に指定しない。参考書は適宜紹介する。
成績評価	講義中の発表(30%) 期末レポート(70%)

科目名	女性史・ジェンダー論B
担当教員	京樂 真帆子・河 かおる
授業概要	日本・アジアにおける女性史とジェンダー論を中心としつつ、女性学など他分野との比較研究も行う。例えば、近現代日本は欧米の影響を受けた。女性観においても同様である。男性に主導された文化によって形作られたイメージ、建前の中に埋没してしまっている女性の現実の姿、ジェンダーの各時代でのあり方、家父長制倫理が社会変動によって崩壊していく過程等を洞察する。Bは近現代史を中心とする。
到達目標	歴史学におけるジェンダー分析を自分で行う能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは特に指定しない。参考書は適宜紹介する。
成績評価	講義中の発表(30%) 期末レポート(70%)

科目名	地域産業論A
担当教員	塚本 礼仁
授業概要	今日、地域の振興方策に関する議論は活発であるが、その中でも地域産業の育成という問題の重要性や緊急性は非常に高い。本講義では、農林水産業における「売れる」特産品づくりや地元中小企業群による製造業(=地場産業)の実情について、地域経済上の役割または機能といった側面から分析・評価していく。なお、隔年開講の地域産業論Bでは、第三次産業(商業・サービス業)を扱う。
到達目標	大学院レベルの研究に資する経済地理学の理論、データ解析・現地調査の手法を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	特定のものは使用しない。授業の中で適宜紹介する。
成績評価	発表25%、視察報告25%、期末レポート50%。

科目名	地域産業論B
担当教員	塚本 礼仁
授業概要	今日、地域の振興方策に関する議論は活発であるが、その中でも地域産業の育成という問題の重要性や緊急性は非常に高い。本講義では、都心周辺のインナーシティにおける小売商業や全国各地で多様な形をもって展開する観光事業の実情について、地域経済上の役割または機能といった側面から分析・評価していく。なお、隔年開講の地域産業論Aでは、第一次産業(農林水産業)と第二次産業(製造業)を扱う。
到達目標	大学院レベルの研究に資する経済地理学の理論、データ解析・現地調査の手法を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	特定のものは使用しない。授業の中で適宜紹介する。
成績評価	発表25%、視察報告25%、期末レポート50%。

科目名	地域展開論A
担当教員	黒田 末壽
授業概要	地元学は、地域固有の価値あるものの発見・創造、理不尽な改変から保守する運動、持続的な地域開発などとしてさまざまに展開されている。そこで、地元学とは何かを課題にして、その背景的思想や関連すると思われるテキストを柳田国男、宮本常一、三澤勝衛、鶴見和子、吉本哲郎、結城登美雄、内山節、I・イリイチ、竹内好などから取り出して検討する。授業はゼミ形式で受講生のレポート発表に対する質疑応答・討論で進める。
到達目標	日本社会をおおっている中央崇拜、専門家崇拜を排し、それぞれの地域で住民が主体になって展開している地元学に関する基本的な認識を学ぶ。地元学のスローガンである、「あるもの探し」「地域の宝」「地元の主体性」のなかにある思想性と実践性を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 適時資料配付。 参考書: 「柳田国男全集27」(ちくま文庫)、宮本常一「村の崩壊」、吉本哲郎「地元学を始めよう」、「季刊東北学第6号」、高谷好一「地域研究から自分学へ」、結城登美雄「地元学からの出発」など適時紹介。
成績評価	講義中の発表と質疑応答(60%)、レポート(40%)による。

科目名	地域展開論B
担当教員	黒田 末壽
授業概要	本講義では、中山間地を中心に地域活性化と風土の関係を論じる。風土は、持続可能な社会を作る上でも重要なキーである。「風土」とは何かをまず考察し、つぎに厳しい風土と向き合ってきた、特殊重粘土地帯の明治終期から昭和前半期にかけての模範村における農村経営とその発展を紹介し、考察する。最後に、現在の滋賀県で展開されているいくつかの地域活性化を風土との関連で紹介し考察する。
到達目標	日本における風土論の基本の理解をし、地域活性化における風土の位置、滋賀県の地域活性化の事例における風土の役割について自分自身の考えがもてること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト・指定図書: なし。参考書: 適時紹介する。
成績評価	講義における質疑応答(50%)、レポート(50%)

科目名	地域文化遺産調査・情報論
担当教員	濱崎 一志 ・ 石川 慎治
授業概要	歴史的環境を構成する町なみや集落、遺跡や遺構などの地域文化財の調査と情報化について述べる。デジタルデータの作成、編集、発信について具体的に解説する。
到達目標	地域文化財のデジタル測量とデジタルでの表現技術を身につける
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。
成績評価	毎回課する課題に対する評価

科目名	地域文化学特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	地域の文化にこめられた歴史的伝統や現代的意義を理解し、これらに関する研究を深めていくため、各自が専攻する分野に応じて、文献講読やセミナー形式での報告・討論・評価を行う。
到達目標	修士論文の作成において欠かせない専門的な知識や技術を養う。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	報告の内容等による。

科目名	地域文化学特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	各自のテーマに応じて、研究の遂行に関わる基本的な事項(研究計画の立案、フィールドワークの技術、作業仮説の設定、データの収集・解析、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など)を指導する。
到達目標	地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめる。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	研究の内容等による。

科目名	中国文化史特論
担当教員	辻 正博※
授業概要	中国文化が日本の歴史や文化に及ぼした影響について、①都城制、②遣唐使(留学生・留学僧)、③律令の三つの観点から考察を加える。
到達目標	日本文化が東アジアの歴史の中でどのように位置づけられるかについて、受講生が多面的に理解できるようになることが、この授業の目標である。
テキスト 指定図書 参考書	教科書はありません。参考文献は講義時に指示します。事前に読んでおいたほうが良いと思っている図書を、Web版シラバスの「追加情報」の欄に掲げておきます。
成績評価	評価方法……レポート試験による。 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。 割合 ……レポート試験100%

科目名	朝鮮史特論A
担当教員	河 かおる
授業概要	1991年に韓国で元「慰安婦」が名乗り出てから約20年になる。日本軍「慰安婦」制度において最も多くの「慰安婦」を出したと言われる朝鮮半島の20世紀を「軍隊と性暴力」の観点から考える。
到達目標	受講生にとって朝鮮近現代史が専門である場合はもちろん、専門外である場合でも、朝鮮近現代史に関する学術的な論文を読み解き、他者の研究を的確に論評する力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 宋連玉・金英編著『軍隊と性暴力 — 朝鮮半島の20世紀』(現代史料出版、2010年) 参考書: 講義中に適宜紹介する。
成績評価	課題報告および討論への参加(100%)

科目名	朝鮮史特論B
担当教員	田中 俊明
授業概要	朝鮮古代史の諸問題をとりあげる。特に、朝鮮三国および加耶をめぐって、議論になっている問題を中心とする。ただし全てを取りあげるのではなく、受講生の専門と関連する地域・時代を選ぶ。受講生には、その主要論文を読み、その内容を批判的に紹介してもらい、また史料の読解を進める。
到達目標	研究論文・漢文史料に対する読解能力の蓄積・養成
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 論文をコピーして配布 参考書: 適宜、指示する。
成績評価	授業における報告および討論(100%)

科目名	トランス・ヒマラヤ文化論
担当教員	棚瀬 慈郎
授業概要	文化人類学の考え方、調査の方法、基本的な概念などについて、実際の研究例に基づいて論じてゆく。中心となるのは、インドヒマラヤのチベット文化圏であるラホール地方に関する報告である。
到達目標	文化人類学の方法論の習得。またヒマラヤ地域における文化の伝播、融合の問題についての理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	棚瀬慈郎「インドヒマラヤのチベット社会-「女神の園」の民族誌」(明石書店)、 山田孝子「ラダック」(京都大学出版会)
成績評価	小テスト(50%)、レポート(50%)。 授業時間の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	日本考古学A
担当教員	定森 秀夫 ・ 中井 均
授業概要	日本考古学はすでに100年を優に越す研究史がある。近年の発展めざましい関連諸科学との連携や関連諸国の考古学研究の進展に伴って、研究が充実すると同時に内容は複雑化してきている。本講義ではこれらの要点を現状に即して簡潔に整理し、対象を近江に関連付けながら、日本考古学の現状と課題を論じていく。
到達目標	日本考古学の内容を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。
成績評価	理解度(50%)、授業態度(10%)、レポート等(40%)

科目名	日本考古学B
担当教員	定森 秀夫 ・ 中井 均 ・ 大道 和人※
授業概要	日本考古学はすでに100年を優に越す研究史がある。近年の発展めざましい関連諸科学との連携や関連諸国の考古学研究の進展に伴って、研究が充実すると同時に内容は複雑化してきている。本講義ではこれらの要点を現状に即して簡潔に整理し、対象を近江に関連付けながら、日本考古学の現状と課題を論じていく。
到達目標	日本考古学の内容を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。
成績評価	理解度(50%)、授業態度(10%)、レポート等(40%)

科目名	日本生活文化論
担当教員	市川 秀之 ・ 石川 慎治 ・ 米田 実※
授業概要	古来日本人は様々な文化を日常生活のレベルで受容し、それを風土の中でたくみに変容して独自の文化形式を作り上げてきた。そこで、人々の生活の営為の総体としての生活文化の実態を明らかにするとともに、そこに見い出される文化の構造や特質といったものを、地域や時代に即して検討する。
到達目標	生活文化を具体例に即して理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	無し
成績評価	授業態度 50%、レポート 50%

科目名	美術史特論A
担当教員	亀井 若菜
授業概要	この授業では、日本の個々の美術作品や、日本美術史という学問の体系が、どのような政治的社会的文脈の中で作られ、社会の中でどのような意味を担っているのか、ということを考えていく。美術には美しいものばかりが表現されていると考えがちである。しかし美術作品には、それを作った人の理想とする美しい姿や世界が表される一方で、その人にとっての「他者」が貶められた姿で表象されている。そのような個々の美術作品の意味や意図、さらにはそれら個々の作品を包括して語る「日本美術史」という体系の意味についても考えていく。
到達目標	美術の意味を社会と関わらせて考えられるようになることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業でその都度紹介する。
成績評価	授業の簡単な感想文(数回分)(30%)、授業における発言(30%)、レポート(40%)

科目名	美術史特論B
担当教員	亀井 若菜
授業概要	この授業では、日本の個々の美術作品や、日本美術史という学問の体系が、どのような政治的社会的文脈の中で作られ、社会の中でどのような意味を担っているのか、ということを考えていく。授業では、個々の作品の表現をよく見て、言葉とは異なる表現媒体である「イメージ」ならではの意味や意図を読み取ることができるようになることも目指す。関連する論文も講読する。
到達目標	美術の意味を社会と関わらせて考えられるようになることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業でその都度紹介する。
成績評価	授業の簡単な感想文(数回分)(30%)、授業における発言(30%)、レポート(40%)

科目名	北東アジア地域史A
担当教員	田中 俊明
授業概要	古代の東アジアにおける文化交流をとりあげる。特に、朝鮮半島を軸として、中国王朝と日本との関わりについて追究できる問題、または、朝鮮半島と日本との関わりについて追究できる問題をとりあげる。受講生には、関連論文を読んで、その内容を批判的に紹介してもらう。
到達目標	論文に対する読解能力の蓄積
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:論文をコピーして配布 参考書:適宜、指示する。
成績評価	授業における報告および討論(100%)

科目名	北東アジア地域史B
担当教員	ブレンサイン・河 かおる
授業概要	モンゴルおよび内モンゴルを含めた中国東北地方から朝鮮半島におよぶ北東アジア地域の歴史的展開のうち、近代以後に関する事柄を考察する。近代以後、当該地域では、モンゴルは清朝からの独立を果たし、朝鮮半島は植民地化、中国東北地方は傀儡国家「満州国」を通じて日本に支配された。その過程で日本の支配に抵抗する民族主義が勃興したり、あるいは支配に協力する勢力を生み、また激しい社会変動も経験した。本講義では、このような当該地域の歴史的展開の中からいくつかのテーマに分けて考察する。
到達目標	近現代北東アジア地域における国家と民族の再編や社会変動に関する基本的な視点をもてること
テキスト 指定図書 参考書	テキストは授業計画にあるとおり。参考書は適宜紹介する。
成績評価	課題報告および討論への参加(100%)

科目名	モンゴル・ディアスポラ論A
担当教員	ブレンサイン・島村 一平
授業概要	いわゆるモンゴル系の民族集団は、モンゴル国のみならず、ロシア、中国を含む3カ国に分散居住している。モンゴル・ディアスポラ(離散民族)の特徴は、ホームランドに居住しながらにして、故郷に対する喪失感を持っているところにあるといえる。本講義では、こうしたモンゴル系集団のディアスポラ的状况に至る歴史と現代的諸相を論じていく。モンゴル・ディアスポラ論Bと比べてAは、ブレンサイン担当分に関しては、扱う事例が異なる。島村担当分は、ディアスポラに関する基礎理論を多く扱うという違いがある。
到達目標	ディアスポラに関する基礎理論とモンゴル系諸族のディアスポラ的状况を歴史・文化的側面から理解する
テキスト 指定図書 参考書	ブレンサイン:和光大学学術調査団『変容するモンゴル世界—国境にまたがる民』新幹社、1999年 島村:ジェームス・クリフォード『ルーツ—20世紀後期の旅と翻訳』、月曜社、2002年 J.E.Brazil and A.Mannur(eds.) theorizing diaspora, Blackwll, 2003.
成績評価	小テスト(40%)、レポート(60%)

科目名	モンゴル・ディアスポラ論B
担当教員	ブレンサイン・島村 一平
授業概要	いわゆるモンゴル系の民族集団は、モンゴル国のみならず、ロシア(カルムイク共和国、ブリヤート共和国)、中国(内モンゴル自治区、青海省、新疆ウイグル自治区)の3カ国に分散居住している。モンゴル・ディアスポラ(離散民族)の特徴は、ホームランドに居住しながらにして、故郷に対する喪失感を持っているところにあるといえる。本講義では、こうしたモンゴル系集団のディアスポラ的状况に至る歴史と現代的諸相を論じていく。
到達目標	モンゴル諸民族のディアスポラ的状况の理解
テキスト 指定図書 参考書	Uladyn Bulag 1998 “Nationalism and Hybridity in Mongolia”, Oxford.そのほか、随時指定。
成績評価	レポートによる

科目名	衣料素材・染色科学特論
担当教員	道明 美保子
授業概要	衣料素材としての各種繊維の特性、その染色性および染色方法について専門的かつ理論的知見を深める。また染め織りの分野において、その知恵と歴史を考えるとともに、染色の伝統的手法を現代の科学から探り、それらを発展させていく方法を探る。さらに人間にとって必要な環境・人間のシステムについてこの分野における高度な研究能力を養う。
到達目標	繊維と染料・染色についての理論の習得とともに、この分野を発展させていく高度な研究能力を身につける。
テキスト指定図書参考書	日本学術振興会 繊維・高分子加工第120委員会編:『学振版 繊維機能加工要論』, 色染社
成績評価	レポート評価50%、期末筆記試験50%、

科目名	空間デザイン特論
担当教員	佐々木 一泰
授業概要	年度ごとにテーマを設定し、様々な場所から、空間をデザインしているエレメントを抽出し、地域性や機能性、属性、関係性など、より実践的、専門的な視点から調査・分析する。また、それぞれのエレメントの問題点や、引用、転用の可能性を探り、実践的な空間デザインへの応用を考える。
到達目標	空間デザインの比較・考察が出来。それを各々具体的な手段によって表現する。
テキスト指定図書参考書	授業中に適宜紹介する。
成績評価	発表内容・レポート(50%), 成果物(50%)

科目名	室内環境計画特論
担当教員	宮本 雅子
授業概要	心理的・生理的に快適な室内空間を計画するためには、人間とインテリア・エレメントとの相互関係を捉える必要がある。そのための実験・調査手法を論じるとともに、それらについての研究資料を通じて室内環境計画上の問題点について考察する。また、超高齢社会となった現在、快適な室内環境を計画していくためにはユニバーサルデザインの視点を取り入れていく必要がある。その意義について論じるとともに住居計画での事例を分析する。
到達目標	室内環境計画の実践に役立てることのできる能力を身につける。
テキスト指定図書参考書	日本建築学会編「環境心理調査手法入門」技報堂出版、日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成バリアフリー」丸善、他
成績評価	最終レポート(40%), 課題発表(60%)

科目名	生活文化学特別演習（生活デザイン分野）
担当教員	専攻教員
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。
到達目標	研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	授業時間内に適宜紹介する。
成績評価	途中の進捗状況、レポート・口頭発表・制作物等によって評価する。

科目名	生活文化学特別研究（生活デザイン分野）
担当教員	専攻教員
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、調査、実験、実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事項について指導する。
到達目標	修士論文作成のための研究の遂行に関わる基本的事項について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書・参考書:授業時間内に適宜紹介する。
成績評価	定期的に研究の経過を報告する。その内容によって評価する。

科目名	地域生活空間特論
担当教員	山根 周
授業概要	都市や地域における生活空間の構成手法について、歴史、文化、社会、経済、技術といった視点から考える。特に、世界の各地域における、地域に固有な生活空間(居住空間、集落空間、都市空間)の形態とその構成原理について、既往研究成果の理解を通して比較考察するとともに、伝統的な生活空間の持つ意味をどのように現代の生活空間計画に継承・反映しうるのか、そのあり方について考える。授業は受講者による発表とその後の議論という形式をとる。
到達目標	地域に固有な生活空間(居住空間、集落空間、都市空間)の形態とその構成原理について、具体的事例を通して分析、考察し、発表することができる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:Paul Oliver ed., Encyclopedia of vernacular architecture of the world Vol. 1-3, Cambridge University Press, 1997他、適宜紹介する。
成績評価	授業発表(3~4回)(50%)、レポート(50%)

科目名	道具デザイン特論 I
担当教員	面矢 慎介
授業概要	道具デザインに関する専門的かつ理論的知見を深めるために、主として近代から現代にいたる生活用具および生活機器のデザイン変遷について、いくつかの事例を選び、その技術的、経済的、社会的、文化的背景からの分析・評価をおこなう。関連資料の探索・収集、資料批判、実物資料(最終製品)の実見のほか、ときにはメーカー関係者やデザイナーからの聞き取り、その道具の使用実態の調査などを含む。
到達目標	道具デザインに関する専門的かつ理論的知見を深める。そのために探索した資料からの構造化について習熟する
テキスト指定図書参考書	参考書:Bijker, Hughes, and Pinch, The Social Construction of Technological Systems, The MIT Press, 1987ほか、授業中に指示する。
成績評価	授業中の発表(20%)と最終レポート(80%)により評価。

科目名	道具デザイン特論 II
担当教員	印南 比呂志
授業概要	日本国内の様々な地域活動や地場産業、アジア、欧州における事例を参考にしながら進める。そして、その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネージメントに至るまでの実際を学ぶ。講義を通じて、以上の趣旨を理解しかつ道具デザインのための資源発掘や、課題解決に関する方針・計画・ノウハウなどについて理解を図る。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・道具のデザイン開発者の基本姿勢やねらいの持ち方を、地域の課題と関連づけて理解できる。 ・個別の道具紹介事例における、資源発掘、課題発見及び課題解決のプロセスが理解できる。 ・自身の生活環境における道具デザイン上の課題について、学究的な視点により考察していく能力をつける。
テキスト指定図書参考書	参考書:「複製技術の時代の芸術」ヴァルター・ベンヤミン著・晶文社刊
成績評価	最終レポート課題による評価20%、中間発表の評価80%

科目名	服飾デザイン特論
担当教員	森下 あおい
授業概要	物性面の価値とともに感性面での価値が重視される服飾デザインの領域では、人間を取り巻く社会、文化を背景にデザインを探究し、問題点の抽出、分析を行うことが必要である。この授業では服飾と感性に関わる研究事例を基に各自が選定したテーマを調査し考察する。
到達目標	服飾デザインにおける文化的側面の特性を、社会と人間との関係からの具体的事例を調査し、分析～発表する。
テキスト指定図書参考書	プリント資料を配布します。 参考書は授業内で紹介します。
成績評価	レポート60% 課題発表40%

科目名	運動処方学特論
担当教員	寄本 明・南 和広
授業概要	本講義では、より専門的にライフステージに応じた運動の処方について考察する。発育過程の児童、成人、高齢者などの個別性に対応するためには、年齢や性別に応じた人体の発育・発達・老化や生理学的特徴を理解する必要がある。本講義は、解剖学的、運動生理学のおよびヘルスプロモーション的(公衆栄養学)視点から運動処方について理解を深める。応用栄養学分野である発育、成長、加齢に伴う生理的变化や特徴について学び、さまざまな社会、環境における状況および発育発達段階の健康管理について提案していく。
到達目標	ライフステージに応じた運動処方の理解、年齢や性別に応じた人体の発育・発達・老化や生理学的特徴を理解および健康管理
テキスト 指定図書 参考書	参考書・参考資料等： Resource manual for guidelines for exercise testing and prescription, American college of sports medicine
成績評価	レポート・発表(80%)，毎時間の課題(20%)

科目名	栄養応答論
担当教員	福渡 努
授業概要	栄養素が消化、吸収、代謝され、生理作用を発揮する際に、各刺激に対する情報が細胞内外に伝達され、分子・細胞・組織・生体レベルでそれぞれ調節・制御機構が働く。本講義では、分子レベル・細胞レベルで栄養素と生体が相互作用することによって情報伝達が始まり、その情報が制御・調節機構を介して臓器、さらには生体全体におよぼす影響について、文献を読み、ディスカッションを行うことによって理解する。また、栄養疫学の文献を扱うことにより、科学的根拠に基づいてどのように疫学データを取扱うべきであるのかについて理解する。
到達目標	栄養素と生体との間の相互作用およびそれに起因する生命現象について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布
成績評価	発表50%，レポート評価50%

科目名	栄養機能科学特論
担当教員	吉田 宗弘※・渡辺 達夫※・吉村 徹※
授業概要	生物界に存在する栄養素と非栄養成分の生体調節機構を最新情報を交えて解説する。
到達目標	生物界には栄養素だけでなく、有用な非栄養成分もあることを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:特になし 参考書・参考資料等:毎回参考となるプリントを配布する
成績評価	講義毎のレポート67%、小テスト33% (定期試験:課さない)

科目名	栄養教育特論
担当教員	吉田 龍平
授業概要	健康の維持増進、疾病の発症には、栄養、運動、休養のバランスならびに、遺伝要因・環境要因・加齢が関連しながら深くかかわっている。ヒトの一生における小児期、青年期、壮年期、高齢期等それぞれのライフステージに応じた健康管理の把握とすでに学習した知識の統合能力を基盤に栄養教育のあるべき姿を修得する。何故子どもたちにヘルスプロモーションが必要であるかを、各ライフステージにおける生活習慣病モデルシミュレーションの講義を行い、各人のテーマを決定し、演習と講義で授業を展開する。
到達目標	健康的な食行動の形成と生活習慣化を図る行動科学理論に基づく栄養教育を演習し、ヘルスプロモーションに寄与する栄養教育の実践力を身につけることを到達目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	下田妙子編著「栄養教育論演習・実習～ライフステージから臨床まで～」(化学同人)
成績評価	レポート(100%)

科目名	栄養制御論
担当教員	柴田 克己
授業概要	今日の栄養学には予防医学というべき面が強い。成人病の予防を含めた健康の維持は、食生活を含めた生活環境によって制御される一面をもっている。そのために、成人病は生活習慣病と呼ぶべきであるとの提唱がされている。栄養素の摂取条件によって、生体内の代謝その他の状態が変動している様相について解説し、健康維持が栄養素の摂取の仕方によってどのように制御しうるかについて論ずる。
到達目標	栄養素機能の感覚的把握
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 栄養機能化学(朝倉書店)
成績評価	期末試験80%、レポート20%

科目名	学校栄養教育実践特論
担当教員	大谷 貴美子※
授業概要	小・中学校における食の現代的課題を理解し、課題解決のための効果的な栄養教育の実際を学ぶ。
到達目標	効果的栄養教育法の習得
テキスト 指定図書 参考書	大谷貴美子、富田圭子、知っておきたい食の世界-あけてみよう！食育の玉手箱-、KUMI(2007)
成績評価	課題(50%)、プレゼンテーション(50%)

科目名	健康運動学特論
担当教員	寄本 明・南 和広
授業概要	健康生活の確立に必要な「栄養」、「運動」、「休養」の「運動」を中心に一過性の運動によっておこる一時的変化や習慣的な運動によっておこる適応現象のメカニズムを明らかにするとともに、運動の必要性や運動と健康の関係について学ぶ。特に健康の維持・増進に役立つ運動生理学知見に焦点をしばり、運動と栄養摂取、運動とエネルギーの発生および変換、運動と環境適応、運動不足と生活習慣病、運動処方等の内容で生涯にわたる健康生活実現のための運動と健康について考察する。
到達目標	運動と栄養摂取、運動とエネルギーの発生および変換、運動と環境適応、運動不足と生活習慣病、運動処方等の内容で生涯にわたる健康生活実現のための運動と健康について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布 参考書:Exercise Physiology -Energy, Nutrition, and Human Performance- (Williams & Wilkins)
成績評価	レポート・発表(80%)、毎時間の課題(20%)

科目名	行動学特論
担当教員	上野 有理・細馬 宏通
授業概要	行動学では、行動の至近要因(行動の起こるプロセス)と究極要因(行動の進化の基盤)の双方を研究することが基本となる。この講義では食事場面をはじめとするさまざまな日常場面を例にあげ、至近要因アプローチの一例として参加者の認知とコミュニケーションに注目した研究方法を紹介する。また究極要因アプローチとして人間の進化的理論について学ぶ。
到達目標	食事場面をはじめ日常の場面でおこるさまざまな行動を、コミュニケーション、認知、進化の観点から理解する視点を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	講義内で指定する。
成績評価	レポート(100%)

科目名	児童健康問題特論
担当教員	福井 富穂
授業概要	成長・発育期にあたる児童における急性疾患や慢性疾患は、患児の病態や病状等に応じた適切な栄養診断・栄養アセスメントにより具体的な栄養ケアを立案し、日々実践することにより疾病の治癒・回復に役立つ栄養マネジメントとなる。患児の社会生活環境や療養環境などの現状を踏まえた栄養治療、実態調査、あるいは症例研究を介して、児童の健康の維持・増進あるいは健康回復の問題点について考える。
到達目標	児童の心身の健全な成長・発育を阻害する問題点をみつけ、健康回復を図る技術を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	なし。必要に応じてプリントを配付する。
成績評価	定期試験(70%)、レポート(30%)

科目名	小児医学特論
担当教員	多賀 崇※・高野 知行※・松井 克之※
授業概要	「子どもは大人のミニチュアではない」。これは小児の疾病を理解するためのキーワードである。小児は生理的な特性が成人とは異なるため、疾病罹患時の病態も成人とは異なる。さらに小児期に特徴的な疾病も存在する。栄養に関連した疾病でも同様であるが、小児期は成長発達の時期でもあるため、これも踏まえて疾病を理解しなければならない。本講義ではこれらの点についての理解が進むよう最新の知見も交えて解説する。
到達目標	栄養に関連した小児疾患について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 特になし 参考書: 毎回参考となるプリントを配付する
成績評価	講義毎のレポート100% (定期試験: 課さない。)

科目名	食素材特論
担当教員	灘本 知憲
授業概要	動植物素材を対象として、人が食素材として利用してきた食品の機能を、現代の目と伝承で見た性質で分類し、その特徴と関連を検討してみる。さらにそれらが本来果たしていた食品(生体)での機能を新たに視点として理解する。講義形式は、先ず食素材に関する漢方や日本での伝承を通した先人の知恵と、科学的検討新たな見方についての、ガイダンス講義を行い、各人のテーマを決定する。そのテーマに沿って演習と講義の相互を繰り返す。隔年開講する。
到達目標	食べ物を単に1次—3次機能としての科学的見方だけでなく、先人の知恵や経験学、食べ物自身中の成分の働きなどの幅広い見方が出来る事を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	なし、プリント、パワーポイントにより実施
成績評価	レポート40%、演習でのプレゼン内容60%

科目名	食品栄養特論
担当教員	小西 洋太郎※・伏木 亨※・木戸 康博※
授業概要	食品学、栄養学に関する最近の話題、最新の知見を取り上げ、解説する。
到達目標	食品の加工と生理機能、栄養学的側面から見た味覚と嗜好、タンパク質とアミノ酸の必要量についての最新知見を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	小西: テキストを配布 伏木・木戸: なし
成績評価	レポート(50%)、発表(30%)、小テスト(20%)

科目名	食品機能論
担当教員	浦部 貴美子
授業概要	食品には、生命を維持する栄養機能(一次機能)、おいしさなどの感覚機能(二次機能)の他に、生体調節機能ともいべき三次機能がある。具体的には、生体防御、疾病の予防・回復・体調の調節、老化制御などがある。食品機能論では、これまでに明らかにされた各種食品の生理機能性物質とその作用機構、また評価方法について講述するとともに、適宜新しい機能性研究についても紹介する。さらに、各自が食素材/機能性を選択し、その研究をどのように展開していくかをまとめ発表し、議論する。
到達目標	食品の有する①生理機能性物質と②その作用機構について理解する。さらに③機能性の評価方法を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 指定しない。 必要に応じてプリントを配布する。 適宜、参考書、論文等を紹介する。
成績評価	レポート50%、プレゼンテーション50%

科目名	食文化特論
担当教員	堀越 昌子※
授業概要	琵琶湖を持つ滋賀県の食文化の特徴を世界の食文化と比較しながら学び、その成立背景を探っていく。滋賀の食文化は琵琶湖の湖魚類を発酵させたナレズシ文化があり、栄養バランスの優れた湖周型食生活を形成している。この特色ある食文化を学び継承していく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境、風土に根づいた暮らしとそこで形成されてきた食文化の大事さを理解する。 ・地域の食文化を分析し、持続可能な生活のあり方を創造していける力を養成する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 使用せず、毎回プリントで授業を進める。 参考書: 滋賀の食事文化研究会編「ふなずしの謎」サンライズ出版(1995)など。
成績評価	理解度と考察力を基準に評価する。 毎回の出席とプレゼンテーション50%、課題レポート50%で評価。

科目名	生活文化学特別演習(健康栄養分野)
担当教員	専攻教員
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。
到達目標	研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	参考書: 指導教員が適宜紹介する
成績評価	指導教員が、研究課題の進捗状況報告、レポート、口頭発表などにより評価する。

科目名	生活文化学特別研究（健康栄養分野）
担当教員	専攻教員
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。
到達目標	各自の研究テーマに応じ、研究の遂行に関わる基本的事柄について修得し、最終的に論文を作成する。
テキスト 指定図書 参考書	参考図書:指導教員が適宜紹介する
成績評価	提出された論文が、修士論文の水準にあるかどうかについて評価し、合否判定を行う。詳細は「修士論文審査基準に関する内規」による。

科目名	地域食育実践学特論
担当教員	岡本 秀己
授業概要	国民の疾病予防および生涯にわたる健康の保持・増進を目的に、地域社会での食育の実践の理論と方法を「人間の健康と食をめぐる問題を公衆・地域ぐるみで解決する視点」から論ずる。 食育を通じた地域交流、食文化の継承、地産地消の推進など、地域社会に根ざした多種多様な食育推進活動の展開について理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行政における食育推進方法の実際について理解する。 ・地域社会での食育推進の取り組みについて理解する。 ・学校と地域食育推進組織の連携方法について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	随時プリントを配布
成績評価	プレゼンテーション(60%)、レポート(40%)

科目名	調理科学特論
担当教員	松井 元子※
授業概要	食物摂取行動の最終段階である「調理」について、食材の選択・購入、食事などの過程を調理科学の視点から講義し、さらに各自のテーマについて調べ発表し全員で討論する。食べ物に対して調理科学的視点を持つことを目標とする。
到達目標	調理過程を科学的視点でとらえ理解する。
テキスト 指定図書 参考書	各種学会誌など適宜紹介する。
成績評価	レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)

科目名	臨床栄養管理研究
担当教員	福井 富穂
授業概要	急性疾患に対する栄養管理や慢性疾患に対する長期にわたる栄養管理など医療施設における患者の実態把握は栄養アセスメントに不可欠である。患者の病態や病状等に応じた適切な栄養診断・栄養アセスメントにより具体的な栄養ケアおよび栄養マネジメントプランを立案し、疾病の治癒・回復に役立てなければならない。患者の社会生活環境や療養環境などのほか医学・医療の場における栄養管理の現状を踏まえ、管理栄養士としてどのような役割を果たしていくのか患者調査や症例研究によって考える。
到達目標	患者の病態や病状に応じた適切な栄養診断・栄養アセスメントにより具体的な栄養ケアおよび栄養マネジメントプランを立案し、疾病の治癒・回復に役立てる。患者の社会生活環境や療養環境などのほか医学・医療の場における栄養管理の現状を踏まえ、管理栄養士としてどのような役割を果たしていくのか患者調査や症例研究によって考える。
テキスト 指定図書 参考書	なし。必要に応じてプリントを配付する。
成績評価	定期試験(70%)、レポート(30%)

科目名	臨床栄養血液学
担当教員	高山 博史
授業概要	ヒトが摂取する栄養は循環血液中を流れ様々な血漿中成分、血球および血管に直接影響する。従って、栄養成分の過剰あるいは欠乏はそれらに直接影響を与え様々な病態を呈する。いわゆる生活習慣病においては血液、血球、血管の異常がみられ終末像としての血栓症へと至る。本講義ではそのような過程を理解できるような病態について分子レベルから臨床病態に至るまでを時に最新の文献を交えながら解説する。
到達目標	栄養と血液に関する最新の臨床研究につき理解、修得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 毎回参考となるプリントを配付する 参考書: 特にない
成績評価	講義毎のレポート100%

科目名	学校教育・生活指導論特講
担当教員	吉田 一郎・篠原 岳司・木村 裕
授業概要	教育の私事化の進行と公共性の再建が社会の中で直面する困難と課題として議論されている今日の学校教育について考察する。主として教科指導に関する分野を木村が、生活指導に関する分野を吉田が、教育行政に関する分野を篠原が担当する。
到達目標	学校教育・教育行政に関する包括的な知識及び問題関心を育てる。
テキスト 指定図書 参考書	【木村担当分】 テキスト: 佐藤博志編著『オーストラリアの教育改革—21世紀型教育立国への挑戦』学文社、2011年 その他のテキストなどについては、適宜指定する。
成績評価	レポートによる。

科目名	行動発達論特講
担当教員	竹下 秀子 ・ 松嶋 秀明
授業概要	人間関係論の立場から、人間行動の発達にかかわる問題点を解明し、講義する。
到達目標	生涯続く人間としての発達をとらえる視点と方法について、発達心理学および関連領域の成果から学び、人生の各ステージにおける教育的人間関係と支援のあり方について分析・考察し、論じる力を向上させる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 特定のものを使用しない。必要に応じて、論文、資料などを配布する。
成績評価	発表・報告・討論(50%)レポート(50%)

科目名	社会・地域変動論特講
担当教員	大橋 松行
授業概要	人間関係論の立場から、社会・地域の変動にかかわる諸問題を検討し、講義する。特に地域の生活問題の解決をめざして組織的な住民の運動がとる形態と戦略および政治的な働きかけを、理論的・実証的に明らかにし、それが地域社会の構造変動にどのように影響するかを検討する。
到達目標	人間関係論の視点から地域社会の構造変動を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。 ・参考書等はその都度紹介する。
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・発表・報告50%、レポート50%。

科目名	社会学特講
担当教員	中村 好孝 ・ 丸山 真央
授業概要	社会学の各分野の古典と呼ばれる文献について、学生による文献報告に講義を交えつつ、社会学という学問の概観を把握すると共に、その理解を深めることを目標とする。
到達目標	社会学の古典的な文献の講読を通じて、その内容を正確に読解し、そこで用いられる概念・方法に関する今日的意義について理解することができる。
テキスト 指定図書 参考書	<p>テキスト: 受講者と相談のうえ決定する。</p> <p>参考書: 授業中に適宜指示する。</p>
成績評価	それぞれの担当した回における文献報告の内容で評価を行う。

科目名	生活文化学特別演習（人間関係分野）
担当教員	専攻教員
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行に必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。
到達目標	研究遂行に必要な専門知識や技術、関連知識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。
成績評価	発表や各教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。

科目名	生活文化学特別研究（人間関係分野）
担当教員	専攻教員
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。
到達目標	各自のテーマに応じ、研究を実施し論文を作成する。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。
成績評価	修士論文の内容と公聴会での状況を総合して評価する。

科目名	比較行動論特講
担当教員	細馬 宏通 ・ 上野 有理
授業概要	行動学では、行動の至近要因(行動の起こるプロセス)と究極要因(行動の進化の基盤)の双方を研究することが基本となる。この講義では、至近要因アプローチの一例として、人間の会話の時間構造を捉える手法とその実践について学ぶ。究極要因アプローチとしてヒトの進化理論について学ぶ。
到達目標	人間のみならず霊長類をはじめとする動物の行動や文化とヒトの行動文化を比較することで、多面的な人間理解を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義内で指定する。
成績評価	出席点(40%),レポート(60%)

人間看護学研究科修士課程 科目履修の手引

◆人間看護学専攻

1 修士課程修了要件

- ① 科目の履修にあたっては、下記の科目配当表と開講科目の講義概要、ならびに年度当初に行われる所属研究科でのオリエンテーション時の説明を十分聞いた上で、指導教員の承認を得て履修すること。
- ② 修了要件：基盤看護学分野および生涯健康看護学分野においては、必修科目 12 単位、選択科目 18 単位以上の計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して論文審査および最終試験に合格すること。ただし、配当表の選択科目のうち、共通科目から 6 単位以上を、専門科目から 10 単位以上（専攻する分野の科目 8 単位以上を含む。）を修得すること。
 なお、研究科が認める他研究科開講科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。また、平成 21 年度以前入学生も、平成 22 年度新規開講科目を受講することができ、その修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。
 CNS コース慢性疾患看護学分野においては、必修科目 12 単位、選択科目のうち○印の科目 14 単位、△印の科目から 4 単位以上の計 30 単位以上を修得し、特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。
- ③ 学部開講の授業科目については、指導教員の指示に従い受講することができるが、修得した単位を修了要件単位数に算入することはできないので注意すること。
- ④ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P126 を参照すること。

2 年次別科目配当表

授業科目の名称	担当教員	配当年次	期間	単位数			備考
				必修	選択	自由	
(共通科目)							
看護理論	奥津	1・2	前期	2			H21 年度以前入学生:看護研究方法論 ○
看護研究方法論Ⅰ	岩谷、泊、浅野	1・2	前期	2			
看護研究方法論Ⅱ	奥津、横井	1・2	前期		2		
人類科学特論	安原	1・2	前期		2		
生体感染特論	山田	1・2	前期		2		
継続療養特論	森	1・2	前期		2		
臨床対人関係特論	松本	1・2	前期		2		
家族看護学特論	古株、植村	1・2	後期		2	△	
看護政策論	飯降、勝又	1・2	前期		2	△	
看護教育論	池西	1・2	前期		2	△	
コンサルテーション論	甘佐、吉田	1・2	前期		2	△	
看護倫理	澤田、糸島	1・2	前期		2	△	
看護管理論	清水	1・2	前期		2		
薬物治療学	土田	1・2	前期		2		
(基盤看護学分野)							
看護技術学特論	伊丹	1・2	前期		2		平成 23 年度不開講 平成 23 年度不開講
看護技術学演習	伊丹	1・2	後期		2		
看護臨床的人間形成特論	(未定)	1・2			2		
看護臨床的人間形成特論演習	(未定)	1・2			2		
形態機能・生体機構学特論	安原	1・2	後期		2		
形態機能・生体機構学演習	安原	1・2	後期		2		
病原微生物制御・疫学特論	山田	1・2	前期		2		
病原微生物制御・疫学演習	山田	1・2	後期		2		
精神の健康生活評価法	松本	1・2	前期		2		

精神看護援助方法論	甘佐	1・2	後期		2	
精神看護関連技法演習	甘佐	1・2	後期		2	
メンタルケア展開演習	松本	1・2	後期		2	
スピリチュアルケア展開演習	(未定)	1・2			2	平成 23 年度不開講
地域看護学特論	飯降	1・2	前期		2	
地域看護学演習	飯降・(未定)	1・2	後期		2	
地域看護技術特論	植村	1・2	前期		2	
地域看護技術演習	植村、(未定)	1・2	後期		2	
地域看護学実践演習	(未定)	1・2			2	平成 23 年度不開講
基盤看護学特別研究	専攻教員	2	通年	8		
(生涯健康看護学分野)						
母性看護学特論	炭原、岩谷、大脇	1・2	後期		2	
母性看護学演習	炭原、岩谷	1・2	後期		2	
小児家族看護学特論	古株	1・2	前期		2	
小児家族看護学演習	古株	1・2	後期		2	
成人継続看護学特論	奥津	1・2	後期		2	
成人継続看護学演習	奥津、横井、荒川、糸島	1・2	後期		2	
成人健康支援特論	森	1・2	後期		2	
成人健康支援演習	森	1・2	後期		2	
老年健康生活特論	北村	1・2	前期		2	
老年看護援助論	北村、畑野	1・2	後期		2	
老年健康生活評価演習	北村	1・2	後期		2	
老年看護援助展開演習	北村、畑野	1・2	後期		2	
老年サポート技術演習	(未定)	1・2			2	平成 23 年度不開講
生涯健康看護学特別研究	専攻教員	2	通年	8		
(CNSコース慢性疾患看護学分野)						
慢性看護学特論 A	奥津、横井	1	前期		2	○
慢性看護学特論 B	奥津、横井、角野	1	後期		2	○
慢性看護支援論 A	奥津、横井、竹村	1	前期		2	○
慢性看護支援論 B	奥津、横井	1	後期		2	○
慢性看護支援論 C	横井、奥津、伊波	1	後期		2	○
慢性看護支援論演習	奥津、横井、森	1	通年		2	○
慢性看護学課題研究	奥津、横井、糸島	2	通年	2		
慢性看護学実習 I	奥津、横井	1	通年	2		
慢性看護学実習 II	横井、奥津	2	通年	4		
(就職関連)						
インターンシップ C	就職指導担当教員	1	前期		1	
インターンシップ D	就職指導担当教員	1	前期		2	

3 修士の学位審査基準

- ① 大学院学則第 23 条第 1 項または第 2 項の条件を満たしていること。ただし修士論文および最終試験については次の②と③の基準を満たしていること。
- ② 修士論文は看護学の新規な知見を含んでいること。かつその内容が看護学の発展に貢献できる学術的価値を有すると判断されること。
- ③ 最終試験により、看護学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づいて看護を実践的・開発的に展開していく能力を有すると認められること。

履 修 モ デ ル

1. 基盤看護学分野

1-1. 精神看護教員、卒後継続教育担当者あるいは実習指導者として看護教育に携わりたい学生が履修する場合

- ①修士論文テーマ：精神科外来通院者への精神療法的アプローチ開発に関する研究
- ②履修科目

区分	＜基盤看護学分野＞ 授 業 科 目	1年次		2年次		計
		前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修 看護理論	2				2
	必修 看護研究方法論Ⅰ	2				2
	選択 看護教育論	2				2
	選択 臨床対人関係特論	2				2
	選択 コンサルテーション論	2				2
専門科目	選択 精神の健康生活評価法	2				2
	選択 精神看護援助方法論		2			2
	必修 精神看護関連技法演習		2			2
	必修 メンタルケア展開演習		2			2
	必修 基盤看護学特別研究			8		8
	選択 スピリチュアルケア演習		2			2
選択 老年健康生活特論	2				2	
計		14	8	8		30

看護者として、精神科外来通院者への関わりの焦点となる内容には、服薬管理状況・日常生活のリズム・対人関係の調整等があげられる。これら焦点化された内容に対する効果的な関わりには、的確な治療的コミュニケーション、アセスメント技術、他職種とのコンサルテーション力等が必要である。また、効果的な関わりのありようを、精神療法的アプローチとして位置づけ、包括・体系化することが可能であり、包括・体系化することで、新たな精神看護アプローチ法の開発につながる。

精神看護アプローチ法の開発を達成し、この成果を現場に還元していくために、「看護教育論」「臨床対人関係特論」「コンサルテーション論」を共通科目の中から選択する。また、研究テーマを、幅広い視野から、かつ統合的・論理的に考究するために、「精神の健康生活評価法」「精神看護援助方法論」「精神看護関連技法演習」「メンタルケア展開演習」を学ぶ。さらに、老人の心身機能評価を探求し、心理側面のみならずスピリチュアルな側面からも援助できるように、「老年健康生活特論」「スピリチュアルケア演習」を選択履修する。

本学生は将来、実践者及び管理者、院内教育担当者、看護教員を志向している。

1-2. 現在保健師として職を持っている学生が履修する場合

①修士論文テーマ：市町村の行政施策としての健康教育活動に関わる保健師の特性に関する研究

②履修科目（3年間の在学コースを想定）

区分	<基盤看護学分野> 授業科目		1年次		2年次		3年次		計
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2						2
		看護研究方法論 I	2						2
	選択	看護政策論			2				2
		コンサルテーション論			2				2
専門科目	選択	家族看護学特論				2			2
		地域看護学特論	2						2
	選択	地域看護技術特論	2						2
		地域看護学演習		2					2
	必修	地域看護技術演習		2					2
		基盤看護学特別研究					8		8
	選択	地域看護学実践演習				2			2
		老年健康生活特論			2				2
計			8	4	6	4	8	30	

市町村における保健師活動は、地域の特性に基づく的確な保健活動を行うことが求められる。特に、地域における健康問題を解決するための保健師特有の活動方法のひとつに、地域の健康問題を解決するための政策決定への参加、企画等がある。このような保健師特有の活動をエビデンスに基づきながら専門的立場で実践するために、ここでは健康教育に焦点をあて、その活動に関わる保健師に求められる特性とは何かについて追究する。

そのためには、地域看護の対象者や家族を含めて幅広く理解し、先進的な支援方法及び他職種との効果的調整機能を追求するために、「看護政策論」「家族看護学特論」「コンサルテーション論」を学ぶ。加えて、地域看護活動の実践において、地域の健康問題・行政課題を明らかにするための科学的な方法を理解し、的確に活用する能力が必要となる。そこで、「地域看護学特論」「地域看護技術特論」「地域看護学演習」「地域看護技術演習」「地域看護学実践演習」を学ぶ。また、高齢化の進む地域への対応に向けて「老年健康生活特論」を選択履修する。2年次後期には特別研究着手の準備にとりかかる。

本学生は、県あるいは市町村における保健活動においてリーダー的役割を担う保健師を志向している。

2. 生涯健康看護学分野

2-1. 母性看護学教員あるいは、助産師の資格を有し女性の健康支援に携わりたい学生が履修する場合

①修士論文テーマ：働く女性のリプロダクティブヘルスに関する研究

②履修科目

区分	＜生涯健康看護学分野＞ 授業科目		1年次		2年次		計
			前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論 I	2				2
	選択	看護政策論	2				2
	択目	看護倫理	2				2
		家族看護学特論		2			2
専門科目	選択	母性看護学特論		2			2
	択目	母性看護学演習		2			2
		必修	小児家族看護学特論	2			
	科修	小児家族看護学演習		2			2
		生涯健康看護学特別研究				8	8
選択	地域看護学特論	2				2	
	地域看護学演習		2			2	
計			12	10	8		30

助産師の活動する場は、分娩を中心とした周産期の援助から、生涯を含めた領域へと拡大している。さらに生殖医療の進歩から、不妊看護、遺伝看護の領域での専門的知識をもったケアが期待されている。こうした活動の展開においては、看護の基本的概念である生命の尊重・倫理、家族社会への深い理解が必須である。

「母性看護学特論」「母性看護学演習」では、すでに助産師であることを踏まえ、さらに女性の健康支援をエビデンスに基づいて実践するための知識、そして女性のヘルスアセスメントに必要な技術の習得をはかる。また「小児家族看護学特論」「小児家族看護学演習」において女性・母性だけでなく小児・家族への支援のあり方を考え、「地域看護学特論」「地域看護学演習」では、市町村等を単位として展開する地域看護活動に焦点をあて、個人・家族（夫婦）・集団の問題解決のための教育的介入や学習援助に関するエンパワーメント育成理論の活用について探究する。

本学生は将来、管理職、看護教員、実習指導者を志向している。

2-2. 入院から退院後の生活までを視野に入れた継続看護の観点から、実践の現場で指導的役割を担う看護師を目指す学生が履修する場合

①修士論文テーマ：周手術期における患者の心的状況と術後せん妄発症の関連性及びその予防的ケアに関する研究

②履修科目

区分	＜生涯健康看護学分野＞ 授業科目		1年次		2年次		計
			前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論Ⅰ	2				2
	選択	看護政策論	2				2
		継続療養特論	2				2
		看護教育論	2				2
専門科目	選択	成人継続看護学特論		2			2
		成人継続看護学演習		2			2
	必修	成人健康支援特論		2			2
		成人健康支援演習		2			2
		生涯健康看護学特別研究			8		8
	選択	精神の健康生活評価法	2				2
		看護技術学特論	2				2
計			14	8	8		30

術後せん妄に関する研究については、経過パターン、関連因子の把握を試みる研究、患者・家族の心的状況の調査研究など、近年数多く発表されるようになってきているが、発展的な研究を展開するにあたっては、先行研究から得られた知見を系統的に整理するとともに、患者・家族のライフスタイル・家庭環境等を分析し、より高いレベルのエビデンスを構築することが求められる。また、入院中の患者の心的状況に関連する様態急変を抑制するために、入院前のリスクファクター評価・予防対策等が必要となる。

これらを含めた研究を継続させるための知識として、「継続療養特論」「看護教育論」及び「精神の健康生活評価法」「看護技術学特論」を選択し、患者教育を主体とした医療・看護領域で適用できる予防概念等について考察する能力を高める。このような知識を深めることによって、実践的な研究へと発展させていくことができる。

本学生は将来、管理職、看護教員、実習指導者を志向している。

2-3. 老年看護教員、卒後継続教育担当者あるいは実習指導者として看護教育に携わりたい学生が履修する場合

①修士論文テーマ：在宅虚弱高齢者への社会資源活用プログラムに関する研究

②履修科目

区分	<生涯健康看護学分野> 授業科目		1年次		2年次		計
			前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論Ⅰ	2				2
	選択	看護教育論	2				2
		看護政策論	2				2
		家族看護学特論		2			2
専門科目	選択	老年看護援助論		2			2
		老年サポート技術演習		2			2
	必修	老年健康生活評価演習		2			2
		老年看護援助展開演習		2			2
		生涯健康看護学特別研究			8		8
	選択	老年健康生活特論	2				2
地域看護学特論		2				2	
計			12	10	8		30

要援護高齢者が増加する中、虚弱高齢者の寝たきり予防は重要な課題の一つである。特に在宅で過ごされている虚弱高齢者の場合、当事者の日常生活のありようや同居家族（介護者）の健康状態・経済状態等が寝たきり関連因子（内的要因）として示唆されている。また、当事者らが社会資源について十分に認知し、有効に活用しているかという点（外的要因）を究明していくことも、効果的な看護サービスを提供する上で不可欠であると思われる。

ここでは、「看護教育論」「看護政策論」「家族看護学特論」の学びを通して、教育的指導者あるいはケアコーディネーターとしての資質を高めていく。専門科目では、「老年健康生活特論」「老年看護援助論」「老年健康生活評価演習」「老年看護援助展開演習」および「老年サポート技術演習」を履修することで、老年看護領域における高度な実践能力を習得する。さらに、「地域看護学特論」を選択することによって、地域（在宅）で生活する高齢者のヘルスニーズの把握・評価・援助法、健康生活に欠かせないネットワーク構築等を探究し、研究内容の汎用性をふくらませていく。

本学生は将来、老年看護領域の、実践者及び管理者、院内教育担当者、看護教員を志向している。

3. CNSコース 慢性疾患看護学分野

3-1. 慢性疾患看護学分野の専門看護師として地域で活躍したい学生が履修する場合

① 課題研究テーマ：糖尿病患者の薬物コントロールにおける外来指導の在り方

② 履修科目

区分	CNSコース (慢性疾患看護学分野) 授業科目	1年次		2年次		計
		前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修 看護理論	2				2
	必修 看護研究方法論 I	2				2
	選択 コンサルテーション論	2				2
	選択 看護管理論	2				2
	選択 薬物治療学	2				2
専門科目	選択 慢性看護学特論 A	2				2
	選択 慢性看護学特論 B		2			2
	必修 慢性看護支援論 A	2				2
	必修 慢性看護支援論 B		2			2
	必修 慢性看護支援論 C		2			2
	必修 慢性看護支援論演習	2				2
	必修 慢性看護学課題研究			2		2
	必修 慢性看護学実習 I	2				2
	必修 慢性看護学実習 II			4		4
計		2 4		6		3 0

専門看護師は、ある特定の看護分野において「卓越した看護実践能力」を有することを認定される看護職者である。慢性疾患看護専門看護師をめざす者は、日本看護系大学協議会の専門看護師教育課程基準に示される慢性看護の科目の履修が必修となる。さらに自己の課題研究の遂行と、より専門的な実践力の習得のために関連科目の履修が必要である。

「慢性看護学特論 A・B」、「慢性看護支援論 A・B・C」、「慢性看護実習 I・II」等の専門科目を履修することで、薬物療法と共に生きる糖尿病患者を科学的・論理的に捉え高度な看護実践を行うための方法論を学習することができる。また、慢性疾患患者の薬物療法を効果的に支援するためには、共通科目の中から「コンサルテーション論」、「薬物治療学」といった科目を選択履修することが必要となる。

これらを踏まえ、さらに「慢性看護学課題研究」を履修することで自らの看護実践を研究的に捉え発展させることが可能となる。

本学生は、慢性疾患看護の分野における卓越した看護実践能力と関連職種間の連携調整能力を持ち、地域特性に応じた革新的な活動を担える専門看護師を志向している。

科目名	家族看護学特論
担当教員	古株 ひろみ ・ 植村 小夜子
授業概要	看護活動に共通する家族の今日的課題を中心に家族の機能の変遷を探求し、家族システム理論等の諸理論及び家族看護の役割と機能について教授する。
到達目標	家族看護に関する理論が理解できる。理論をもちいて、看護実践に応じた家族看護を展開できる。
テキスト 指定図書 参考書	資料配付、適宜提示
成績評価	レポート(70%)プレゼンテーション(30%)

科目名	看護管理論
担当教員	清水 房枝
授業概要	看護専門職として高度なマネジメントの基本的能力を修得することを目的として、看護組織論、看護制度・政策論、看護経営と業務管理論、人的資源活用論、看護情報管理について学習する。また、組織内でのリーダーシップやリスクマネジメント内容についても学習を深める。
到達目標	以下について説明・考察できる。 1. 看護組織とその変革方法 2. 看護に必要なマネージメントの目的と方法 3. キャリア開発の意義と方法 4. 看護制度・政策と病院経営管理との関連性 5. 看護管理の今後の展望
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 随時資料を配布 指定図書: 看護管理学学習テキスト①～⑧看護協会出版会・ 参考書 : 授業時提示する
成績評価	プレゼンテーション(約20%)、ディスカッション(約20%)、レポート(約60%)で、総合的に評価する。

科目名	看護教育論
担当教員	池西 悦子※
授業概要	看護教育制度および看護継続教育の現状と課題、課題達成の方法について、成人教育や専門職者育成に関する理論を活用して考察する。また、学習者が主体となり学び続けることの意義とその方法についても探求する。
到達目標	看護学教育の現状と課題、展望について考察し、自分の言葉で述べるができる。また、キャリアマネジメントの意義と方法を理解し、実践を通して専門職として成長し続けるために有効な教育的働きかけについて、自分の言葉で述べるができる。
テキスト 指定図書 参考書	「看護教育学」南江堂、必要時資料を提示する。
成績評価	討論への準備や参加の状況(50%)、レポート(50%)

科目名	看護研究方法論Ⅰ
担当教員	岩谷 澄香 ・ 泊 祐子※ ・ 浅野 弘明※
授業概要	統計学を基盤とし、実践研究に必要な看護学の科学的アプローチの方法を理解し、量的研究および質的研究のプロセスを概観する。
到達目標	自分の関心領域の看護現象の概念・キーワードを明確にできる。 探求する現象へのアプローチする方法を選択できる。 そのアプローチ法のうち質的研究方法の基本を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】パソコンと統計処理の基礎知識、日本看護協会出版会、浅野弘明・林恭平著 【指定図書】【参考書】はWebシラバスの「追加情報」を参照すること。
成績評価	・ 成績評価は、各教員が課すレポートの内容に基づく。 ・ 成績評価は、素点ではなく「合格」「不合格」で表現する。 (泊:レポート(70%)、授業中の討論への参加度(20%)、出席(10%))

科目名	看護研究方法論Ⅱ
担当教員	奥津 文子 ・ 横井 和美
授業概要	専門看護師が、看護研究を進める際に必要な基礎的知識を学習する。様々な臨床データの取り方、処理の仕方、論文作成、プレゼンテーションの方法を学習する。
到達目標	研究疑問を解決するための研究計画書を作成する。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	プレゼンテーション(20%) ディスカッション(20%) およびレポート(60%) で評価する。

科目名	看護政策論
担当教員	飯降 聖子 ・ 勝又 浜子※
授業概要	国・都道府県における社会・医療のニーズに対応する看護政策の在り方とその策定過程を理解させる。また、地域住民の健康づくりを支援する政策が策定される過程を検討し、政策の分析を通して、看護実践に対する新しい視点を培い、健康課題解決能力や政策策定能力等の基礎能力を養う。
到達目標	看護職の抱える課題を理解し、課題解決のための行動方針・計画が策定できる。
テキスト 指定図書 参考書	見藤隆子他「看護職者のための政策過程入門」、門脇豊子他編「看護法令要覧」(日本看護協会出版会)、井部俊子・中西睦子「看護管理学学習テキスト⑦」「看護制度・政策論」
成績評価	レポート 100%

科目名	看護理論
担当教員	奥津 文子
授業概要	看護学の歴史と哲学、論理的推考、理論開発等を探究し、看護現象を把握するための能力を高める。看護理論の発展過程を踏まえながら看護理論の現状について概説し、理論と実践への適用・課題について教授する。また、看護の焦点となる現象と理論を構成する概念との関係について解説し、看護理論を看護実践の機能の中へ組み入れる方法について教授する。
到達目標	1. 看護学の発展と看護理論の関係、理論の生成とその意味の理解を深める。 2. 看護の基本概念としてのパラダイムの意味を理解し、諸哲学との関係を探求する。 3. 看護モデルや理論の構成要素、概念を明らかにし分析、評価の視点を学び、実践との関連性を探る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:ジャクリン・フォセット著(太田喜久子他訳):看護理論の分析と評価, 廣川書店. ヘソック・スージーキム(上鶴重美訳):看護学における理論思考の本質, 日本看護協会出版会 指定図書:ガートルード・トレス著(横尾京子他訳):看護理論と看護過程, 医学書院. 参考書:適宜、紹介する。
成績評価	未定:レポート100% 奥津:授業でのプレゼンテーション(50%)・レポート(50%)

科目名	看護倫理
担当教員	糸島 陽子・澤田 愛子※
授業概要	現代社会における倫理的課題について概観し、人の生と死、個人の尊厳と権利、安全で安寧な生活、健康をめぐる様々な倫理的課題とその解決の方略を検討する。その中で、看護専門職のあり方・役割・責任について、看護倫理学の視点から理論的に考察し探求する。
到達目標	1. 臨床・教育・研究における倫理的課題の現状と対応について検討し理解を深める。 2. 看護問題を解決するために用いる理論・原則・法則などを知り、原理・原則にそった方略と看護の果たす役割を考察する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:澤田愛子、末期医療からみたいのち、朱鷺書房、1995.澤田愛子、今問いなおす脳死と臓器移植(改訂版)、東信堂、1999.澤田愛子、夜の記憶—日本人が聴いたホロコースト生還者の証言、創元社、2005.
成績評価	レポート60% 授業参加状況40%

科目名	継続療養特論
担当教員	森 敏
授業概要	患者指導に必要な基礎的、専門的知識を獲得させるための疾患の治療法ならびに予防法、さらに食事療法の知識を学ぶ。すなわち、各疾患の疾病の成り立ちと治療過程の理解力を養う。
到達目標	高齢者の身体・精神特性を踏まえ、認知症、パーキンソン病、脳血管障害など高頻度に見られる疾患の診断・治療・ケアを理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	森敏著「認知症のとらえ方・対応の仕方、改訂4版」(金芳堂) 授業用レジュメ 日本内科学会作成DVD・ビデオ
成績評価	小試験、レポートにて判定、出席点も加味

科目名	コンサルテーション論
担当教員	甘佐 京子 ・ 吉田 智美※
授業概要	コンサルテーションの定義、目的、タイプ、プロセス、評価方、法及び有用な相談プロセスが共有展開できるための方法論等を論じ、医療の専門職や医療従事者が直面する課題や困難・問題に対処するための基礎能力を養う。
到達目標	コンサルテーションの定義、目的・プロセスについて理解できる 医療の対象者及び医療従事者に対するコンサルテーションの基本的な実践能力を養う
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】適宜資料を示す 【参考書】宮本真巳:感性を磨く技法4面接技法から学ぶ,日本看護協会出版会. E.H.Schein:プロセス・コンサルテーション,白桃書房.信田さよ子:アディクションアプローチ 他
成績評価	レポートおよび参加状況

科目名	人類科学特論
担当教員	安原 治
授業概要	個体発生を軸にヒトの特性を考える。講義の前半では発生学の英文原著を輪読しながら、発育段階、成長因子、生殖医療などを概観する。後半では、老化を含め、ヒトの発生、成長とその医療に関する英文論文の抄読を行う。
到達目標	ヒトの発生過程と老化の過程の概略が説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する。
成績評価	レポート

科目名	生体感染特論
担当教員	山田 明
授業概要	現在の医療現場は、看護分野においても感染についての問題を多くかかえている。その状況に的確に対処するために必要な感染症とその変遷、抗生物質周辺の問題、易感染状態、臓器移植、持続感染・再活性化等のテーマを感染時におこる生体側の反応を中心として深く論議する。
到達目標	病原体の基本的性質を理解し、あわせて感染に対して生体がどのような反応を起こすかを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト「病原体・感染・免疫」(南山堂)
成績評価	口頭試験 100%

科目名	薬物治療学
担当教員	土田 勝晴※ ・ 竹内 孝治※
授業概要	薬物療法に関する情報は増加の一途にあり、新しい薬理作用を持つ薬物が実地臨床に次々と登場している。種々の疾患に対して安全性と有効性に関する科学的根拠に基づいた薬剤選択を行うためには、多様な薬物に関する情報を的確に整理し活用することが重要であるとともに薬理作用や副作用発現のメカニズムを熟知することが必要である。本講義では慢性疾患に関する薬物治療について学習する。
到達目標	主要薬剤の適応症、副作用、作用機序を理解する。(レポートと試験で確認)
テキスト 指定図書 参考書	治療薬イラストレイテッド 山田信博編 羊土社
成績評価	レポート(50%)と期末試験(50%)で評価する。

科目名	臨床対人関係特論
担当教員	松本 行弘
授業概要	精神看護の実践領域及び臨床心理学領域において重要な対人関係の形成と精神病理を明らかにする方法として、英国対象関係論のクライン派精神分析を取り上げ、その理論を教授する。
到達目標	母子対象関係のメカニズムと発生病理の理解をクライン派精神分析から学ぶこと。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「対象関係論を学ぶ クライン派精神分析入門」松木邦裕 岩崎学術出版社
成績評価	講読・演習(70%)、レポート(30%)

科目名	看護技術学演習
担当教員	伊丹 君和
授業概要	看護技術のエビデンスの検証方法、介入方法の検証法を探求する。また、看護技術学に関連する国内外の関連文献ならびに関連領域の研究をクリティークする力を養い、自己の研究課題の焦点化と研究デザインの基礎を培う。
到達目標	1. 看護技術の意味と目的、適応、効果について考察する。 2. 看護技術のエビデンスの検証、介入方法の検証法を探求する。 3. 看護技術学に関連する国内外の関連文献、関連領域の研究をクリティークする力、方法を養う。 4. 自己の研究課題の焦点化と研究デザインの基礎を培う。
テキスト指定図書参考書	【参考書】 ①川島みどり:看護技術の現在, 勁草書房, 2003. ②川島みどり, 菱沼典子:看護技術の科学と検証, 日本看護協会出版会, 2002. 他
成績評価	レポート100%

科目名	看護技術学特論
担当教員	伊丹 君和
授業概要	専門性の高い科学としての看護を実践するための基盤となる看護技術について、科学と技術の概念、その発達史の概略を理解し、看護技術の位置、その意味と目的を考察する。また、看護技術に携わる者としての社会的役割、責任など倫理的課題について認識を深める。人を対象とする技術の特性、看護技術の基本的な方法論を理解し、エビデンスの検証、現在の研究知見と看護実践および教育への適応について考究する。
到達目標	1. 科学と技術の概念と変遷を理解する 2. 看護技術の意味と目的、適応、効果について考察する 3. 科学的根拠に基づいた看護技術を検証する 4. 看護技術に影響する諸因子を考察する 5. 技術に対する概念や研究の分析を通して、各自の研究への適応を検討する
テキスト指定図書参考書	【参考書】 ①メジカルフレンド社編集部編:看護技術論, メジカルフレンド社, 1977. ②川島みどり:看護技術の現在, 勁草書房, 2003. ③菱沼典子, 小松浩子:看護実践の根拠を問う, 南江堂, 2007. 他
成績評価	レポート100%

科目名	看護臨床的人間形成特論
担当教員	未定
授業概要	看護職者の「人間形成」は医療現場における看護実践や看護学校における教育実践をとおして実現される。本講では、人間形成概念と教育概念の比較検討から始め、非定型的学習と職業能力との関係、臨床看護実践に内在する人間形成の環境・制度・技術などについて討議する。また看護基礎教育と看護継続教育の現状を人間形成の見地から点検評価し、課題と今後の展望について考究する。
到達目標	
テキスト指定図書参考書	適宜指定する。
成績評価	未定

科目名	看護臨床的人間形成特論演習
担当教員	未定
授業概要	看護職者の職業経験から立ち現れてくる人間形成について、身近な現象や事例を活用しながら理解を深める。主にはライフストーリー・アプローチやナラティブ・アプローチの手法を用いて、長年にわたって看護職に従事していることの経験世界とその意味、看護や看護教育の場にある歴史文化的背景の影響、ライフサイクルやライフタスクとの関係などに着目しながら、人間形成の過程と様相を描出し解釈する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する。
成績評価	未定

科目名	基盤看護学特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	基盤看護学分野では、当該領域の専門的な知識と研究方法・技術等を適用し、実証的・開発的な研究を指導する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	担当教員が別途指示する。
成績評価	修士論文、修士論文発表会、最終試験の結果を総合して審査する。

科目名	形態機能・生体機構学演習
担当教員	安原 治
授業概要	神経疾患に関連する内外の論文を読み、研究の現状を把握する。その過程で神経疾患の看護に関する研究テーマを発見し、研究デザインを指導する。
到達目標	看護研究のテーマをみつけ、研究デザインができる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する。
成績評価	レポート

科目名	形態機能・生体機構学特論
担当教員	安原 治
授業概要	脳と神経の構造と機能を概説し、神経疾患の発症機構、治療、看護の最前線について学習する。
到達目標	神経系の病気の概略を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する。
成績評価	レポート

科目名	スピリチュアルケア展開演習
担当教員	未定
授業概要	スピリチュアルな次元(「意気」及び「観念」)に焦点を当てた援助的介入法について模擬実演及び体験学習を通して探究する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	講義初日に提示する。
成績評価	未定

科目名	精神看護援助方法論
担当教員	甘佐 京子
授業概要	精神看護領域で適用される援助技術に関する各種のモデル・方法論について教授し、実践的場面での応用・活用について考究する。
到達目標	精神看護領域で適用される援助技術に関する各種のモデル・方法論について理解し、実践的場面での応用・活用について考究し自己の実践に応用することができる。
テキスト 指定図書 参考書	講義初日に提示する。
成績評価	レポート(100%)

科目名	精神看護関連技法演習
担当教員	甘佐 京子
授業概要	精神看護の関連技法の理論的背景を知り、その知識や技法を看護実践に応用していく方策について検討していく。
到達目標	精神看護の関連技法の理論的背景を理解し、その知識や技法を看護実践に応用していく方策について自己の考えを述べることができる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜提示
成績評価	レポート(100%)

科目名	精神の健康生活評価法
担当教員	松本 行弘
授業概要	精神の正常・異常と健康・病気は、事例性と疾病性として同じではない。しかし、健康な生活には両方からのアプローチが必要であり、健康増進プログラムの立案、実施、評価のためには、まずアセスメント(査定・評価)が確実に果されることである。ここでは、精神の健康をめぐって様々な評価法の基本を教授し、演習形式で知識と技術の獲得、実習によって実戦能力を養う。
到達目標	精神の健康生活評価法についての知識、技術が獲得され、応用できるものになったか。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは指定しない。 指定図書:臨床心理学全書(臨床心理査定学、臨床心理査定1、2)誠信書房 参考書:心理測定尺度集Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 山野眞理子他 編 サイエンス社
成績評価	演習レポート(100%)

科目名	地域看護学演習
担当教員	飯降 聖子・未定
授業概要	地域看護活動においては、個人・家族とともに地域全体を対象とした活動が実践される。地域看護活動の歴史と変遷を踏まえた諸理論について検討し、知識を深める。ひとびとの潜在化した健康課題を顕在化し、個別支援からグループ支援、地域での健康づくり活動へと推進する高度な専門的能力を養成する。また、基礎となる考察力を高めるために文献講読を行う。国内外の活動事例を検証する過程で、その活動の有効性や課題について考察し、研究活動を行ううえでの資料とする。
到達目標	地域住民の潜在化している健康課題を顕在化し、個別支援からグループ支援、地域での健康づくり活動活動へと推進する高度な専門的能力を開発、養成できる。
テキスト 指定図書 参考書	橋本正巳訳:「大英帝国における労働人口集団の衛生状態に関する報告書」(財団法人日本公衆衛生協会) 津村智恵子:「三訂 地域看護学」(中央法規出版) 門脇豊子他編:「看護法令要覧」(日本看護協会出版会) 財団法人厚生統計協会「国民衛生の動向」
成績評価	レポート評価 70% ゼミ参加度 30%

科目名	地域看護学実践演習
担当教員	未定
授業概要	行政における保健医療システムを理解し、保健医療福祉行政施策決定の過程と政策の運営、戦略について実証的に学ばせる。また、地域看護実践を行い、保健・医療・福祉システムの現状と課題を把握し、問題の所在を探究する。さらに、この問題解決のために地域看護が果たす役割について、地方自治体に出向いて実践演習を展開し、地域看護実践者としての専門能力を習得させる。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	適宜指示する。
成績評価	未定

科目名	地域看護学特論
担当教員	飯降 聖子
授業概要	地域看護の発展の歴史から、概念や活動の理論的根拠を理解し、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。さらに地域のひとびとの健康ニーズの把握・アセスメント・看護活動の計画・実施・評価の過程を学習するとともに、住民と協働する地域看護活動のあり方を主体的に学ぶ。
到達目標	地域看護の概念や活動の理論的根拠を理解し、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点が確立できる。さらに地域のひとびとの健康ニーズの把握・アセスメント・看護活動の計画・実施・評価の過程が理解でき、住民と協働する地域看護活動のあり方を主体的に考察できる。
テキスト 指定図書 参考書	津村智恵子:「三訂 地域看護学」(中央法規出版) 門脇豊子他編:「看護法令要覧」(日本看護協会出版会) 財団法人厚生統計協会「国民衛生の動向」柳川洋・中村好一:「公衆衛生マニュアル」(南山堂)
成績評価	レポート評価 70% ゼミ参加度 30%

科目名	地域看護技術演習
担当教員	植村 小夜子 ・ 未定
授業概要	地域における看護活動には、保健師活動と訪問看護活動等があり、地域看護と在宅看護に区別されている。今日、在宅看護を担う看護職による地域での活動場面が広がっている。そこで、地域看護技術を駆使することは、地域住民の安全な生活及び療養環境を守ることにつながっていく。ここでは、看護職者が自らの活動の中から、また文献から地域看護活動の実際を探り、発表をする。更に、その内容について討議をしてそこにある課題について検討する。
到達目標	地域における看護・保健に関連する技術について理解したうえで、創造技術について検討ができる。
テキスト 指定図書 参考書	後日指定 【授業開始までに、前期の図書とともに、各社から出ている「地域看護学」「在宅看護論」「在宅看護技術」等に関する文献を読んで参加のこと。又授業の中で参考図書等を指定する。】
成績評価	レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)

科目名	地域看護技術特論
担当教員	植村 小夜子
授業概要	地域における看護活動には、保健師活動、訪問看護活動等があり、地域看護と在宅看護に区別されている。地域で展開される看護活動の内容は、立場の違いによって異なるが、看護理念は変わらない。今日では、在宅看護を担う看護職による地域における活動場面が広がっている。そこで、保健師と訪問看護師の両方が、その立場の違いを超えた地域看護活動を展開することは、生活の場でのケアをより豊にさせることにつながる。そこで、地域看護技術について、個別・集団への看護・保健活動の現状から分析を加え、そこにある課題とその対策について検討する。
到達目標	地域看護における看護者の役割を理解したうえで、地域看護活動を展開させる技術について分析し課題を明らかにできる
テキスト 指定図書 参考書	後日指定 【授業開始までに、各社から出ている「地域看護学」「在宅看護論」に関する文献を読んで参加のこと。又授業の中で参考図書等を指定する】
成績評価	レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)

科目名	病原微生物制御・疫学演習
担当教員	山田 明
授業概要	看護者として感染制御に必要な知識に基づき、感染、流行に関連する国内外の指針・文献・資料を検討、現状と問題点を把握させる。さらに論議を通じて修士研究につながるテーマを探らせる。
到達目標	感染症とその治療と予防についての知識の習得により修士論文作成の基礎とする
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】「病原体・感染・免疫」(南山堂)
成績評価	口頭試験 100%

科目名	病原微生物制御・疫学特論
担当教員	山田 明
授業概要	看護に必要な病原微生物の特性、感染・流行様式についての深い知識の習得をはかる。病原微生物の変異のしくみや微生物検査への学習をすすめ、さらに流行を疫学的立場からの理解を図る。これらの科学的根拠に基づき、感染から医療従事者と患者の安全を確保するための医療施設におけるさまざまな感染制御(ワクチン、物理的、化学的等)の方法について教授する。
到達目標	(1)感染予防の知識を得て病原体の感染から身を守る方法について基本的な説明ができること。特に標準予防策についての最新の知識について理解できること。 (2)現在、どのような感染症が問題になってどのような対策が考えられているかについて説明できること
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】「病原体・感染・免疫」(南山堂)
成績評価	口頭試験 100%

科目名	メンタルケア展開演習
担当教員	松本 行弘
授業概要	健康維持や健康回復に必要な人格変容や行動変容を主目的とした対人関係療法的アプローチの基本的枠組みを教授する。そのために、臨床現場で見られる不適応行動や精神病理現象を深層心理学的視点から明らかにし、実践的な援助的対人関係モデルの適用を考究する
到達目標	事例検討によって、事例への理解が実践的な援助的対人関係の視点から深められること。
テキスト 指定図書 参考書	指定しない。その都度、必要に応じて提示する。
成績評価	事例発表(30%)、事例への取り組み(50%)、レポート(20%)

科目名	生涯健康看護学特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	生涯健康看護学分野では、対象となる人々とその家族の健康増進および継続的な療養生活を支援・評価するための研究を指導する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	担当教員が別途指示する。
成績評価	修士論文、修士論文発表会、最終試験の結果を総合して審査する。

科目名	小児家族看護学演習
担当教員	古株 ひろみ
授業概要	障害や疾病がある子どもとその家族の状態について、倫理的配慮を含めて包括的に査定・援助する方法を議論させる。また、子どもとその家族の実態についてフィールドワークなどより理解を深め、その問題点と援助方法を探求し、自己の研究課題・研究方法を明確化させる。
到達目標	さまざまな健康状態の子どもとその家族に、権利と人権を尊重し、小児の発達をふまえた看護援助方法を考究できる。
テキスト 指定図書 参考書	資料配付、適宜提示
成績評価	レポート(70%)プレゼンテーション(30%)

科目名	小児家族看護学特論
担当教員	古株 ひろみ
授業概要	代表的な発達理論などについて解説し、障害や疾病がある子どもとその家族の健康生活・QOLについて、子どもの成長発達と生活環境、家族の構成・機能・発達・コーピング、ソーシャル・サポートの観点から分析・アプローチする方法を探究する。
到達目標	子どもとその家族の理解を深めるため発達理論、家族看護学理論などの理論を学び、また、子どもとその家族へのケアに関連する先行研究をクリティークし、子どもの成長発達、家族機能を強めるアプローチ方法を探究する。
テキスト 指定図書 参考書	資料配付、適宜提示
成績評価	レポート(100%)

科目名	成人継続看護学演習
担当教員	奥津 文子 ・ 横井 和美 ・ 荒川 千登世 ・ 糸島 陽子
授業概要	継続的な健康障害を有する人々の心身への状況・生活上の諸問題をアセスメントするための理論とEBNに基づいた支援技術について探究する。
到達目標	①健康障害を有する成人の心身への状況・生活上の諸問題をアセスメントするための理論について、説明できる ②看護治療技術のエビデンスを検討できる。 ③看護治療技術について、文献レビューができる。
テキスト指定図書参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

科目名	成人継続看護学特論
担当教員	奥津 文子
授業概要	慢性の経過をたどる患者の看護に有用な概念・理論・看護モデルを概観した上で、看護治療技術や評価尺度開発に関連した文献レビュー・クリティークを行い、ディスカッションを通してEBNに基づいた継続看護について探求する。
到達目標	①慢性の経過をたどる患者の看護に有用な概念・理論・看護モデルについて説明できる。 ②対象の状況に応じ適切に理論を活用し、看護現象を分析できる。
テキスト指定図書参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(約20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

科目名	成人健康支援演習
担当教員	森 敏
授業概要	継続療養特論、成人健康支援特論で教授された知識を基に、健康障害を持つ人の生活を支援するための高度な実践的看護技術を学び、具体的な慢性疾患指導能力を養うと共に、対象者への教育方法を探求する。
到達目標	
テキスト指定図書参考書	随時紹介
成績評価	実践記録ならびにレポート(100%)

科目名	成人健康支援特論
担当教員	森 敏
授業概要	継続療養特論に続いて、さまざまな神経疾患の診断法・治療法・予防法を学ぶ。また、脳神経疾患のフィジカルアセスメント、神経疾患患者に対する食事指導法・生活指導法についても教授する
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	テキストは随時紹介 授業用レジメ 日本内科学会作成DVD・ビデオ
成績評価	定期試験(90%)、出席点(10%)

科目名	母性看護学演習
担当教員	炭原 加代 ・ 岩谷 澄香
授業概要	女性の健康支援に関する国内外の関連論文を購読し、研究方法を探求するとともに、実践への適用を検討する。
到達目標	1) 女性のライフステージにおけるリプロダクティブヘルス/ライツに関連した先行研究をcritiqueし、女性の健康維持・増進をもたらす看護援助を追求する。これらの学習を通じて習得した知識と方法を大学院生の研究課題の設定につなげ、特別研究へと展開していく。 2) 周産期母子看護に関する国内外の文献を購読し、周産期ケアの研究と実践の動向および今後の課題を把握する。さらに、周産期における母子及び家族の状況に即した質の高いケアを追求するための研究方法を考察する。また、大学院生自らの研究課題を明確にし、その研究課題に応じた研究方法を探求する。
テキスト 指定図書 参考書	文献: 日本助産学会誌、母性衛生、日本看護研究学会誌、日本看護科学学会誌
成績評価	プレゼンテーション(80%)、出席(20%)

科目名	母性看護学特論
担当教員	炭原 加代 ・ 岩谷 澄香 ・ 大脇 万起子
授業概要	女性の健康支援に用いられる諸理論や諸概念を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツに関する今日的課題を追求すると共に、ライフステージからみた女性の健康問題や周産期母子及び家族の看護ニーズへの看護援助方法を探究する。
到達目標	リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解すると共に、女性のライフステージにおける健康支援に必要な概念や理論を理解し、女性とその家族に対する看護援助方法を探求する。また、周産期にある母子・家族の健康支援及び課題解決にかかわる概念や理論を理解し、看護研究および看護実践への適用を探求する。
テキスト 指定図書 参考書	参考文献はWeb版講義概要の「追加情報」に記載
成績評価	プレゼンテーション(80%)、出席(20%)

科目名	老年看護援助展開演習
担当教員	北村 隆子 ・ 畑野 相子
授業概要	様々な場で生活する認知症および身体障害を有する高齢者、あるいは虚弱な高齢者の身体・精神状況をアセスメントし、生活の場の違いによる援助方法を検討する。また、認知症、虚弱な高齢者への援助方法・システム等を諸外国と比較検討し、総合的な援助実践能力を養う。
到達目標	様々な場で生活する認知症および身体障害を有する高齢者、あるいは虚弱な高齢者の身体・精神状況をアセスメントし、生活の場の違いによる援助方法を検討することができる。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	レポート50%、プレゼンテーション50%

科目名	老年看護援助論
担当教員	北村 隆子 ・ 畑野 相子
授業概要	複雑な健康問題を持つ高齢者とその家族の機能および施設ケアにおける現状を文献や実態から分析し、高齢者看護を実践するために必要な理論・技術を探求する。
到達目標	複雑な健康問題を持つ高齢者とその家族の機能および施設ケアにおける現状を文献や実態から分析し、高齢者看護を実践するために必要な理論・技術を探求することができる。
テキスト 指定図書 参考書	吉川敏一:アンチエイジング医学ーその理論と実践ーなど 講義の中で適宜紹介する。
成績評価	レポート50%、プレゼンテーション50%

科目名	老年健康生活特論
担当教員	北村 隆子
授業概要	高齢者の健康生活を支援する理論および高齢者の心身機能評価を探求し、健康生活上の問題を分析するとともに、それに対する課題(サポートシステムなど)への解決方法を教授する。
到達目標	高齢者の健康生活を支援する理論および高齢者の心身機能評価を探求し、健康生活上の問題を分析することができる。
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜紹介する。
成績評価	レポート50%、プレゼンテーション50%

科目名	老年健康生活評価演習
担当教員	北村 隆子
授業概要	高齢者の健康生活に対する評価・介入方法を事例から分析し、家族システム・機能を含めた援助方法について理論と実態から検討する。また、高齢者のQOLを高めるためのケア計画とその評価方法の検討、およびその開発方法について探求する。
到達目標	1. 高齢者の健康生活に対する評価・介入方法を事例から分析し、家族システム・機能を含めた援助方法について考えることができる。 2. 高齢者のQOLを高めるためのケア計画とその評価方法の検討、およびその開発方法について文献を用いながら探求することができる。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で随時紹介する。
成績評価	レポート50%、プレゼンテーション50%

科目名	老年サポート技術演習
担当教員	未定
授業概要	コーディネータとしての役割を踏まえ、サポートシステムの組織化、活用への専門的知識、技術、理論の統合を図る。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	未定

科目名	慢性看護学課題研究
担当教員	奥津 文子・横井 和美・糸島 陽子
授業概要	慢性病とともに生活している人々への看護実践活動の分析と評価、効果的な看護展開方法や支援システムの構築等に関する課題をみつけ、研究をすすめる。また、専門看護師が自ら専門機能発揮の基盤を作り出す取り組みにおいて必要となる能力を育成する。
到達目標	実習施設および自施設における看護実践の現場の状況を素材として、活動の基盤作りおよび体制作りを実地に取り組み、その過程で必要となることを学ぶ。この過程では、取り組みの意図と計画、対応方法と対応結果など、具体的事実をデータ化し、目的に向けた成果など考察し、それらの取り組みを踏まえ、課題研究レポートを作成する。
テキスト指定図書参考書	適宜紹介する
成績評価	課題レポート(100%) 慢性看護学実習Ⅱでの専門看護師としての実践(卓越した実践・教育・相談・調整・研究・倫理を含む)を、理論に基づき分析・考察している(60%)・専門看護師看護実践の発展に寄与できる新たな看護方法の導入・開発を視野に入れている(40%)

科目名	慢性看護学実習Ⅰ
担当教員	奥津 文子・横井 和美
授業概要	慢性看護学実習Ⅰでは、慢性病をもつ人々との関わりを通し慢性病者の体験世界に理解を深め、慢性病者が求める看護ケアを提供するために、臨床で行われている高度で専門的な看護実践について臨地で学習する。
到達目標	サブスペシャリティの専門看護師が所属する施設で実習を行い、慢性病をもつ人々を看護する領域における高度な看護実践の指導(専門看護師)を受けながら、慢性疾患および生活習慣病の予防、健康増進、およびセルフマネジメントに関する看護実践の技術を修得し、看護実践能力を高める。(Web版シラバスの追加情報を参照すること)
テキスト指定図書参考書	実習の中で適宜紹介する
成績評価	理論を基盤とした実習計画の立案(30%) 専門看護師の役割理解(40%) 専門看護師の実践に対する理論的分析(30%)

科目名	慢性看護学実習Ⅱ
担当教員	横井 和美・奥津 文子
授業概要	慢性看護学実習Ⅱでは、実習Ⅰで獲得した実践技術を活かし、CNSとしての役割獲得ができるようスーパーバイザーの指導を受けながら、学生の関心領域である慢性病および生活習慣病の予防、健康増進および生活調整において、自らが高度な看護実践能力を統合して発揮できるような実習計画を立案し実施することによって、専門看護師に必要な実践能力を高める。
到達目標	実習Ⅰや今までの学習を活用した実習計画を立案し、専門看護師の基礎実践能力となる実践・教育・相談・調整・研究・倫理の能力を統合的に発揮しながら、計画を実施する。 Web版シラバスの「追加情報」を参照すること。
テキスト指定図書参考書	実習の中で適宜紹介する
成績評価	実習目標の明確化・妥当性(20%) 実習計画の妥当性(20%) 実習計画の実践状況・目標の達成度(30%) 看護実践活動に対する理論的分析・評価(30%)

科目名	慢性看護学特論 A
担当教員	奥津 文子 ・ 横井 和美
授業概要	慢性病者やその家族の心理的特徴や行動の理解を深める諸理論の内容を学習し、慢性看護の実践と研究への活用及び適用を探究する。
到達目標	慢性病者やその家族の行動や心理的特徴の理解を深める代表的な理論の内容について説明できる。対象者理解を深めるための、理論活用方法を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:アイリーン・モロフ・ラブキン、パメラ D. ラーセン著「クロニックイルネス 人と病いの新たななかかわり」医学書院 指定図書:黒江ゆり子 「慢性疾患の病みの軌跡—コービンとストラウスによる看護モデル」医学書院。 南裕子訳「慢性疾患を生きる」医学書院。 参考書:授業の中で適宜紹介する。
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(約20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

科目名	慢性看護学特論 B
担当教員	奥津 文子 ・ 横井 和美 ・ 角野 文彦※
授業概要	健康に対する考え方の変移から慢性病をもつ人に適用されてきた医療・福祉の制度や体制を学び、今日、慢性病者を取り巻く様々な場面でのヘルスプロモーションを把握するとともに、今後の課題や新たな医療・福祉制度を追求する。慢性病者の医療・福祉制度や体制をヘルスプロモーションの変遷の視点でとらえ、慢性病者が生活している様々な現場に実施されている医療・福祉制度と支援状況を紹介し、今後の医療・福祉制度の変遷を見極め、新たな制度や体制づくりへの創起に役立てる。
到達目標	1. 健康に対する考え方の変移から慢性病をもつ人に適用されてきた医療・福祉の制度や体制を説明できる。 2. 医療・福祉制度・体制をヘルスプロモーションの変遷の視点で説明できる。 3. 慢性病者に対するヘルスプロモーションについて今後の課題や新たな医療・福祉制度を検討できる。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(約20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

科目名	慢性看護支援論 A
担当教員	奥津 文子 ・ 横井 和美 ・ 竹村 節子※
授業概要	慢性病者を支援するための諸理論やモデルに基づく支援技術とその評価方法を学習し、慢性病患者の事例に適用して、具体的な支援方法や評価方法を検討する。慢性病者を支援するための諸理論やモデルを講義にて紹介し、支援技術が示された事例や文献レビューを行い、事例の情報を基に理論やモデルから導き出される支援方法を検討する。最終的には学生の関心領域である慢性病者の特徴を支援する方法や評価方法を検討する。
到達目標	1. 看護に活用される中範囲理論について、説明できる。 2. 看護現象を看護理論を用いて説明できる。 3. 看護問題を解決するための看護治療技術について、理論を用いて説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(約20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

科目名	慢性看護支援論B
担当教員	奥津 文子・横井 和美
授業概要	慢性病の様々な変化する時期に対応した情緒的支援および症状マネジメントのための支援技術の修得と評価方法について理解を深め、慢性病者のエンドステージでの支援についても看護のあり方を追求する。慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術について理論を講義にて学び、各病期における主な支援技術方法の習得とその評価方法についてもデータを用いて検討する。
到達目標	学生の関心のある慢性病者の新たな支援技術に対する教育的プログラムを立案する。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(約20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

科目名	慢性看護支援論C
担当教員	横井 和美・奥津 文子・伊波 早苗※
授業概要	慢性病者の質の高い生活に向けて、一次予防、二次予防、三次予防における治療環境の整備や、地域支援の現状と課題について検討し、療養生活をよりよく継続しながら社会生活を営むための連携の在り方、地域での療養生活における家族支援や地域社会支援の実態を理解し、円滑に療養生活を送れるための環境調整の方策について学ぶ。
到達目標	1. 慢性病者の質の高い生活に向けての治療環境について検討できる 2. 慢性病者を支援する継続看護に必要な調整内容について説明できる 3. 治療環境・支援チームの連携のグループ・ダイナミクスについて説明できる 4. 慢性病者を支援するチーム連携と継続看護の方向性について検討できる。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(約20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

科目名	慢性看護支援論演習
担当教員	奥津 文子・横井 和美・森 敏
授業概要	フィジカルイグザミネーションの技術習得および検査の見方など身体的アセスメントに必要な知識・技術の修得を基盤に、対象者の心理社会的な側面のアセスメントの視点を学び、さまざまな事例を通して包括的なアセスメントできる能力を身に付ける。
到達目標	慢性病者の複雑な状態を理解するためのフィジカルアセスメントの知識と技術の習得をはじめ、各発達段階における心理・社会的特徴からのアセスメントの視点を学ぶ。さらに、さまざまな慢性病者の事例の身体・心理・社会面等からのアセスメントの視点や方法を学び、包括的なアセスメント能力を高める。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する
成績評価	プレゼンテーション(約20%)・ディスカッション(約20%)・レポート(約60%)より総合的に評価する

大学院副専攻近江環人地域再生学座の履修について

※詳細は別紙「学座(副専攻)履修の手引き」を参照してください。

大学院全研究科共通の副専攻(学座)の設置について

高い専門性の上に、幅広い視野に立って様々な問題を解決へ導く学際的・総合的な知識と実践力を修得するための教育システムとして、全研究科共通の副専攻を設置します。大学院全研究科共通の副専攻を学座と呼びます。

学座履修の手続き

学座(大学院副専攻コース)を履修し学座提供科目を受講するためには、所定の申請期間中に履修申請し、選考試験を受け、これに合格することが必要です。

副専攻修了証書の授与

各自が所属する研究科(主専攻)の修了要件を満たし、学座所定の単位を取得した学生には、主専攻の修了証書とは別に、学長から副専攻の修了証書が授与されます。

近江環人地域再生学座

平成23年度に開設される学座は、近江環人地域再生学座です。近江環人地域再生学座では、豊かな自然・歴史・文化に根ざし、環境と調和した持続可能な循環型地域社会の実現を担うリーダー、コーディネーターとしての知識とスキルを修得することができます。近江環人地域再生学座を修了し、検定試験に合格した学生には、学長からコミュニティ・アーキテクト(近江環人)の称号が付与されます(第4章参照)。

学座開講科目と単位について

① 開講科目

<学座専門科目>

必修科目 2科目 4単位	「コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ」	後期・2単位
	「コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ」	前期・2単位

選択必修科目 下記の5科目 10単位から6単位

「地域診断法特論」	前期・2単位
「コミュニティ・マネジメント特論」	前期・2単位
「エコ・テクノロジー特論」	後期・2単位
「地域再生学特論」	後期・2単位
「地域再生システム特論」	前期・2単位

<選択科目>

各研究科(主専攻)から提供される科目(各研究科(主専攻)からの提供科目については下表参照)または学座の必修選択科目の残り科目から合わせて2科目 4単位

② 近江環人地域再生学座（大学院副専攻コース）の修了要件

研究科	課程	専攻	研究部門	学座修了要件単位				学座専門科目 (必修科目4単位を除く)のうち、各研究科で修了要件として認められる単位 (ただし、学座を修了した場合に限る。)	各主専攻から提供される選択科目 (単位数)
				学座専門科目			主専攻科目		
				必修 (※1)	選択必修 (※2)	選択	選択		
環境科学	環境科学	環境動態学	生態圏環境部門 生物系保全部門 生物生産部門	4単位	6単位 (科目提供する10単位から6単位を取得)	下記のいずれかから4単位 ①学座の選択必修残4単位 ②学座の選択必修残2単位 + 研究科選択科目2単位 ③研究科選択科目4単位	6単位	生物圏環境論(2) 生態系保全特別講義(2) 持続的生物生産論(2)	
		環境計画学	環境意匠部門 地域環境経営部門				10単位	環境造形特論(2) ランドスケープデザイン特論(2) 環境設計特論(2) 居住環境工学(2) 参加型計画運営論(2) 環境政策形成過程論(2)	
工学	工学	材料科学	無機材料部門 有機材料部門				8単位	天然高分子材料(2)	
		機械システム工学	機械システム工学部門				8単位	信頼性工学(2)	
人間文化学	博士前期	地域文化学	日本・地域文化論部門 アジア・地域文化論部門 考現学・保存修景論部門				8単位	日本生活文化論(2) 環琵琶湖地域論A, B(各2) 地域産業論A, B(各2) 環琵琶湖保存修景計画論A, B(各2) 地域展開論A, B(各2)	
		生活文化学	生活デザイン部門				8単位	地域生活空間特論(2) 空間デザイン特論(2) 道具デザイン特論 I, II(各2)	
			健康栄養部門				2単位		
			人間関係部門				8単位	社会・地域変動論特講(2) 社会学特講(2)	
人間看護学	修士	人間看護学 基盤看護学分野 生涯健康看護学分野 CNSコース慢性疾患看護学分野	2単位				地域看護学特論(2)		

(※1)コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ、Ⅱ

(※2)地域診断法特論、コミュニティ・マネジメント特論、エコ・テクノロジー特論、地域再生学特論、地域再生システム特論

科目名	エコ・テクノロジー特論
担当教員	学座教員
授業概要	サステナブル・デザインに必要な、省資源、省エネルギー、自然エネルギー、パッシブソーラー、水質浄化などの環境技術およびそれらを活かして持続可能な環境共生型社会を実現するための制度や政策について体系的に学ぶ。
到達目標	(1) 主な環境技術の概略を説明できる。 (2) エネルギー・経済・環境(3E)の関係を説明できる。 (3) エコ技術の経済性を推算できる。
テキスト指定図書参考書	講義内容に応じて、適宜資料を提示・配布する。
成績評価	出席状況およびレポート提出によって評価する。

科目名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ
担当教員	学座教員
授業概要	この実習では、受講生がプロジェクトの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の地域課題・地域再生プロジェクトに取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。具体的なプロジェクトとしては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発等を通じた地域再生プロジェクトが考えられる。地域での実践をとおして、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。
到達目標	以下のスキル、ノウハウの習得を目指す。 ① 地域の課題や可能性を具体的に掘り起こす地域診断の調査手法や技術。 ② デザインシャレットやワークショップといった手法や技術。 ③ 合意形成へとむすびつける総合的なコーディネート力。 ④ 与条件の中で最善の解決方法を見出すマネジメント力やデザイン力。 ⑤ 現実のプロジェクトでの問題解決に対する即応性や柔軟性。
テキスト指定図書参考書	各ゼミにおいて適宜配布する。
成績評価	プレゼンテーション20%、ゼミ評価40%、自己評価シートによる自己評価・指導教員評価40%

科目名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ
担当教員	学座教員
授業概要	エコ・テクノロジー特論と関連してその内容を実践的に修得することをねらいとする。実習では、主にサステナブル・デザインに必要な自然エネルギー利用技術、パッシブソーラーを取り入れた木造建築技法などについて課題を抽出し、その解決能力を養う。
到達目標	自然エネルギー利用技術では、太陽光発電システムおよびバイオ燃料発電システムに関するデータ収集と解析ができることを目標とする。自然素材利用技術では、木工技術等の実習を通じて、地域活性化に関する問題の解決手法を提案できるようになることを目標とする。
テキスト指定図書参考書	講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。
成績評価	エネルギー系50点＋木工系50点＝合計100点満点で評価し、60点以上を合格とする。なお、15回のうち、4回以上欠席した者には単位を認めない。

科目名	コミュニティ・マネジメント特論
担当教員	学座教員
授業概要	まちや地域のダイナミクスを創り上げている「人的、文化的、自然的」リソースに着目し、それらをうまく活用する社会的、制度的、経済的な仕組みを理解し、活用する方法について学ぶ。活動実践者から理念・マネジメントノウハウを学ぶと共に、地域活性化手法としてコミュニティ・ビジネス創出の理念・ノウハウを獲得する。
到達目標	コミュニティ・アーキテクト(以下CA)の活動には、様々なコミュニティとの対話やネットワークの構築が必須である。本講座では、様々なコミュニティ・マネジメントの実践者を講師として招き、多様なコミュニティの①概要把握、②特性把握、③マネジメント手法、④創造手法を学び、実際のプロジェクトにおいて関係するコミュニティをマネジメントできるスキルを獲得する。
テキスト指定図書参考書	テキスト:「3日でマスターできるコミュニティ・ビジネス起業マニュアル」細内信孝・鶴飼修,ぎょうせい,2002 参考書:「プロフェッショナルの原点」P.F.ドラッカー他,上田惇生訳,ダイヤモンド社,2008。 その他、講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布。
成績評価	各回授業でのミニレポート(学習内容と考察)の提出(14, 15回除く。計13回×5点=65点満点)及び最終レポート(課題)の提出(35点満点)で評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポート提出を行うこと。

科目名	地域再生学特論
担当教員	学座教員
授業概要	琵琶湖を中心に形成、継承されてきた滋賀県固有の歴史・文化・自然を基盤とした、生きた地域再生学を学ぶために、「地元学」の観点から、県内の取り組みを教材化し講義する。「地元学」に共通するテーマは、地域の特色を活かし地域の将来ビジョンにもとづく地域再生の手法の修得及び地域再生に係る事業の企画、調整、実施、改善のプロセスをオーガナイズし、行政、企業、市民、専門家等をコーディネートする総合能力の開発である。県内各地域で、行政或いは専門家として地域をとりまとめてきたリーダー・コーディネーターによる実践的講義を通して、地域再生の取り組み及び近江環人地域再生学座が育成する「コミュニティ・アーキテクト(近江環人)」の職能と役割について学ぶ。
到達目標	
テキスト指定図書参考書	各週の講義内容に応じて、資料を提示、配布する。
成績評価	各回授業内でのミニレポート(第15回を除く14回×5点=70点満点)と、近江地域再生フォーラムでのパネル提出10点、最終レポート(20点満点)で評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポートを提出すること。なお、この場合、評価点は通常より1段階下とする。

科目名	地域再生システム特論
担当教員	学座教員
授業概要	地方分権が推進される中で、地域の様々な課題解決を図り、地域の自立性、自律性を高めるには、私たちは何をすればよいのか。その解決策を提案するための理論と実践的手法を学ぶ。国外コースでは、アジアにおける現地滞在型演習で、英語による講義と滞在周辺地域でのフィールドワークとが組み合わされている。フィールドワークにおける取材力や情報整理力、グループワークにおける課題把握力や調整力などの発揮がより求められる。 (国内コースか国外コースのいずれかを選択する。)
到達目標	地域再生提案を行うためのコーディネートやファシリテーション、地域診断等の手法及び地域再生の事例を学ぶ。講義で習得した手法をもとに、地域住民、行政、学生を含むグループを形成し、設定されたフィールドと課題について課題解決にむけての実践的な活動の企画、現地調査、解決策作成をとりまとめる。
テキスト指定図書参考書	(国内コース)参考書:御園 慎一郎編「地域再生システム論」東京大学出版会、近江楽座学生委員会編著「近江楽座のススメー学生力で地域が変わる」(株)ラトルズ (国外コース)テキスト:事前案内や授業期間中に必要な資料を配付する。
成績評価	(国内コース)レポート70%、ファシリテーション能力等の実践力評価30%原則として、全ての授業に出席すること。 (国外コース)レポート70%、ファシリテーション能力等の実践力評価30%

科目名	地域診断法特論
担当教員	学座教員
授業概要	<p>地域再生への取り組みは、初めに地域特性を適切に把握・評価することから始まる。この授業では、地域における、環境、文化、経済等の特性を、さまざまな側面にわたる調査データおよび既存データを駆使して読み解く技術と、分析、評価するための手法を示す。また、地域課題相互の関連性や対処法について、具体的な事例を踏まえて考える。単に対処療法的な技術ではなく、諸要素の状況を総合的に分析して、地域の問題・課題の本質を把握し、解決策を提案する能力を習得することが目標である。</p>
到達目標	<p>地域課題相互の関連性や対処法について、具体的な事例を踏まえて考える。単に対処療法的な技術ではなく、諸要素の状況を総合的に分析して、地域の問題・課題の本質を把握し、解決策を提案する能力を習得することが目標である。</p>
テキスト 指定図書 参考書	<p>各週の講義内容に応じて、資料を提示、配布する。参考図書等は、適宜紹介する。</p>
成績評価	<p>各回授業でのミニレポート(第14回、15回を除く。なお、2, 3回、4, 5回、10, 11回は2コマで1回分とする。計10回×5点=50点満点)、各グループで制作した成果物及びプレゼンテーション(30点満点)、最終レポート(20点満点)にて評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポート提出を行うこと。</p>

【第3章 博士後期課程の講義概要】

本手引の「講義概要」は抜粋版です

詳しい「講義概要」については、学生ポータル STEP-USP で確認してください

環境科学研究科博士後期課程 科目履修の手引

1 履修方法

- ① 入学時に研究部門を選び、主指導教員の指導のもとに履修計画をたてる。
- ② 主指導教員と相談の上、自らの研究の方向に基づきコミティの他のメンバー(副指導教員)の指導を受けることができる。
- ③ いずれかの研究部門において4単位および研究科共通選択科目から4単位以上を履修する。
- ④ 博士論文指導には、指導教員があたる。

2 研究指導の方法

- ① 研究指導は、原則としてコミティ制により行う。主指導教員は、演習指導ならびに博士論文指導の全般を担当する。
- ② 特別演習の履修を義務付ける。
- ③ 主指導教員は、各セメスターの終了時に各人の研究の進捗状況をチェックした上で研究計画の修正など必要な措置を取り、博士論文の作成に向けて、研究指導を進める。

3 年次別配当表

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			備考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	【環境科学研究科環境動態学専攻】 (生物圏環境研究部門)					【修了要件】 いずれかの研究部門において 4単位および研究科共通選択 科目から4単位以上を修得し 、かつ博士論文を提出し論文 審査および最終試験に合格す ること。
	生物圏環境特別演習Ⅰ	1		2		
	生物圏環境特別演習Ⅱ	2		2		
	生物圏環境特別研究	1～3		—		
	(生態系保全研究部門)					
	生態系保全特別演習Ⅰ	1		2		
	生態系保全特別演習Ⅱ	2		2		
	生態系保全特別研究	1～3		—		
	(生物生産研究部門)					
	生物生産特別演習Ⅰ	1		2		
	生物生産特別演習Ⅱ	2		2		
	生物生産特別研究	1～3		—		
	【環境科学研究科環境計画学専攻】 (環境意匠研究部門)					
	環境意匠特別演習Ⅰ	1		2		
	環境意匠特別演習Ⅱ	2		2		
	環境意匠特別研究	1～3		—		
	(地域環境経営研究部門)					
	地域環境経営特別演習Ⅰ	1		2		
	地域環境経営特別演習Ⅱ	2		2		
	地域環境経営特別研究	1～3		—		
【研究科共通選択科目】						
環境科学特論	1・2・3		2			
生物圏環境特論	1・2・3		2			
生態系保全特論	1・2・3		2			
生物生産特論	1・2・3		2			
環境意匠特論	1・2・3		2			
地域環境経営特論	1・2・3		2			

科目名	生物圏環境特別演習 I
担当教員	専攻教員
授業概要	生態環境を構成する大気, 水, 地圏の物理, 化学, 生物過程, またはその管理手法の最適化のための工学的な手法を理解し, 取得させる実験, 野外調査・観察(測)の実施, 文献調査, 文献講読, 研究論文の作成に関する演習を行う。
到達目標	論文作成に必要な手法, 知識を会得すること。
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること。
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること。

科目名	生物圏環境特別演習 II
担当教員	専攻教員
授業概要	生物圏環境特別演習 I に引き続き, 実験, 野外調査・観察観測の実施, 文献調査, 研究論文の作成に関する演習を行う。演習 II では特に, 投稿論文作成および博士論文作成に関連した内容に力点を置いて指導する。
到達目標	論文作成に必要な手法と技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること。
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること。

科目名	生物圏環境特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	生態研究における大気大循環の地球規模の変動にかかる諸過程, 水循環・水環境の動態解明と低投入型管理手法の最適化, および持続的な生物生産技術の開発にかかる研究指導を行う。
到達目標	国内外の学会誌などへの投稿, 博士論文の作成に十分な結果と考察の習得する。
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること

科目名	生態系保全特別演習 I
担当教員	専攻教員
授業概要	陸域・集水域・水域生態系の生物多様性・相互作用と物質循環過程等の解明、そして望ましい生態系の保全・修復・維持管理手法を理解・習得させるための野外と室内の観察・実験、研究文献の調査と講読、研究論文の作成に関する演習を行う。
到達目標	指導教員により示される
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される
成績評価	指導教員により示される

科目名	生態系保全特別演習 II
担当教員	専攻教員
授業概要	生態系保全特別演習 I に引き続き、野外と室内の観察・実験、研究文献の調査と講読、研究論文の作成に関して究講・演習する。さらに学術雑誌への欧文論文作成ならびに博士申請論文の作成などの能力涵養と実践について指導する。
到達目標	指導教員により示される
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される
成績評価	指導教員により示される

科目名	生態系保全特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	陸域・集水域・水域生態系の生物多様性・相互作用と物質循環過程等の環境動態を、人間活動による生態系変容を含めて解明・解析し、それぞれの生態系の保全・修復に必要な生態系管理の評価手法の確立をめざした研究指導を行う。
到達目標	指導教員により示される
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される
成績評価	

科目名	生物生産特別演習 I
担当教員	専攻教員
授業概要	持続的かつ高い生物生産体系を確立、新しい遺伝資源の開発、生産管理技術の開発にかかる手法を理解し、取得させるための実験、野外調査、観察(測)の実施、文献調査、講読、研究論文の作成に関する演習を行う。
到達目標	論文作成に必要な手法、知識を会得すること。
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること

科目名	生物生産特別演習 II
担当教員	専攻教員
授業概要	博士後期課程1年時に実施した研究内容を学会誌等に投稿するための論文作成について指導するとともに、研究をより発展させるための実験、文献調査、英語について指導する。
到達目標	論文作成に必要な手法と技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること

科目名	生物生産特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	環境負荷が少なく、持続的かつ高い生物生産体系の確立を目指して、新しい動植物資源の開発・栽培・管理、動植物・微生物を制御する生産環境管理技術の高度化の攻究にかかる研究指導を行う。
到達目標	国内外の学会誌などへの投稿、博士論文の作成に十分な結果と考察を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること。
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること。

科目名	環境意匠特別演習 I
担当教員	専攻教員
授業概要	自然環境・社会環境の理解に基づいた持続可能なマイクロとマクロの空間形成に関連する意匠学・建築学の創造性、先端性を習得させ、自然環境を生かした新たな空間形成を目指した総合性、普遍性のある研究指導を行う。
到達目標	指導教員により示される
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される
成績評価	指導教員により示される

科目名	環境意匠特別演習 II
担当教員	専攻教員
授業概要	研究課題の特殊性に合わせた、研究対象の把握・分析方法、およびその結果の総合的視点からの解釈など、環境意匠分野の複合性の中での適切な方法論を中心とした研究指導を行う。
到達目標	指導教員により示される
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される
成績評価	指導教員により示される

科目名	環境意匠特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	自立した研究者、デザイナーとなるために必要な研究計画能力、総合設計能力を涵養するために意匠学、建築学に関する個別の研究課題について、指導教員との討論を行いながら博士論文作成のための理論・実践に関する研究指導を行う。
到達目標	指導教員により示される
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される
成績評価	

科目名	地域環境経営特別演習 I
担当教員	専攻教員
授業概要	環境システム、資源・環境経済、環境政策の相互関係、あるいは生産・消費・廃棄の連鎖に関する既往の研究を探索し、特定の研究課題を研究史の中に位置づけさせる。
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	地域環境経営特別演習 II
担当教員	専攻教員
授業概要	既往の研究成果を国際的な地域も視野に入れた地域経営的な視点で再整理・分析評価し、特定の研究課題を総合的に研究する方法に習熟させる。
到達目標	各学生の指導教員によって示される。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	地域環境経営特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	地域環境経営を国際的なフィールドにまで拡大することを前提にして、地域環境経営特別演習 I II で示唆されたような特定の研究課題について仮説設定からその検証に至る過程の研究指導を行い、博士論文にまとめさせる。
到達目標	博士論文の完成。
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。
成績評価	各学生の指導教員によって示される。

科目名	環境科学特論
担当教員	専攻教員
授業概要	自らの研究内容を、専門の学会等で発表する能力を身につけるとともに、環境科学全般にかかわる講演会等で、特に専門としない者に対しても理解できるような発表能力を身につけることを目的とする。また、学会誌への投稿論文の作成能力とともに、その研究成果を一般メディアへ発表するための文章能力を身につけることを目的とする。これらの目的のために、環境科学部が主催する講演会やセミナー、関連学会および環境科学全般に関連する講演会等に参加し、その内容を記録し、批評を行う。
到達目標	自らの研究テーマについて論文としてまとめる能力を高めるとともに、研究成果を一般の人々にも理解できるような形で提供できるようになる。また専門領域外の研究成果についても理解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	特になし。
成績評価	レポートおよび発表論文によって評価する。

科目名	生物圏環境特論
担当教員	専攻教員
授業概要	生物圏環境に関する研究を推敲するために、特に力を入れて学習すべきテーマを受講者相互で決め、それにふさわしい書籍を探し(英文文献であることが望ましい)、その書籍に基づいた学生主体型授業を行う。博士前期過程の学生も同席させ、彼らにも主体的学習に参加させることが望ましい。学生主体でのゼミ運営になるため、学習内容の定着はもとより、ゼミ運営能力および下級生への指導力も取得することを期待する。
到達目標	決定したテーマに関する書籍の内容を十分に理解すること。下級生などへの指導力やゼミ運営能力を会得すること。
テキスト 指定図書 参考書	第1回のテーマ設定時に決定する。
成績評価	担当回の講読準備内容50%、毎回のゼミでのパフォーマンス50%

科目名	生態系保全特論
担当教員	専攻教員
授業概要	陸圏・水圏および集水域の生態系動態・物質動態・水質汚濁および生物群集の相互関係などについて、自然資源の持続的利用と環境管理に不可欠な生態系と水環境の保全および自然と人間の共生圏の創生に関する理論と研究手法の最前線をセミナー形式で講義する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	

科目名	生物生産特論
担当教員	専攻教員
授業概要	生物生産に関する研究を推敲するために、特に力を入れて学習すべきテーマを受講者相互で決め、それにふさわしい書籍を探し(英文文献であることが望ましい)、その書籍に基づいた学生主体型授業を行う。博士前期過程の学生も同席させ、彼らにも主体的学習に参加させることが望ましい。学生主体でのゼミ運営になるため、学習内容の定着はもとより、ゼミ運営能力および下級生への指導力も取得することを期待する。
到達目標	決定したテーマに関する書籍の内容を十分に理解すること。下級生などへの指導力やゼミ運営能力を会得すること。
テキスト 指定図書 参考書	第1回のテーマ設定時に決定する。
成績評価	担当回の講読準備内容50%、毎回のゼミでのパフォーマンス50%

科目名	環境意匠特論
担当教員	専攻教員
授業概要	学生の研究テーマに合わせて、関連する分野に関わる先端的な課題や知見について講義を行う。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	

科目名	地域環境経営特論
担当教員	専攻教員
授業概要	学生の研究課題に応じ、関連する研究動向等について講じる。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	

工学研究科博士後期課程 科目履修の手引

1 履修方法

- ① 学生の希望する研究内容、将来の進路等により指導教員を定め、その指導に基づき履修計画をたてる。
- ② 必修科目として先端工学特論，先端工学特別演習2科目（計4単位）および先端工学特別研究1科目を履修する。
- ③ 先端工学専攻選択科目・他研究科科目から4単位以上を履修する。なお，他研究科科目の履修については所属専攻の許可を得るものとする。
- ④ 指導教員の研究指導に基づき博士論文を作成する。

2 研究指導の方法

研究指導は、定められた指導教員が行う。指導教員の編成は、学生の希望する研究内容を考慮して行い、その構成は、研究指導に直接責任を負う主旨導教員1名ならびに研究内容に関連する2名の副指導教員とする。主旨導教員は研究テーマの設定から学位論文の作成まで、副指導教員の緊密な連携のもとに学生の指導にあたる。

主旨導教員は、定期的に各人の研究の進捗状況をチェックし、研究計画の修正および調整など必要な措置を取り、博士論文の作成に必要な実験等についても計画的に進行するよう指導する。

3 年次別配当表

授 業 科 目 の 概 要	授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数			備 考
			必 修	選 択	自 由	
	【工学研究科先端工学専攻】					【修了要件】 先端工学専攻必修科目 4 単位 および先端工学専攻選択科目 ・他研究科科目から 4 単位以上を修得し、かつ博士論文の審査および最終試験に合格すること。
	無機材料特論	1～2		2		
	有機材料特論	1～2		2		
	機械工学特論	1～2		2		
	機械システム工学特論	1～2		2		
	先端工学特論	1～2	2			
	先端工学特別演習	1～2	2			
	先端工学特別研究	1～3	—			

科目名	無機材料特論
担当教員	専攻教員
授業概要	環境やエネルギー問題の解決につながる金属材料の高機能化、次世代のセラミックス微量の設計、エネルギー環境材料の応用を視野において、無機材料を高機能化し、新機能を付加するための作成プロセス、新材料の特性評価、物性と構造の相関性などを理論的および実践的成果をもとに理解させる。
到達目標	無機材料の基礎から応用まで理解し、実際の材料に適用できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する
成績評価	レポート評価 100%

科目名	有機材料特論
担当教員	専攻教員
授業概要	生物はその生存や行動の基盤を光に負っており、光反応の重要性は古くから認識され、近年は情報伝達の技術に、合成・加工キープロセスとして、また生命現象の解明にと多様な面をもつ光化学反応を、基礎的立場と方法論に基づき、その特徴的な励起状態分子の挙動に関して有機化学の立場から概説する。さらに本講では、我々の身近にある高分子材料について合成法、構造、物性について概観し、電気・電子、エネルギー、医療、環境などの分野での近年の応用について述べる。
到達目標	有機材料全体を俯瞰でき、平易に説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	必要な資料は配布する。
成績評価	レポート(100%)で評価する。

科目名	機械工学特論
担当教員	専攻教員
授業概要	環境と人間に融合した機械を開発・設計する技術を修得させる。エネルギー消費が少なくクリーンな動力システム、流体エネルギーの有効利用に向けた流れの予測・制御法、機械の長寿命化を目指した表面改質技術と寿命評価法、使いやすく振動や騒音の少ない機械の設計法を理解させる。
到達目標	エネルギー消費が少なくクリーンな動力システムを理解できる。流体エネルギーの有効利用に向けた流れの予測・制御法を理解できる。機械の長寿命化を目指した表面改質技術と寿命評価法を理解できる。使いやすく振動や騒音の少ない機械の設計法を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。
成績評価	講義内容に関するレポートにより評価する。

科目名	機械システム工学特論
担当教員	専攻教員
授業概要	将来の知的生産システムを視野におき、ネットワーク時代のCAD/CAMと知能化ソフトウェア、次世代の生産工程で使用されるであろう適応制御型工作機械、ロボット等のハードウェアとその制御を数学的理論によって理解させる。
到達目標	CAD/CAMと知能化ソフトウェアについて理解できる。適応制御型工作機械、ロボット等のハードウェアとその制御を数学的理論によって理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。
成績評価	授業内容に関するレポート等により評価する。

科目名	先端工学特論
担当教員	専攻教員
授業概要	近年の工学の発展は、材料科学、機械システム工学および電子システム工学の分野を超えて、互いに融合する新たな先端工学分野が求められるようになってきている。さらに、これらの学問分野は従来の工学的手法と異なる創造的破壊を伴う新機軸の発想と実行が求められている。このため、実際の例をもとに、異なる工学分野を融合した先端工学という創造的学問体系について近年の工学的発展の背景をもとに理解させる。
到達目標	自ら研究計画を立案し、その計画を遂行し、結果について総合的に評価できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する
成績評価	研究報告の内容について審査する。

科目名	先端工学特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	指導教員との議論を通じて、自立した研究者となるために必要な研究計画、遂行能力とその総合評価能力を培わせるとともに、先端工学の理論・実験等に関する特別演習を行う。
到達目標	みずから研究計画を立案し、その計画を遂行し、結果について総合的に評価できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 既往の研究に関連した論文など
成績評価	研究報告の内容について審査する。

科目名	先端工学特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を涵養するために、個別の研究課題について、指導教員との討論を行いながら博士論文作成のための理論・実験などに関する特別研究を行う。
到達目標	自ら研究計画を立案し、その計画を遂行し、結果について総合的に評価できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する
成績評価	研究報告の内容について審査する。

人間文化学研究科博士後期課程 科目履修の手引

1 履修方法

- ① 研究テーマの追究に当たって、本来の専門領域にかかわる主たる指導教員の研究指導を重点的に受けるが、必要に応じて関連領域を担当する教員の指導をも受けさせ、多角的に研究を展開することによってオリジナリティの高い成果が得られるような教育を行う。
- ② 「特別研究」の指導は、このような重点的ならびに副次的な指導体制に基づいて行う。
- ③ 「特別演習」は、各研究部門ごとに設定し、担当する指導教員の密接な連携のもとで、学際的な立場から学生の指導に当たる。

2 年次別配当表

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			備考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	【人間文化学研究科地域文化学専攻】					【修了要件】 必修科目4単位および選択科目4単位以上を修得し、かつ博士論文を提出し論文審査および最終試験に合格すること。 なお、前期課程の科目を履修し単位を修得することができる。
	(日本・地域文化論 研究部門)					
	日本・地域文化論特別演習	1～2		4		
	日本・地域文化論特別研究	1～3		—		
	(アジア・地域文化論研究部門)					
	アジア・地域文化論特別演習	1～2		4		
	アジア・地域文化論特別研究	1～3		—		
	(考現学・保存修景論研究部門)					
	考現学・保存修景論特別演習	1～2		4		
	考現学・保存修景論特別研究	1～3		—		
	【人間文化学研究科生活文化学専攻】					
	(生活デザイン論研究部門)					
	生活デザイン論特別演習	1～2		4		
	生活デザイン論特別研究	1～3		—		
	(健康栄養論研究部門)					
	健康栄養論特別演習	1～2		4		
	健康栄養論特別研究	1～3		—		
	(人間関係論研究部門)					
人間関係論特別演習	1～2		4			
人間関係論特別研究	1～3		—			
【研究科共通科目】						
研究方法特論	1		2			
リサーチ・ワークショップ	1		2			

科目名	日本・地域文化論特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	専門分野・隣接分野について、日本の各地域・各時代を扱った研究論文等を精読し、基礎理論、方法論および先行研究の成果に関する理解を深める。
到達目標	研究テーマにおける問題の所在や専門分野の研究動向に対する洞察力を涵養する。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	討論の内容等による。

科目名	日本・地域文化論特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	日本における地域文化の領域について、歴史的・国際的視点に立脚し、理論的・応用的な研究課題を設定させ、分析方法、調査方法、研究成果のまとめ方などについて高度な指導を行う。
到達目標	独創的かつ専門的な博士論文を作成させる。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	研究の内容等による。

科目名	アジア・地域文化論特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	専攻する地域(アジア)・時代の論文や調査報告書を精読する。また、現地調査を実施させ、その際に作成したフィールドノートをもとに討議する。
到達目標	海外地域(アジア)研究の手法を身に付け、論文や調査報告書の作成につなげる。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	討論の内容等による。

科目名	アジア・地域文化論特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	現地調査と文字資料、歴代の史料などを総合することで、アジアの地域文化の形成、発展、現状を分析し、実態解明を図る。また、その成果を高めるべく、比較研究を進めさせる。
到達目標	独創的かつ専門的な博士論文を作成させる。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	研究の内容等による。

科目名	考現学・保存修景論特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	考現学、保存修景論、地域展開論などの分野の論文を読み、また、これらの分野に応じた現地調査・実習も行う。さらに、その成果を素材として討論を行う。
到達目標	考現学・保存修景論分野の専門的な研究遂行力を高める。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	討論の内容等による。

科目名	考現学・保存修景論特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	地域文化の歴史的展開、現状、展望(将来的に想定される意味)を明らかにすることはもちろん、望ましい伝統文化については、その保存修景の方策を考察する。
到達目標	独創的かつ専門的な博士論文を作成させる。
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。
成績評価	研究の内容等による。

科目名	生活デザイン論特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	生活デザイン論のなかでインテリア、住居、都市、地域を含む住環境デザイン、道具デザイン、服飾デザインの各分野において、最新の研究成果である各種文献を読み、紹介し、そして討論し、それらの分野の知見と研究動向を把握させ、研究方法を更に修得させ、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。
到達目標	研究分野に関する知見と研究動向を把握し、研究方法を修得し、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書・参考書:授業内で適宜紹介する。
成績評価	

科目名	生活デザイン論特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	住居デザイン、道具デザイン、服飾デザインなど生活デザインの各分野並びにこれらの横断的な分野に関するテーマについて、複数の教員によって指導し、その成果を博士論文にまとめさせる。
到達目標	研究分野に関する知見と研究動向を把握し、研究方法を修得し、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書・参考書:授業内で適宜紹介する。
成績評価	

科目名	健康栄養論特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	健康栄養論に関する知見の進歩・国際比較を考慮に入れて、最新の研究論文・総説を紹介させ、質問と討論を行う。
到達目標	研究分野に関する知見から研究動向を把握し、また研究方法を修得することによって、問題の所在、研究の方向性を洞察できる能力を身につけさせる。
テキスト 指定図書 参考書	特に指定せず、適宜紹介する。
成績評価	研究分野における最新知見(研究論文・総説など)を紹介するプレゼンテーション内容から、また質問と討論の内容をまとめたレポートなどから評価する。

科目名	健康栄養論特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	生化学、栄養学、食品学などの幅広い生活科学領域から、食生活を通じた健康に関する諸問題を総合的並びに学際的に捉えさせる。これらの健康栄養に関する諸研究分野から、学生が選択したテーマについて複数の教員によって研究指導を行い、その成果を博士論文にまとめさせる。
到達目標	生化学、栄養学、食品学などの幅広い生活科学領域から、食生活を通じた健康に関する諸問題を総合的並びに学際的に捉えられる。自ら健康栄養に関する諸研究分野からテーマを選択し、教員の指導による研究活動を行い、その成果を博士論文にまとめられる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。
成績評価	研究についての中間報告および成果の発表等により評価する。

科目名	人間関係論特別演習
担当教員	専攻教員
授業概要	心理学、社会学、教育学など人間関係論に関わる諸分野において、最新の研究成果である各種文献を読み、討論する。これにより、諸分野の知見や研究方法を習得させ、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。
到達目標	研究分野に関する知見と研究方法を習得し、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。
成績評価	授業に対する取組や発表内容、討論による。

科目名	人間関係論特別研究
担当教員	専攻教員
授業概要	心理学、社会学、教育学など人間関係論に関わる諸分野、ならびにこれらの分野を横断的に扱う固有のテーマを選定し、研究をおこないその成果を博士論文にまとめさせる。
到達目標	関連の研究分野において、新たな研究の方向を自律的に探究し、独創的かつ専門的な博士論文を作成する。
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。
成績評価	研究への取組や研究成果による。

科目名	研究方法特論
担当教員	専攻教員
授業概要	学生が幅広い視野の元に研究を進めていけるよう、関連する研究領域の研究方法について、主たる指導教員以外からも指導を受けられる機会をつくる。学生は研究テーマの追求にあたって、それに関連する領域を担当する複数の教員(主たる指導教員以外の教員)の研究室を訪問し、研究テーマ、研究方法、研究倫理、そのほか研究者として必要な技法や理論的知識について個別指導を受ける。
到達目標	複数教員からの指導をもとに研究テーマを追求し、幅広い視野を身に付ける。
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。
成績評価	授業に対する取組による。

科目名	リサーチ・ワークショップ
担当教員	専攻教員
授業概要	学生の研究を個々の専門分野の垣根を越えて組織的、多面的に指導・支援するために、履修者全員と担当教員全員が出席するワークショップを年2回ほど開催する。履修者は事前に報告要旨を提出し、その上で自らの研究計画・研究報告を発表し、質疑を受ける。ワークショップ終了後、質疑応答の結果を踏まえて改善した研究計画書および論文執筆計画書をまとめる。
到達目標	自身の研究を多面的にとらえ、研究の遂行と論文執筆に取り組む。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	授業への取組や、発表内容・討論による。

【第4章 資格取得等の手引】

1. 教育職員専修免許の取得について

本学大学院では、「中学校教諭専修免許」、「高等学校教諭専修免許」および「栄養教諭専修免許」の取得が可能になります。

(1) 免許取得の要件

これらの免許を取得するためには、次の要件が具備されていなければなりません。

① 基礎資格として、「修士」の学位を有すること。

② (ア) 一種免許状取得者および一種免許状取得要件を満たす者

免許取得に必要な単位数として、本学大学院の各研究科・専攻ごとに示す授業科目(次ページ以降参照)のうち、24単位以上を修得すること。

(イ) 一種免許状取得要件を満たさない者

一種免許状取得要件を満たす単位数と、本学大学院の各研究科・専攻ごとに示す授業科目(次ページ以降参照)のうち24単位以上を併せて修得すること。

(2) 免許の種類

各研究科・専攻ごとの取得可能な免許の種類については、次のとおりです。

研究科	専攻名	免許の種類
環境科学研究科	環境動態学専攻	中学校教諭専修免許 (理科) 高等学校教諭専修免許 (理科)
	環境計画学専攻	高等学校教諭専修免許 (公民)
工学研究科	材料科学専攻	高等学校教諭専修免許 (工業)
	機械システム工学専攻	中学校教諭専修免許 (技術) 高等学校教諭専修免許 (工業)
人間文化科学研究科	地域文化学専攻	中学校教諭専修免許 (社会) 高等学校教諭専修免許 (地理歴史)
	生活文化学専攻	中学校教諭専修免許 (家庭) 高等学校教諭専修免許 (家庭) 中学校教諭専修免許 (社会) 高等学校教諭専修免許 (公民) 栄養教諭専修免許 ※

※ 栄養教諭専修免許は、平成23年度以降入学生から取得が可能となります。

(3) 各研究科・専攻における教育職員専修免許の取得について

免許取得に必要な単位として、一種免許状を取得し、かつ本学大学院の授業科目のうちから「教科に関する科目」(栄養教諭専修免許状は、「栄養に係る教育に関する科目、またはそれに準ずる科目」)を24単位以上修得する必要があります。各研究科・専攻ごとに履修しなければならない科目が異なりますので、次ページから研究科・専攻別に説明します。

◇環境科学研究科 ◆環境動態学専攻

中学校教諭専修免許（理科）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（理科）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
G I S / リモートセンシング論		2	選択科目より8単位 以上を修得すること。
物質循環論		2	
大気水圏環境論		2	
水圏生態系動態論		2	
森林生態学特論		2	
集水域環境論		2	
生態系影響論		2	
生物社会共生論		2	
水資源環境論		2	
陸面過程論		2	
土壌圏環境論		2	
化学物質動態論		2	
持続的生物生産論		2	
植物遺伝資源論		2	
動物生産環境論		2	
生産環境管理論		2	
植物資源管理論		2	
環境動態学特別演習Ⅰ	4		
環境動態学特別演習Ⅱ	4		
環境動態学特別研究Ⅰ	4		
環境動態学特別研究Ⅱ	4		

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇環境科学研究科 ◆環境計画学専攻

高等学校教諭専修免許（公民）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
環境リスク論		2	選択科目より、8単位以上を修得すること。
国際農林環境政策論		2	
地域空間計画学		2	
安全防災計画学		2	
居住環境工学		2	
廃棄物とリサイクル		2	
地域資源経営論		2	
資源循環と国際貿易		2	
参加型計画運営論		2	
環境政策形成過程論		2	
環境開発論		2	
環境計画学特別研究Ⅰ	4		
環境計画学特別研究Ⅱ	4		
(環境意匠研究部門)			
環境計画学特別演習ⅠA	}	4	ⅠA、ⅠBのいずれかを選択
環境計画学特別演習ⅠB			
環境計画学特別演習ⅡA	}	4	ⅡA、ⅡBのいずれかを選択
環境計画学特別演習ⅡB			
(地域環境経営研究部門)			
環境計画学特別演習Ⅲ	4		
環境計画学特別演習Ⅳ	4		

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇工学研究科 ◆材料科学専攻

高等学校教諭専修免許（工業）に係る「教科に関する科目」

授業科目の名称	単位数		要件
	必修	選択	
金属材料物性		2	選択科目より14単位以上を修得すること。
金属機能材料プロセッシング		2	
非晶質無機材料		2	
構造・化学機能セラミックス		2	
エネルギー変換材料		2	
無機ナノ粒子工学		2	
機能界面化学		2	
複合材料工学		2	
高分子材料物性		2	
高分子材料合成		2	
天然高分子材料		2	
生体機能科学特論		1	
遺伝子生化学		1	
有機材料設計		2	
環境機能材料		2	
材料科学特別実験	5		
材料科学特別演習	5		

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇工学研究科 ◆機械システム工学専攻

中学校教諭専修免許（技術）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（工業）に係る「教科に関する科目」

授業科目の名称	単位数		要件
	必修	選択	
熱システム工学		2	選択科目より14単位以上を修得すること。
応用流体力学		2	
燃焼工学		2	
混相流工学		2	
強度設計工学		2	
機械運動論		2	
応用メカトロニクス論		2	
非線形制御論		2	
最適化システム論		2	
信頼性工学		2	
知的生産システム		2	
品質工学		2	
NC工作機械		2	
切削加工学		2	
応用数理解析		2	
現代数理概論		2	
機械システム工学特別実験	5		
機械システム工学特別演習	5		

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆地域文化学専攻

中学校教諭専修免許（社会）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（地理歴史）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
異文化接触論		2	選択科目より8単位以上を修得すること。
ヨーロッパ地域文化論		2	
日本生活文化論		2	
日本考古学A		2	
日本考古学B		2	
環琵琶湖地域論A		2	
環琵琶湖地域論B		2	
女性史・ジェンダー論A		2	
女性史・ジェンダー論B		2	
美術史特論A		2	
美術史特論B		2	
社会学特論A		2	
社会学特論B		2	
地域産業論A		2	
地域産業論B		2	
中国文化史特論		2	
北東アジア地域史A		2	
北東アジア地域史B		2	
朝鮮史特論A		2	
朝鮮史特論B		2	
アジア考古学A		2	
アジア考古学B		2	
モンゴル・ディアスポラ論A		2	
モンゴル・ディアスポラ論B		2	
トランス・ヒマラヤ文化論		2	
現代中国特論A		2	
現代中国特論B		2	
考現学・保存修景特論		2	
環琵琶湖保存修景計画論A		2	
環琵琶湖保存修景計画論B		2	
地域文化遺産調査・情報論		2	
地域展開論A		2	
地域展開論B		2	
地域文化学特別演習	8		
地域文化学特別研究	8		

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆生活文化学専攻

中学校教諭専修免許（家庭）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（家庭）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
地域生活空間特論		2	選択科目より8単位以上を修得すること。
室内環境計画特論		2	
道具デザイン特論Ⅰ		2	
服飾デザイン特論		2	
衣料素材・染色科学特論		2	
栄養制御論		2	
健康運動学特論		2	
栄養応答論		2	
臨床栄養血液学		2	
臨床栄養管理研究		2	
(生活デザイン部門)			
生活文化学特別演習（生活デザイン分野）	8		
生活文化学特別研究（生活デザイン分野）	8		
(健康栄養部門)			
生活文化学特別演習（健康栄養分野）	8		
生活文化学特別研究（健康栄養分野）	8		

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆生活文化学専攻

中学校教諭専修免許（社会）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（公民）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
現代生活論Ⅱ		2	選択科目より8単位以上を修得すること。
学校教育・生活指導論特講		2	
比較行動論特講		2	
行動発達論特講		2	
社会・地域変動論特講		2	
社会学特講		2	
生活文化学特別演習（人間関係分野）	8		
生活文化学特別研究（人間関係分野）	8		

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆生活文化学専攻

栄養教諭専修免許に係る「栄養に係る教育に関する科目」および「それに準ずる科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
児童健康問題特論		2	24単位以上を修得すること。
地域食育実践学特論		2	
学校栄養教育実践特論		2	
食文化特論		2	
小児医学特論		2	
食素材特論		2	
運動処方学特論		2	
行動学特論		2	
食品機能論		2	
栄養教育特論		2	
調理科学特論		2	
栄養機能科学特論		2	
食品栄養学特論		2	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

2. 建築士試験の受験資格にかかる大学院での実務経験について

建築士法では、国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めて大学等を卒業した者で、その卒業後建築に関する実務経験を所定の年限以上有する者に、建築士試験の受験資格が与えられることになっています。

本学では、環境科学研究科環境計画学専攻で開講されている以下の科目について、所定の単位を取得すれば、建築士受験資格での「実務経験1年」として認められます。

授業科目の名称	単位数		必要単位数
	選択必修	選択	
環境造形特論		2	8単位以上
建築設計特論		2	
建築デザイン特論		2	
建築計画特論		2	
居住環境工学		2	
建築構造特論		2	
建築技術特論		2	
環境計画学特別演習ⅠB	4		
環境計画学特別演習ⅡB	4		4単位

3. 近江環人（コミュニティ・アーキテクト）の称号取得について

コミュニティ・アーキテクト(近江環人)とは、湖国近江の風土、歴史、文化を継承し、環境と調和した循環型地域社会を形成するために、地域診断(環境、防災、土地利用、景観、資源、エネルギー等)からまちづくり(コミュニティ活性化、環境改善、市街地再生、地域文化育成等)への展開をオーガナイズする新たな職能として定義し、滋賀県立大学が称号を付与するものです。

大学院全研究科共通の副専攻として設置される近江環人地域再生学座の大学院副専攻コース(本学大学院生)および社会人コース(社会人等)を修了した学生を対象に、検定試験を実施し、合格したものに「コミュニティ・アーキテクト(近江環人)」の称号を付与します。

4. インターンシップについて

学生が自己の職業適性を考え、職業意識を高める機会としてインターンシップ制度を充実します。

1) インターンシップとは

インターンシップとは「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した 就業体験を行うこと」と定義されています。本学では学生が企業・団体において行う短期間の実習・研修的な就業体験を通して、職業観・社会観を育み、自身のキャリア形成の意識を高めることを目的に単位認定型のインターンシッププログラムを実施しています。

2) インターンシップの基本理念

- ①本学の教育理念「人が育つ」に基づき、学生の「学習」と「社会人としての成長」を促す。
- ②社会体験を通じて、学問への社会的要請と意義を理解させる。
- ③社会や職業における諸課題を解決する実践的能力を身につけ、総合的な人間力を向上させる。

3) インターンシップの基本方針

- ①専門教育に資する、もしくは学習を意識づける契機とする。
- ②インターンシップは、インターンシップ実習、事前・事後学習を含むものとして、本学学生のキャリア形成を促進する教学プログラムの一環とする。
- ③本学の人材育成を広く社会に示すと同時にその成果を還元する。

4) インターンシップの種類

大学が受入企業・団体と覚書を締結して学生に紹介する「協定型インターンシップ」や、企業・団体が独自に行うインターンシップに学生自ら応募する「自由応募型インターンシップ」、そして学部・学科等の専門的分野における「専門型インターンシップ」の3種類があります。

5) 単位認定されるインターンシップの内容

- ①対 象 : 大学院博士前期課程1回生
- ②実施時期 : 原則として夏季休業期間に実施する。(1週間から4週間程度)
- ③授業科目名
インターンシップC : 5日以上の高度な就業体験実習を行う。 1単位
インターンシップD : 10日以上の高度な就業体験実習を行う。 2単位
(自由科目とし、修了要件単位には加えない)
- ④科目登録 : 受入先が決定したら直ちに科目登録を行うこと。
- ⑤保険の加入義務 : 実習中の事故に備え、インターンシップに参加する学生は全て学生教育災害傷害保険付帯賠償責任保険(学研賠)に加入する。
- ⑥成績評価 : 就業体験に原則として全て出席していることを前提に「事前レポート」、「実習日誌」、「受入担当者報告書」、「実習レポート」の4点を総合的に評価する。
- ⑦ その他
・インターンシップは基本的に無報酬である。交通費については自己負担とする。但し、受入先企業・団体が支給する場合はこの限りでない。
・インターンシップを申し込み、受入先が内定した後は特別な事情がない限り辞退は出来ない。

インターンシップ参加の流れ

インターンシップガイダンスに参加する(募集要項配付) → 出願 → 選考 → 受け入れ先決定・科目登録 → 誓約書を事務局に提出 → 学研賠保険加入申し込み → 大学と受入先が覚書締結 → 事前学習・ビジネスマナー講座に参加する(事前学習レポートを提出する) → 受け入れ先でのインターンシップ実習 → インターンシップ実習日誌及び受入担当者報告書を提出する → 事後学習実習レポートを提出する → インターンシップ報告会に出席(プレゼンテーション) → 成績評価(単位認定)

科目名	インターンシップC
担当教員	就職指導担当教員
授業概要	この授業は以下の3セクションから構成される。 1) 事前学習(学内): ビジネスマナー研修等および事前レポートの提出。 2) 就業体験(学外): 1週間から4週間程度(受け入れ先、学生双方の事情によって決定される)。 インターンシップCは同一の企業・団体等で5日以上の高度な就業体験を要する。 3) 事後学習(学内): 実習レポートの提出および報告会
到達目標	高度な就業体験を通して、学んだ最先端技術や知識を職業としてどのように活かしていくのか具体的に考える。就業体験することにより、高い職業意識を喚起し、更に必要な研究分野についての学習を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: ビジネスマナー研修テキストを配付
成績評価	就業体験に原則として全て参加していることを前提に、 事前レポート20%、就業体験(実習日誌を含む)50%、実習レポート30%

科目名	インターンシップD
担当教員	就職指導担当教員
授業概要	この授業は以下の3セクションから構成される。 1) 事前学習(学内): ビジネスマナー研修等および事前レポートの提出。 2) 就業体験(学外): 1週間から4週間程度(受け入れ先、学生双方の事情によって決定される)。 インターンシップDは同一の企業・団体等で10日以上、または複数の企業・団体等で5日以上、 合計10日以上の高度な就業体験を要する。 3) 事後学習(学内): 実習レポートの提出および報告会
到達目標	高度な就業体験を通して、学んだ最先端技術や知識を職業としてどのように活かしていくのか具体的に考える。就業体験することにより、高い職業意識を喚起し、更に必要な研究分野についての学習を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: ビジネスマナー研修テキストを配付
成績評価	就業体験に原則として全て参加していることを前提に、 事前レポート20%、就業体験(実習日誌を含む)50%、実習レポート30%

【索引】

コード	科目名	対象	頁
	700010 Environmental Sciences in Japan	井手慎司、村上修一、高橋卓也、丸尾 雅啓、伴修平、杉浦 省三、林 宰司、堂満 華子	18
	700020 GIS／リモートセンシング論	岩間憲治、香川雄一	18
	800010 Japanese Culture and Civilization	黒田末壽、石田法雄、富島義幸、クリンガー、面矢慎介	71
	770010 NC工作機械	中川平三郎	56
あ	930030 アジア・地域文化論特別演習	専攻教員	144
	930040 アジア・地域文化論特別研究	専攻教員	145
	810020 アジア考古学A	定森秀夫、濱崎一志	73
	810030 アジア考古学B	定森秀夫、濱崎一志	73
	710010 安全防災計画学	高田豊文、小濱芳朗※	28
い	710010 遺伝子工学特論	入江俊一、清水顕史	19
	760220 遺伝子生化学	松岡健※	48
	800020 異文化接触論	石田法雄、クリンガー、呉凌非	71
	820010 衣料素材・染色科学特論	道明美保子	84
	601040 インターンシップC	就職指導担当教員	158
	601050 インターンシップD	就職指導担当教員	158
う	820140 運動処方学特論	寄本明、南和広	87
え	820150 栄養応答論	福渡努	87
	820160 栄養機能科学特論	吉田宗弘※、渡辺達夫※、吉村徹※	87
	820170 栄養教育特論	吉田龍平	88
	820180 栄養制御論	柴田克己	88
	900010 エコ・テクノロジー特論	学座教員	127
	760020 エネルギー変換材料	菊地憲次	48
お	770020 応用数理解析	松下泰雄	56
	770030 応用メカトロニクス論	未定	56
	770040 応用流体力学	安田孝宏	57
か	710020 化学物質動態論	須戸幹	19
	850010 家族看護学特論	古株ひろみ、植村小夜子	105
	820360 学校教育・生活指導論特講	吉田一郎、篠原岳司、木村裕	93
	820190 学校栄養教育実践特論	大谷真美子※	88
	910100 環境意匠特別演習Ⅰ	専攻教員	135
	910110 環境意匠特別演習Ⅱ	専攻教員	135
	910120 環境意匠特別研究	専攻教員	135
	910200 環境意匠特論	専攻教員	138
	710020 環境開発論	秋山道雄	28
	910160 環境科学特論	専攻教員	137
	760030 環境機能材料	熊谷勉	48
	710030 環境計画学特別演習ⅠA	専攻教員	28
	710040 環境計画学特別演習ⅠB	専攻教員	29
	710050 環境計画学特別演習ⅡA	専攻教員	29
	710060 環境計画学特別演習ⅡB	専攻教員	29
	710070 環境計画学特別演習Ⅲ	専攻教員	30
	710080 環境計画学特別演習Ⅳ	専攻教員	30
	710090 環境計画学特別研究Ⅰ	専攻教員	30
	710100 環境計画学特別研究Ⅱ	専攻教員	31
	710110 環境政策形成過程論	金谷健、未定、柴田裕希	31
	710120 環境設計特論	布野修司	31
	710130 環境造形特論	松岡拓公雄	32
	710030 環境動態学特別演習Ⅰ	専攻教員	19
	710040 環境動態学特別演習Ⅱ	専攻教員	20
	710050 環境動態学特別研究Ⅰ	専攻教員	20
か	710060 環境動態学特別研究Ⅱ	専攻教員	20
	710070 環境動態学プレゼンテーションⅠ	専攻教員	21
	710080 環境動態学プレゼンテーションⅡ	専攻教員	21
	700300 環境リスク論	井手慎司	18
	850020 看護管理論	清水房枝	105
	851010 看護技術学演習	伊丹君和	110
	851020 看護技術学特論	伊丹君和	110
	850030 看護教育論	池西悦子※	105

コード	科目名	対象	頁
	850050 看護研究方法論Ⅰ	岩谷澄香、泊祐子※、浅野弘明※	106
	850060 看護研究方法論Ⅱ	奥津文子、横井和美	106
	850070 看護政策論	飯降聖子、勝又浜子※	106
	850080 看護理論	奥津文子	107
	851030 看護臨床の人間形成特論	未定	110
	851040 看護臨床の人間形成特論演習	未定	111
	850090 看護倫理	糸島陽子、澤田愛子※	107
	810060 環琵琶湖地域論A	水野章二、東幸代、武田俊輔	73
	810070 環琵琶湖地域論B	水野章二、東幸代、武田俊輔	74
	810090 環琵琶湖保存修景計画論A	濱崎一志、石川慎治	74
	810100 環琵琶湖保存修景計画論B	濱崎一志、石川慎治	74
き	770060 機械運動論	栗田裕	57
	920030 機械工学特論	専攻教員	140
	770070 機械システム工学特別演習	専攻教員	57
	770080 機械システム工学特別実験	専攻教員	58
	920040 機械システム工学特論	専攻教員	141
	760050 機能界面化学	秋山毅	49
	851050 基盤看護学特別研究	専攻教員	111
	770090 強度設計工学	田邊裕貴	58
	710140 居住環境工学	伊丹清	32
	760060 金属機能材料プロセッシング	宮村弘	49
	760070 金属材料物性	近藤淳哉	49
く	820020 空間デザイン特論	佐々木一泰	84
け	850100 継続療養特論	森敏	107
	851060 形態機能・生体機構学演習	安原治	111
	851070 形態機能・生体機構学特論	安原治	112
	930130 研究方法特論	専攻教員	148
	760080 研究マネジメント	研究科教員	46
	820200 健康運動学特論	寄本明、南和広	89
	930090 健康栄養論特別演習	専攻教員	146
	930100 健康栄養論特別研究	専攻教員	147
	770100 現代数理概論	谷口義治	58
	800030 現代生活論Ⅰ	灘本知憲、森下あおい、亀田彰喜、呉凌非、佐々木一泰	71
	800040 現代生活論Ⅱ	吉田一郎、那須光章、大橋松行、竹下秀子、細馬宏通	72
	810120 現代中国特論A	荒井利明	75
	810130 現代中国特論B	荒井利明	75
	710150 建築技術特論	陶器浩一	32
	710160 建築計画特論	ホアン・ラモン	33
	710170 建築構造特論	高田豊文	33
	710180 建築史特論	富島義幸	33
	710190 建築設計特論	柴田いづみ	34
	710200 建築デザイン特論	高柳英明	34
こ	810140 考現学・保存修景特論	濱崎一志、面矢慎介	75
	930050 考現学・保存修景論特別演習	専攻教員	145
	930060 考現学・保存修景論特別研究	専攻教員	145
	760090 構造・化学機能セラミックス	吉田智	50
	760100 酵素化学	熊谷勉、竹原宗範	50
	820210 行動学特論	上野有理、細馬宏通	89
	820370 行動発達論特講	竹下秀子、松嶋秀明	94
	760110 高分子材料合成	谷本智史	50
	760120 高分子材料物性	徳満勝久	51
	710210 国際農林環境政策論	富岡昌雄、高橋卓也	34
	900020 コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ	学座教員	127
	900030 コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ	学座教員	127
	900040 コミュニティ・マネジメント特論	学座教員	128
	850110 コンサルテーション論	甘佐京子、吉田智美※	108
	770110 混相流工学	南川久人	59
さ	770120 最適化システム論	森脇克巳	59

コード	科目名	対象	頁
	760130 材料科学特別演習	専攻教員	51
	760150 材料科学特別実験	専攻教員	51
	760170 材料プロセス熱力学	松岡純	52
	710220 参加型計画運営論	近藤隆二郎、小野奈々	35
し	710230 資源循環と国際貿易	林宰司、増田清敬	35
	710090 持続的生物生産論	上田邦夫、泉泰弘	21
	820030 室内環境計画特論	宮本雅子	84
	820220 児童健康問題特論	福井富穂	89
	820380 社会・地域変動論特講	大橋松行	94
	810150 社会学特論A	武田俊輔	76
	810160 社会学特論B	武田俊輔	76
	820390 社会学特講	中村好孝、丸山真央	94
	710100 集水域環境論	三田村緒佐武、後藤直成、肥田嘉文	22
	852010 生涯健康看護学特別研究	専攻教員	117
	820230 小児医学特論	多賀崇※、高野知行※、松井克之※	90
	852020 小児家族看護学演習	古株ひろみ	117
	852030 小児家族看護学特論	古株ひろみ	117
	820240 食素材特論	灘本知憲	90
	820250 食品栄養特論	小西洋太郎※、伏木亨※、木戸康博※	90
	820260 食品機能論	浦部貴美子	91
	710110 植物遺伝資源論	長谷川博	22
	710120 植物資源管理論	原田英美子	22
	820270 食文化特論	堀越昌子※	91
	810190 女性史・ジェンダー論A	京楽真帆子、河かおる	76
	810200 女性史・ジェンダー論B	京楽真帆子、河かおる	77
	770130 信頼性工学	高松徹	59
	710130 森林生態学特論	野間直彦、浜端悦治	23
	850120 人類科学特論	安原治	108
す	710140 水圏生態系動態論	伴修平、熊谷道夫、永淵修	23
	851080 スピリチュアルケア展開演習	未定	112
せ	710240 生活空間計画学	迫田正美	35
	930070 生活デザイン論特別演習	専攻教員	146
	930080 生活デザイン論特別研究	専攻教員	146
	820280 生活文化学特別演習(健康栄養分野)	専攻教員	91
せ	820050 生活文化学特別演習(生活デザイン分野)	専攻教員	85
	820400 生活文化学特別演習(人間関係分野)	専攻教員	95
	820300 生活文化学特別研究(健康栄養分野)	専攻教員	92
	820070 生活文化学特別研究(生活デザイン分野)	専攻教員	85
	820420 生活文化学特別研究(人間関係分野)	専攻教員	95
	710150 生産環境管理論	鈴木一実、沢田裕一	23
	851090 精神看護援助方法論	甘佐京子	112
	851100 精神看護関連技法演習	甘佐京子	113
	852040 成人継続看護学演習	奥津文子、横井和美、荒川千登世、糸島陽子	118
	852050 成人継続看護学特論	奥津文子	118
	852060 成人健康支援演習	森敏	118
	852070 成人健康支援特論	森敏	119
	851110 精神の健康生活評価法	松本行弘	113
	850130 生体感染特論	山田明	108
	760191 生体機能化学特論	井上善晴※	52
	710160 生態系影響論	浦部美佐子、丸尾雅啓	24
	910040 生態系保全特別演習 I	専攻教員	133
	910050 生態系保全特別演習 II	専攻教員	133
	710170 生態系保全特別講義	鹿野雄一※、寺井久慈※、高倉耕一※	24
	910180 生態系保全特論	専攻教員	137
	910060 生態系保全特別研究	専攻教員	133
	910010 生物圏環境特別演習 I	専攻教員	132
	910020 生物圏環境特別演習 II	専攻教員	132
	910030 生物圏環境特別研究	専攻教員	132

コード	科目名	対象	頁
910170	生物圏環境特論	専攻教員	137
710180	生物圏環境論	堀野治彦※、柳哲雄※	24
710190	生物社会共生論	西田隆義	25
910070	生物生産特別演習Ⅰ	専攻教員	134
910080	生物生産特別演習Ⅱ	専攻教員	134
910090	生物生産特別研究	専攻教員	134
910190	生物生産特論	専攻教員	138
710200	生物多様性論	荒木希和子※	25
770140	切削加工学	田中他喜男	60
920070	先端工学特別研究	専攻教員	142
920060	先端工学特別演習	専攻教員	141
920050	先端工学特論	専攻教員	141
760220	先端複合材料科学	佐川尚※	47
760230	先端無機材料科学	高橋亮治※	52
760240	先端有機材料科学	坂本健吉※	53
た	710210 大気水圏環境論	倉茂好匡、堂満華子	25
ち	910130 地域環境経営特別演習Ⅰ	専攻教員	136
	910140 地域環境経営特別演習Ⅱ	専攻教員	136
	910150 地域環境経営特別研究	専攻教員	136
	910210 地域環境経営特論	専攻教員	138
	851120 地域看護学演習	飯降聖子、未定	113
	851130 地域看護学実践演習	未定	114
	851140 地域看護学特論	飯降聖子	114
	851150 地域看護技術演習	植村小夜子、未定	114
	851160 地域看護技術特論	植村小夜子	115
	710250 地域空間計画学	水原渉	36
ち	900050 地域再生学特論	学座教員	128
	900060 地域再生システム特論	学座教員	128
	810220 地域産業論A	塚本礼仁	77
	810230 地域産業論B	塚本礼仁	77
	710260 地域資源経営論	増田佳昭	36
	820320 地域食育実践学特論	岡本秀己	92
	900070 地域診断法特論	学座教員	129
	820090 地域生活空間特論	山根周	85
	810240 地域展開論A	黒田末壽	78
	810250 地域展開論B	黒田末壽	78
	810260 地域文化遺産調査・情報論	濱崎一志、石川慎治	78
	810270 地域文化学特別演習	専攻教員	79
	810290 地域文化学特別研究	専攻教員	79
	770150 知的生産システム	奥村進	60
	810310 中国文化史特論	辻正博※	79
	810320 朝鮮史特論A	河かおる	80
	810330 朝鮮史特論B	田中俊明	80
820330 調理科学特論	松井元子※	92	
て	760250 電子・光機能セラミックス	吉田智	53
	750010 電子システム特論	稲葉博美、乾義尚、柳澤淳一、福岡克弘、竹内日出雄、坂本真一	46
	750020 電子情報特論	作田健、奥村進、松下泰雄、岸根桂路、宮城茂幸、畑中裕司	46
	760260 天然高分子材料	廣川能嗣	53
と	820100 道具デザイン特論Ⅰ	面矢慎介	86
	820110 道具デザイン特論Ⅱ	印南比呂志	86
	770160 動的システム論	未定	60
	710220 動物生産環境論	岡野寛治、杉浦省三	26
	710230 土壌圏環境論	皆川明子	26
	810340 トランス・ヒマラヤ文化論	棚瀬慈郎	80
に	930010 日本・地域文化論特別演習	専攻教員	144
	930020 日本・地域文化論特別研究	専攻教員	144
	810360 日本考古学A	定森秀夫、中井均	81
	810370 日本考古学B	定森秀夫、中井均、大道和人※	81

コード	科目名	対象	頁
	810380 日本生活文化論	市川秀之、石川慎治、米田実※	81
	930110 人間関係論特別演習	専攻教員	147
	930120 人間関係論特別研究	専攻教員	147
ね	770170 熱システム工学	山根浩二	61
	770180 燃焼工学	河崎澄	61
は	720390 廃棄物とリサイクル	富岡昌雄、金谷健	36
ひ	820440 比較行動論特講	細馬宏通、上野有理	95
	760270 光子物性論	奥健夫	54
	810400 美術史特論A	亀井若菜	82
	810410 美術史特論B	亀井若菜	82
	760280 非晶質無機材料	松岡純	54
	770190 非線形制御論	安田寿彦	61
	851170 病原微生物制御・疫学演習	山田明	115
	851180 病原微生物制御・疫学特論	山田明	115
	770200 品質工学	奥村進	62
ふ	760290 複合材料工学	山下義裕	54
	820130 服飾デザイン特論	森下あおい	86
	710240 物質循環論	永淵修、倉茂好匡、浜端悦治、尾坂兼一	26
ほ	810420 北東アジア地域史A	田中俊明	82
	810430 北東アジア地域史B	ブレンサイン、河かおる	83
	852080 母性看護学演習	炭原加代、岩谷澄香	119
	852090 母性看護学特論	炭原加代、岩谷澄香、大脇万起子	119
ま	853010 慢性看護学課題研究	奥津文子、横井和美、糸島陽子	122
	853020 慢性看護学実習Ⅰ	奥津文子、横井和美	122
	853030 慢性看護学実習Ⅱ	横井和美、奥津文子	122
	853040 慢性看護学特論A	奥津文子、横井和美	123
	853050 慢性看護学特論B	奥津文子、横井和美、角野文彦※	123
	853060 慢性看護支援論A	奥津文子、横井和美、竹村節子※	123
	853070 慢性看護支援論B	奥津文子、横井和美	124
	853080 慢性看護支援論C	横井和美、奥津文子、伊波早苗※	124
	853100 慢性看護支援論演習	横井和美、奥津文子、森敏	124
み	710250 水資源環境論	金木亮一	27
む	920010 無機材料特論	専攻教員	140
	760300 無機ナノ粒子工学	バラチャンドラン・ジャヤデワン	55
め	851190 メンタルケア展開演習	松本行弘	116
も	810450 モンゴル・ディアスポラ論A	ブレンサイン、島村一平	83
	810460 モンゴル・ディアスポラ論B	ブレンサイン、島村一平	83
や	850140 薬物治療学	土田勝晴※、竹内孝治※	109
ゆ	760310 有機材料設計	井上吉教	55
	920020 有機材料特論	専攻教員	140
よ	800050 ヨーロッパ地域文化論	上村盛人、外狩章夫、長島律子、山本薫	72
ら	720400 ランドスケープデザイン特論	村上修一	37
り	710260 陸面過程論	小谷廣通	27
	930140 リサーチ・ワークショップ	専攻教員	148
	820340 臨床栄養管理研究	福井富穂	93
	820350 臨床栄養血液学	高山博史	93
	850150 臨床対人関係特論	松本行弘	109
ろ	852100 老年看護援助展開演習	北村隆子、畑野相子	120
	852110 老年看護援助論	北村隆子、畑野相子	120
	852120 老年健康生活特論	北村隆子	120
	852130 老年健康生活評価演習	北村隆子	121
	852140 老年サポート技術演習	未定	121